

使い方の手びき



デイスコンピューター
メモリーグラフ 6000

すてきな夢を描いてみましょう。



ジャノメ・メモリークラフトをお買い上げいただきましてありがとうございます。
エレクトロニクス全盛の今、個性豊かな暮らしと、心の充足が求められています。
創業以来60年、ミシン一筋のジャノメが世界に誇る、このコンピューターミシンで、
クラフトの楽しさと暮らしの彩りをあなたに贈ります。

“メモリークラフトであなただけの クラフト作品・ファッションを楽しみましょう”

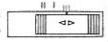
- ひらがな・数字・アルファベットからペンギン・チューリップにいたるまで、144種類もの縫い方がキーに触れるだけで選べます。
これはジャノメの技術が生んだ新しい世界です。
- 一度に31種類もの模様を連続して記憶させたり、反転させたり、そのうえ模様の拡大・縮小もできます。
Yシャツやハンカチに名前やイニシャルを入れたり、文章をつづたり、ワンポイント模様を楽しむのも素敵ですね。
- もちろん、実用縫いも万全です。直線縫い・かがり縫いからボタンホールまで、ソーイングに必要な縫いは、すべてコンピューターが記憶しています。洋裁が苦手な人もこの一台で大丈夫。
- これは不思議、ひとつ縫うとコンピューターが自動的にサイズを記憶し、同じ大きさのボタンホールがコントローラーを踏むだけでいくつでも。
厚物の重ね縫いから薄物まで、コンピューター制御でらくらくソーイング。
- 操作は簡単、電源を入れると直線縫いに自動セットされます。
組み合わせ模様の確認や取り消しが容易にでき、針の上下停針機能もそなえるなど、使いやすさはバツグンです。
- 水平全回転釜を使用しており、ボビンケースは不要です。
ボビンの出し入れが簡単で、しかも下糸の残量を見ながら縫えます。
- 両手が自由に使えるフットコントローラー、音もぐ〜んと静かになり、給油も不要です。又、広い作業面は、スライドさせるだけで、フリーアームに早変わり。
- コンピューターの中に自己診断回路を内蔵させました。
ミシン自身が縫い機能をチェックする安全設計です。
- 軽量でコンパクト、手さげハンドルもついて、持ち運びや収納が容易になりました。
シンプルなデザインもあなたのセンスにぴったりです。
- 全国の支店では、ソーイングクラフト教室も開講しております。
このミシンで素敵な作品に挑戦してください。



目次

●各部の名まえ	4～5
---------	-----

操作をおぼえましょう

●電源をつなぎましょう	6
●速度の調節になれましょう	7
●照明ランプ	7
●下糸の準備をしましょう	8～9
●上糸の準備をしましょう	10～13
●布に適した糸や針を選ぶ目安	14
●糸調子を合わせましょう	15
●直線縫い	16～17
★縫いはじめ	16
★縫い方向をかえるには	17
★縫いおわりの返し縫い	17
●押えのとりかえ	18～19
●針のとりかえ	20
●針の上下とほつれ止め	21
●模様の選び方	22～23
★  のときの模様の選び方	22
★  または  のときの模様の選び方	22～23
★  を試し縫いしましょう	23
●プログラム縫い	24～32

★ワンポイント縫いの例()	24
★ワンサイクル縫いの例()	25
★数字と文字の組み合わせ縫いの例 01 69 91 40 01 53 77 (1ねん-1くみ)	26
★止め縫いを使った模様縫いの例 ()	26
★イニシアル縫いの例(A. B.)	27
★名まえ縫いの例(やまた*)	27
★連続模様縫いの例	28
★プログラムするときに 知っておきたいこと	29
★プログラムするときの模様の単位 (ワンポイント縫い)	30
★プログラムするときの模様の単位	31
★プログラム縫いを途中でやめたとき	32

実用縫いいろいろ

●直線状の縫い目いろいろ	33～35
●シグザグ縫い	36
●裁ち目かがりとかがり縫いステッチ	36～37
●ボタン穴かがり(ボタンホール)	38～40
●芯入りボタン穴かがり	40～41
●ボタンつけ	42

●くけ縫い(まつり縫い)	43
●ファスナーつけ	44～47
●しつけ	48
●ダーニング(つくろい縫い)	49
●三つ巻き縫い	50～51

応用縫いいろいろ

●スーパー模様縫い	52
●エロンゲータ縫い	52
●ギャザーよせ	53
●レースつけ	53
●スモッキング	54
●キルティング	54
●スカラップ	55
●ピンタック	56～57
●コーティング	58
●広巾コーティング	59
●アップリケ	59
●パッチワーク	59
●ドロンワーク	60
●カットワーク	60
●貝形ふちかがり(ブランケットステッチ)	61
●シェルタック	61

●フリンジ縫い	62
●ファゴティング	62
●飾りステッチ	62
●糸を使ったフリンジ	63
●ならび模様縫い	64
●粒縫い	65
●砂縫い	65
●クロスステッチ	66
●ほかし縫い	67
●プログラムの確認と訂正	68～69
●ししゅう枠の使い方	70
●模様の形の整え方	71～73

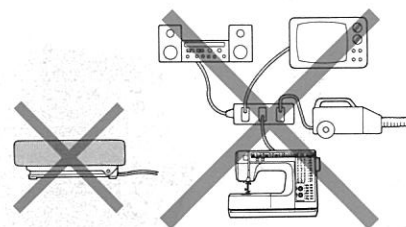
ミシンの手入れと調整

●かまの掃除	74
●かまの分解	74
●かまと送り歯の掃除	75
●かまの組立て	75
●外装の手入れ	76
●下糸調子の出し方	76
●電球のとりかえ	76
●ミシンの調子が悪いときの直し方	77～79
●標準付属品	80

●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために……

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 使用後
 - ミシンのそばをはなれるとき
 - 部品をつけたり、はずしたりするとき
 - ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には、物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。

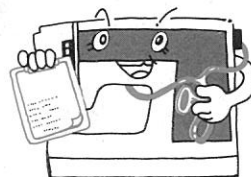


★ご使用の前に……

- ①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。
- ②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、早見板やこの《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために……

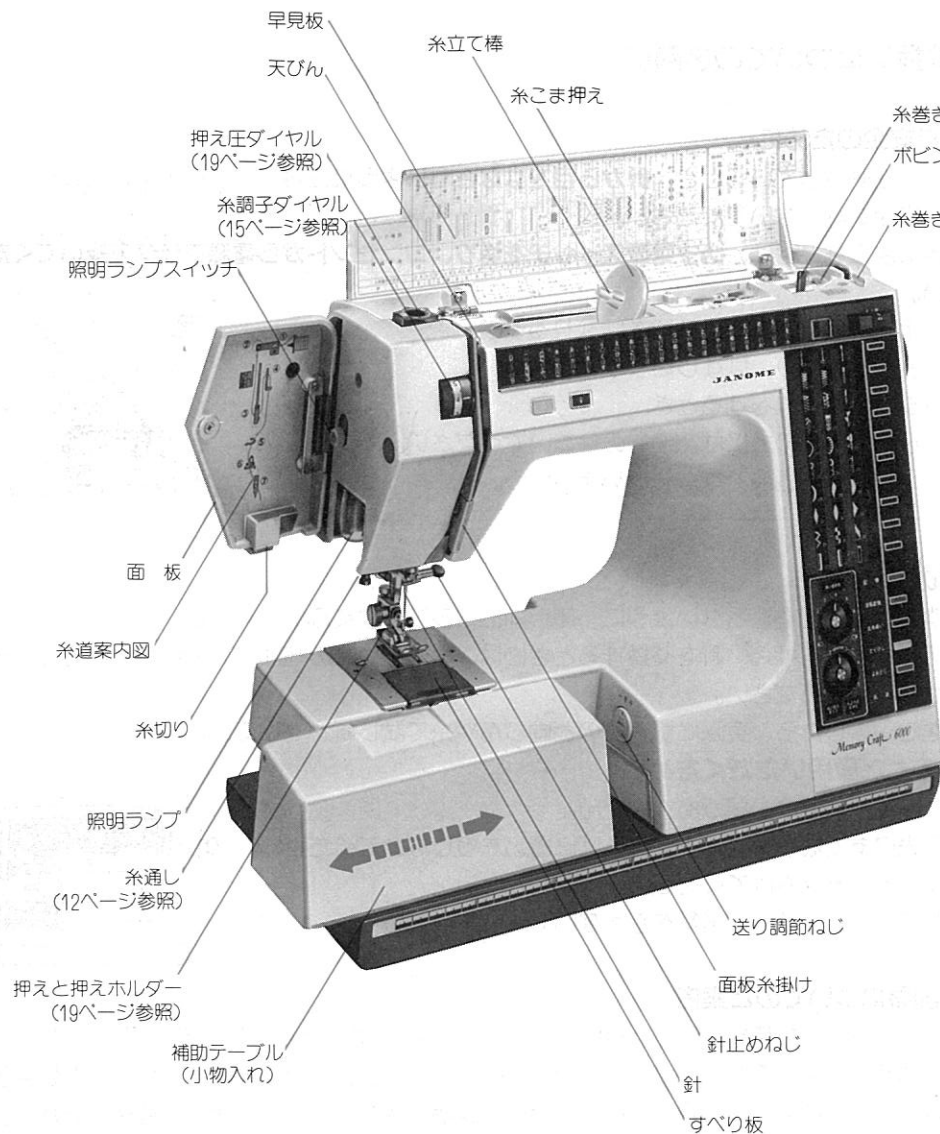
- ①このミシンは、注油の必要がありません。
- ②長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ③湿気の多いところはさけてください。
- ④落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。



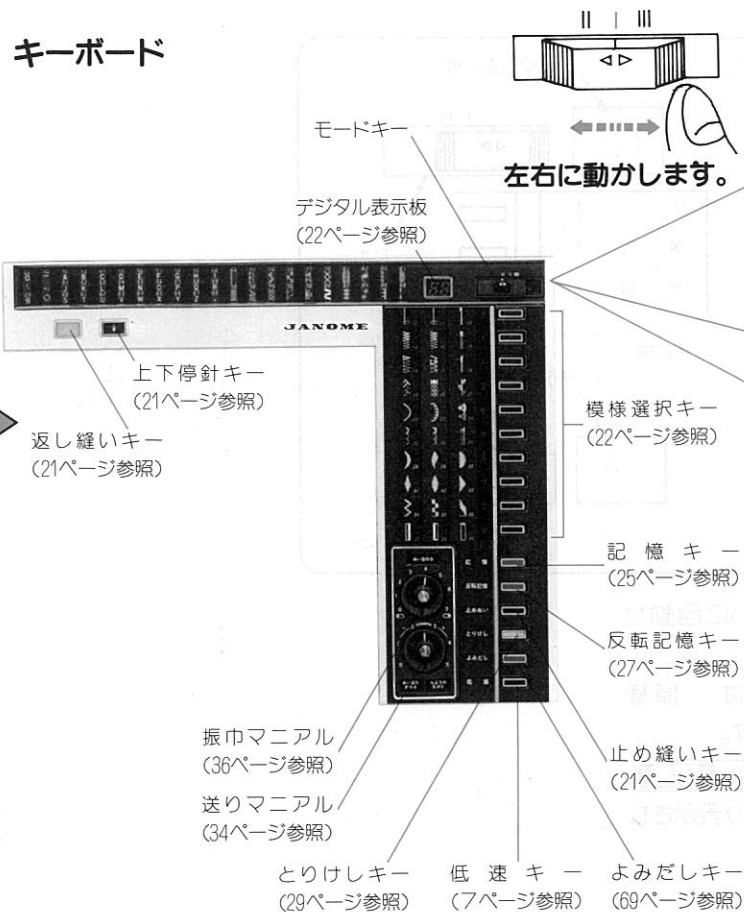
●修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(77～79ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、縫い機能をチェックする自己診断回路を内蔵していますので、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

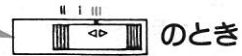
各部の名まえ



キーボード



00	40	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99																																																																																		
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	.	/	+	=	-	*	%	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	1/32	1/33	1/34	1/35	1/36	1/37	1/38	1/39	1/40	1/41	1/42	1/43	1/44	1/45	1/46	1/47	1/48	1/49	1/50	1/51	1/52	1/53	1/54	1/55	1/56	1/57	1/58	1/59	1/60	1/61	1/62	1/63	1/64	1/65	1/66	1/67	1/68	1/69	1/70	1/71	1/72	1/73	1/74	1/75	1/76	1/77	1/78	1/79	1/80	1/81	1/82	1/83	1/84	1/85	1/86	1/87	1/88	1/89	1/90	1/91	1/92	1/93	1/94	1/95	1/96	1/97	1/98	1/99	1/100



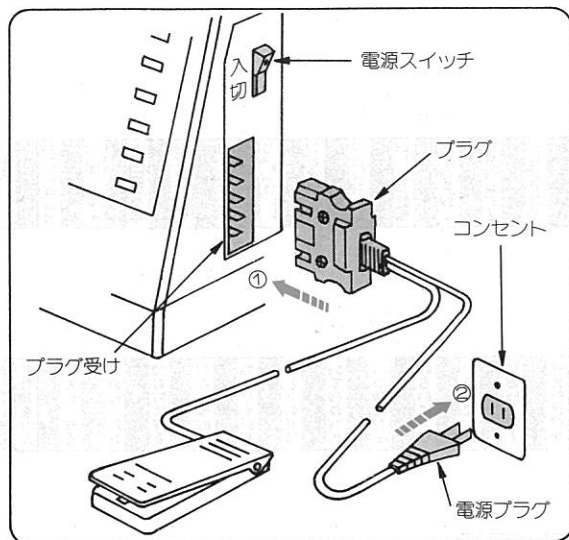
00	40	42	44	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99																																																																																				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	.	/	+	=	-	*	%	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	1/32	1/33	1/34	1/35	1/36	1/37	1/38	1/39	1/40	1/41	1/42	1/43	1/44	1/45	1/46	1/47	1/48	1/49	1/50	1/51	1/52	1/53	1/54	1/55	1/56	1/57	1/58	1/59	1/60	1/61	1/62	1/63	1/64	1/65	1/66	1/67	1/68	1/69	1/70	1/71	1/72	1/73	1/74	1/75	1/76	1/77	1/78	1/79	1/80	1/81	1/82	1/83	1/84	1/85	1/86	1/87	1/88	1/89	1/90	1/91	1/92	1/93	1/94	1/95	1/96	1/97	1/98	1/99	1/100



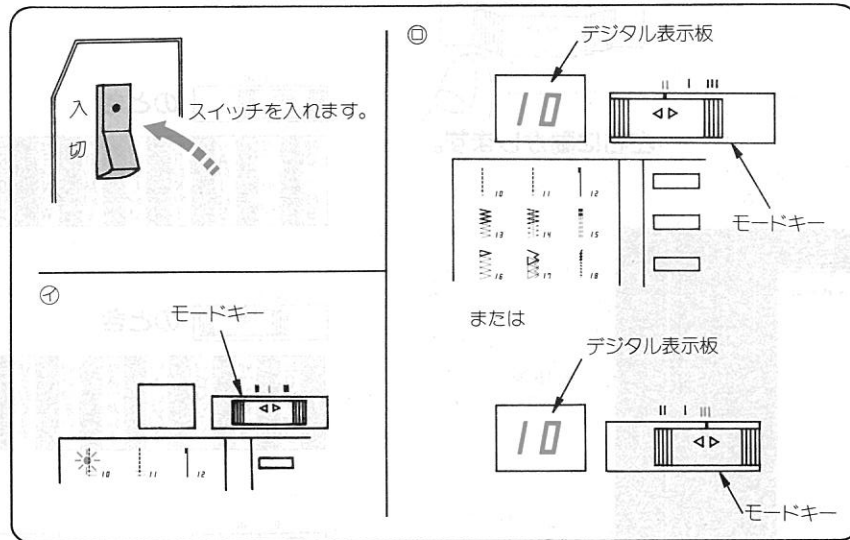
		
		
		
		
		
		

電源をつなぎましょう

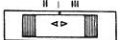
操作をおぼえましょう

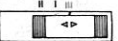


電源スイッチを「切」にして、①、②の順に、プラグをさしこみます。



スイッチを「入」にすると直線縫いに自動セッットされます。

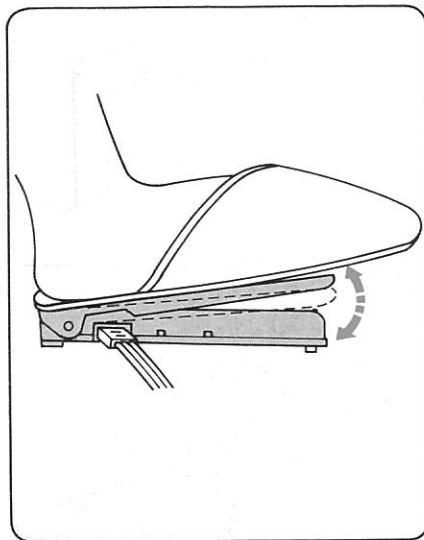
①モードキーが  のときは、模様  に赤いシグナルがつきます。

②モードキーが  または  のときは、デジタル表示板に「10」が表示されます。

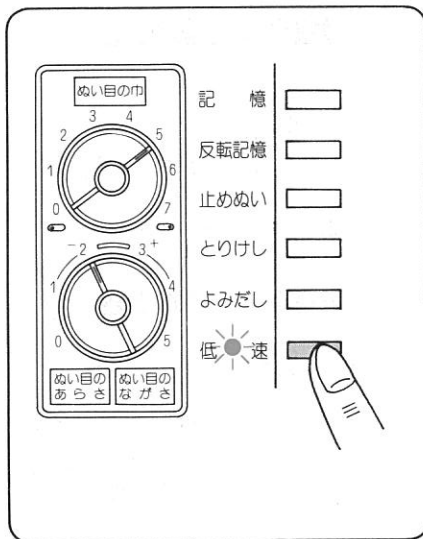
* 電源は、一般家庭用(100V 50/60Hz)です。

* ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

速度の調節になれましょう

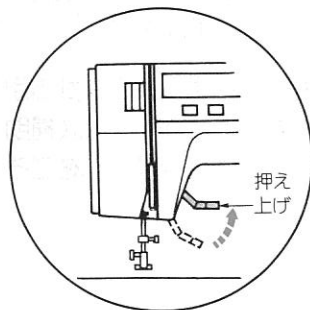


コントローラーは、深く踏みこむほど、速くなります。



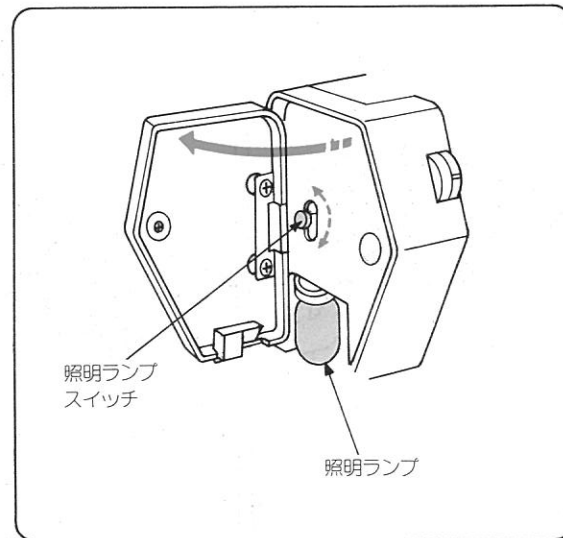
低速キーを押すと赤いシグナルがついて、コントローラーの踏みこみが同じでも、ゆっくりになります。

もう1度キーを押すと、シグナルが消えて、自動セットの速さに戻ります。



* 押え上げをあげ、コントローラーを踏んで、踏みこみと速さの関係になれてください。

照明ランプ

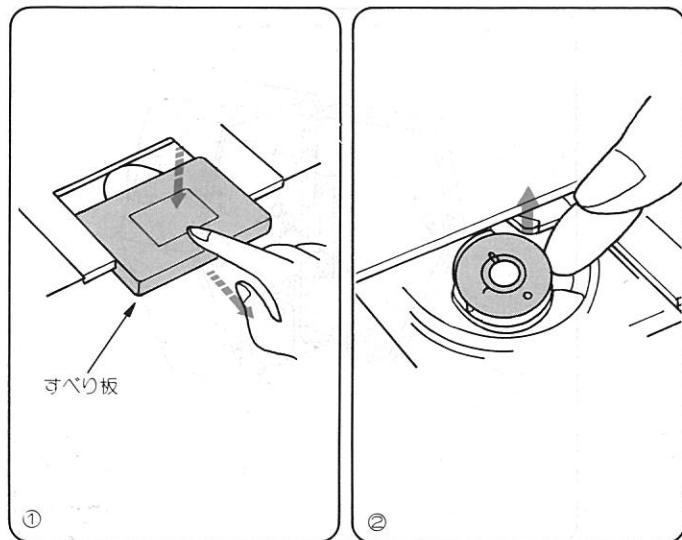


照明ランプの点滅は、スイッチをまわします。

* 安全のためにランプはとりつけたままにしてください。

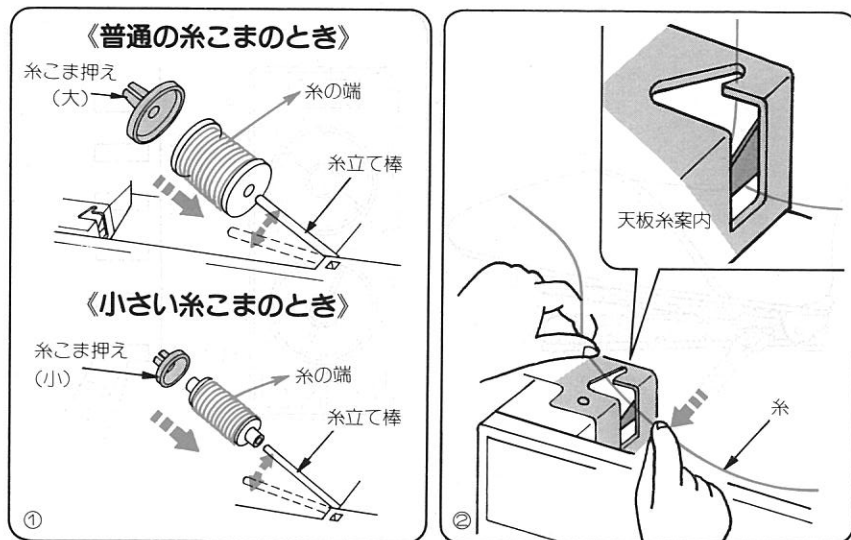
下糸の準備をしましょう

★ボビンをとり出します



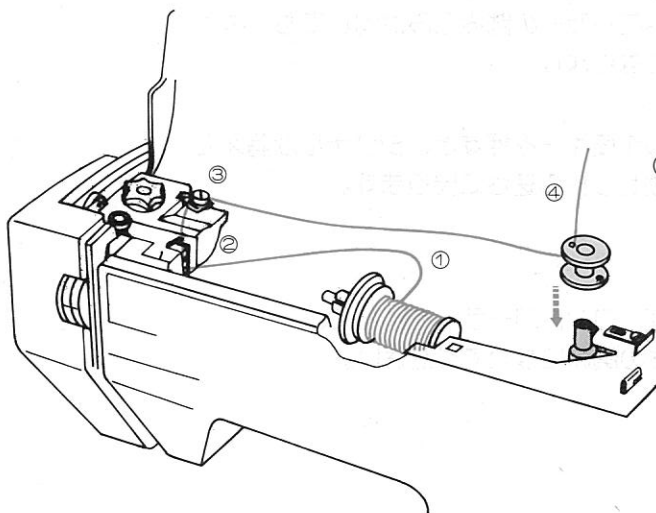
- ①すべり板を下に押しながら手前に引いては
ずします。
②ボビンをとり出します。

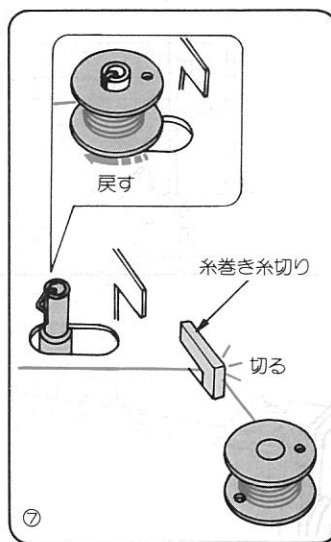
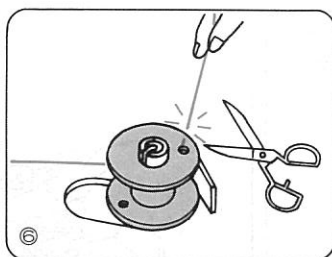
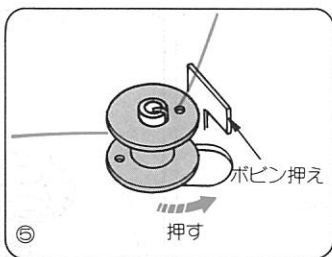
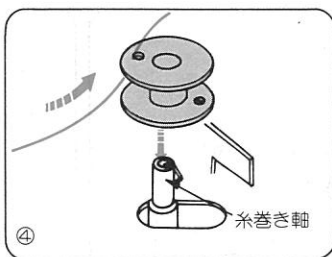
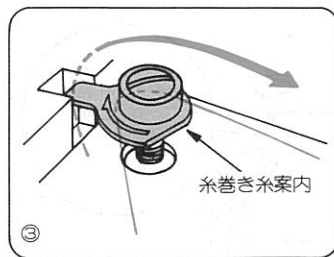
★ボビンに糸を巻きます



- ①糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側
に出るようにして糸こまを入れます。
糸こま押えで糸こまをおさえたら、糸立て
棒をもとに戻します。
②糸こまから引き出した糸を、天板糸案内に
押しつけるようにして、掛けます。

*補助糸立て棒を使うときは、糸こまから引
き出した糸を③、④の順に掛けます。(補助
糸立て棒のとりつけ方は、56ページをごら
んください。)





③糸巻き糸案内に糸を掛けます。

④ボビンの穴に内側から糸を通します。

⑤ボビンを、ボビン押えの方に押しつけます。

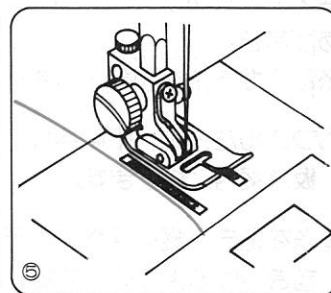
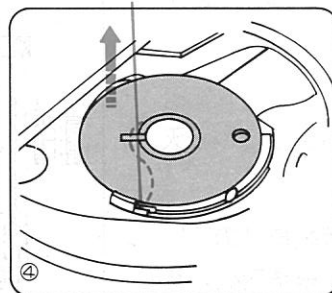
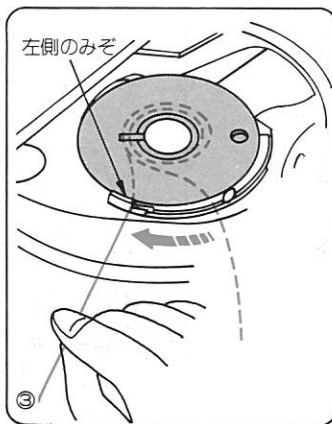
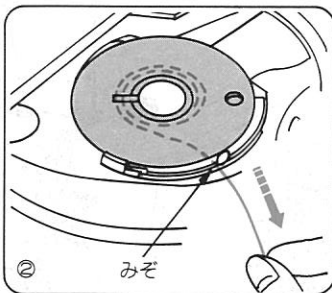
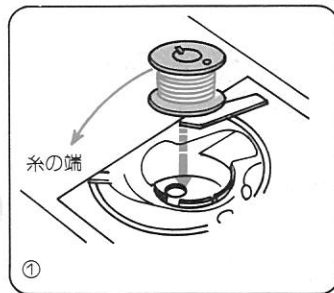
*糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

⑥糸の端をつまんだまま、コントローラーを軽く踏みはじめます。ボビンに糸が三重く

らい巻きついたら、いったん踏みこみを止めて糸を切ります。

⑦コントローラーをふたたび踏んで、巻きおわるとボビンの回転が止まります。コントローラーの踏みこみを止めてボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして、糸巻き切りで糸を切ります。

★ボビンをかまにセットします



①糸の端を矢印方向に出します。

②糸の端を引きながら、手前のみぞに掛けます。

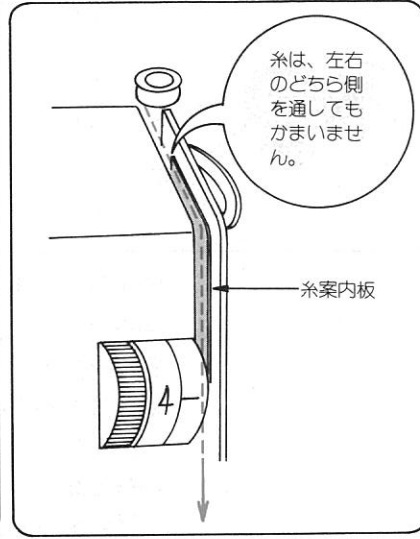
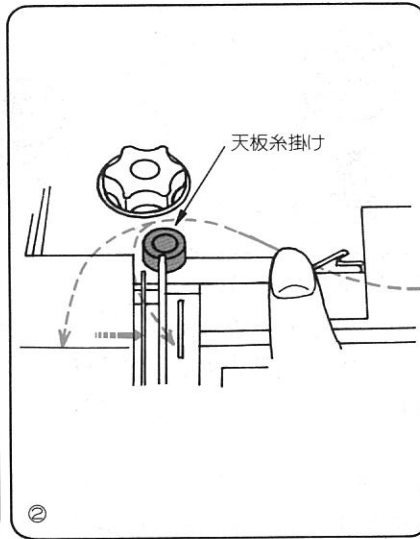
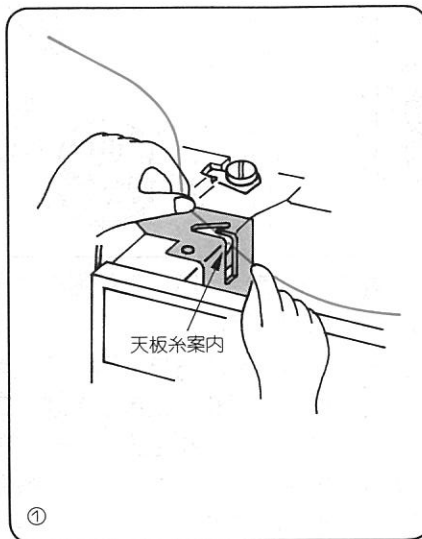
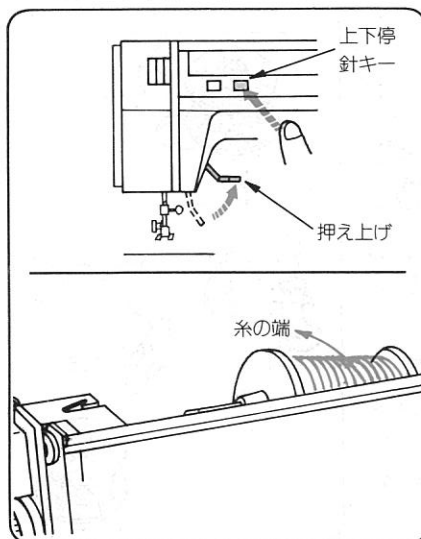
③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通過して、左側のみぞのところにします。

④糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出します。

⑤下糸は10cmくらい引き出して、すべり板をしめます。

上糸の準備をしましょう

上糸を掛けます



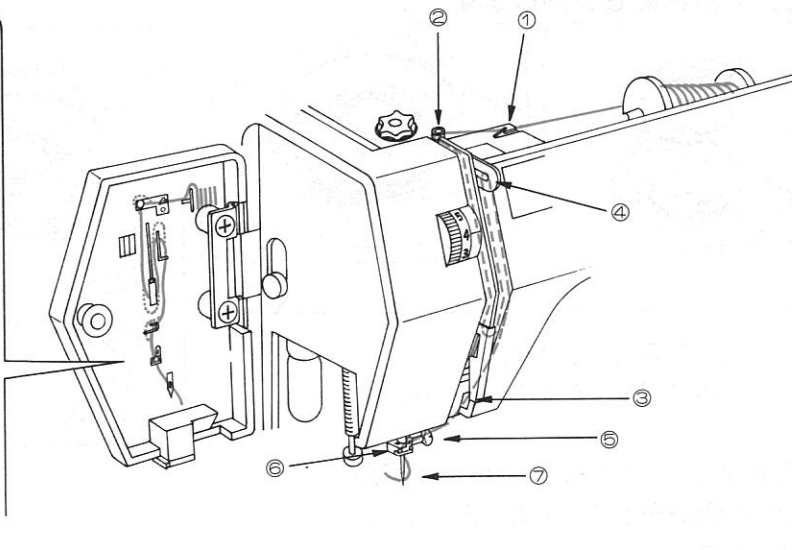
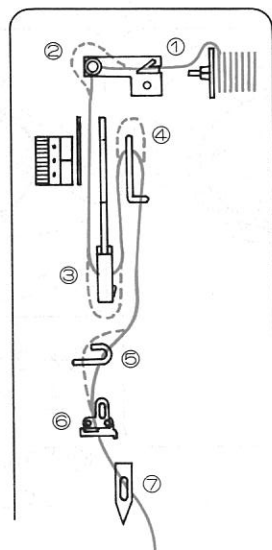
押え上げをあげ、上下停針キーを押して針をあげます。

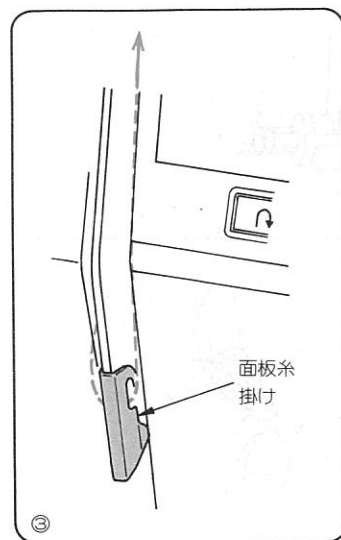
糸こまから糸を引き出します。

①つまんだ糸を、下に押しこむようにして天板糸案内に掛けます。

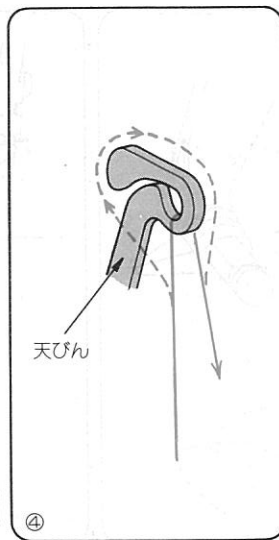
②糸を指先で軽く押さえ、天板糸掛けの下に巻きつけるようにして掛け、糸案内板にそっておろします。

* 糸道案内図は面板内側にあります。

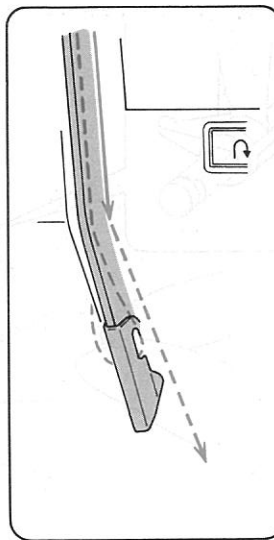




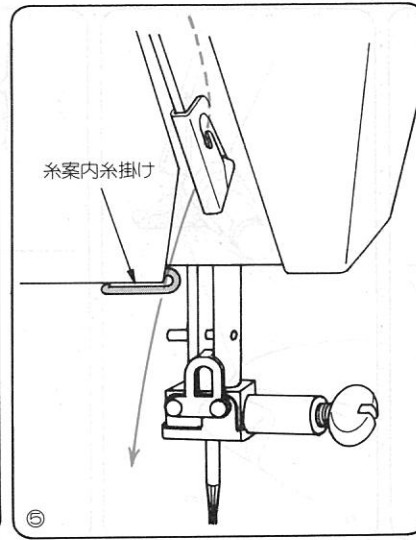
③面板糸掛けの下をまわして、右上に引きあげます。



④天びんに、左からうしろへまわして右手前に出し、まっすぐ下におろします。

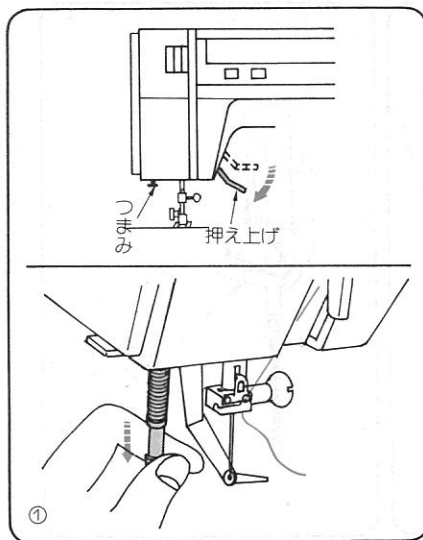


⑤糸案内糸掛けに右から左に掛けます。

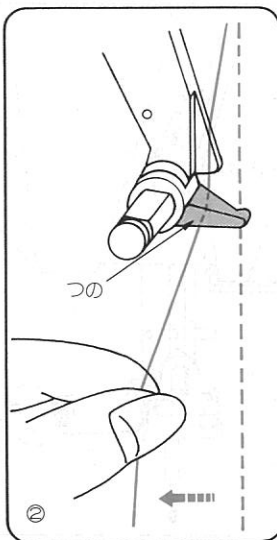


⑥針棒糸掛けに左から掛けます。

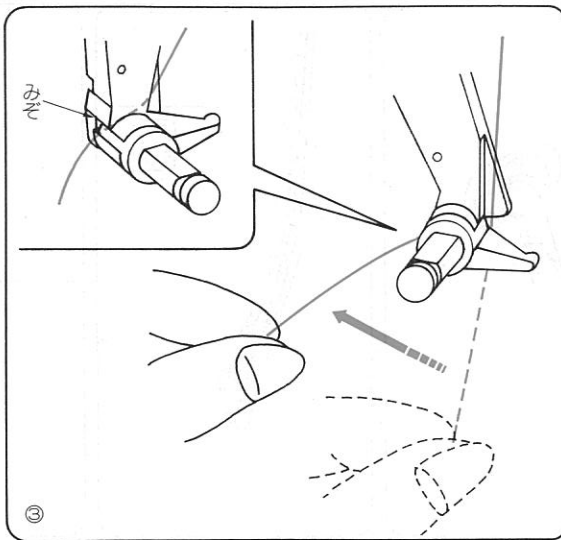
★糸通しを使って針に糸を通します



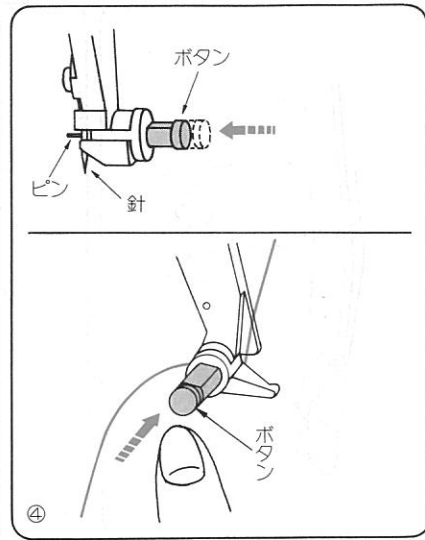
①押え上げをさげます。糸通しのつまみを、止まるまでいっぱい、引きさげます。



②糸を、つの向こう側に掛けて、左にすべさせます。



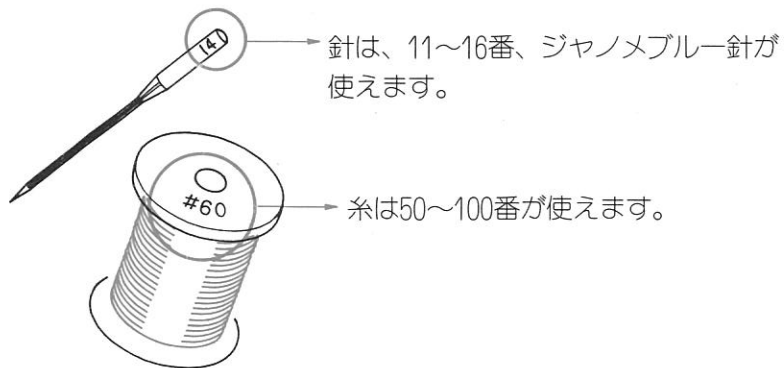
③左手前に引きながら、裏側のみぞに入れ、糸の端を手前にたらしめます。

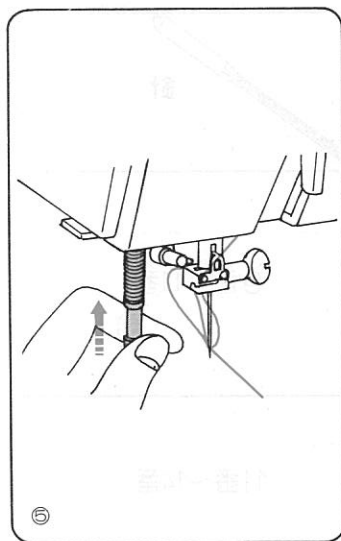


④ボタンを静かに、いっぱいまで押して指をはなします。

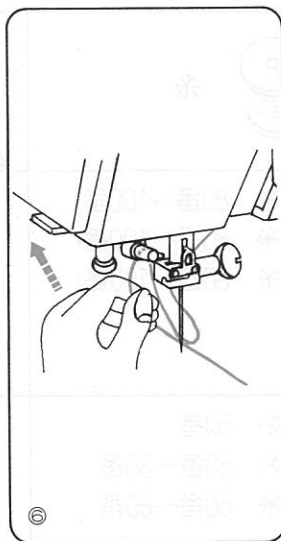
*針があがっていることを確かめましょう。

*ピンが針にあたって、うまく針穴に入っていないときは、①からやり直してください。



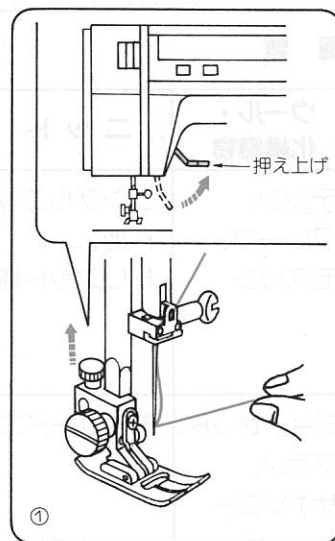


⑤つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

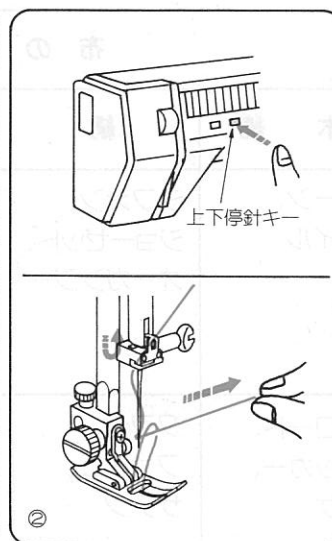


⑥糸の輪を上方に引きあげるようにして、糸通しからはずし、針穴から糸の端を引き出します。

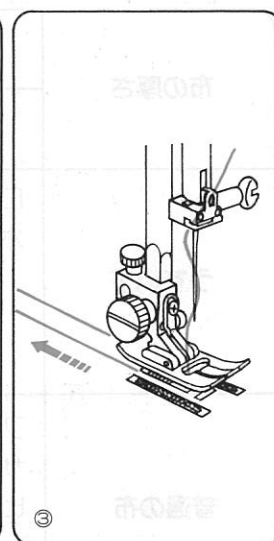
★下糸を引き上げます



①押え上げをあげます。上糸の端を、ややゆるめて持ちます。



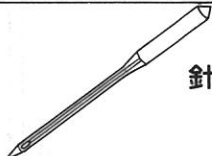
②上下停針キーを2度押して、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



③上糸と下糸を、押えの下から向こう側に、10cmほど引き出して、そろえておきます。



布に適した糸や針を選ぶ目安

布の厚さ	布 の 種 類				 糸	 針
	木 綿	絹	ウール・ 化繊織物	ニ ッ ト		
うすい布	ローン、 ボイル	シフォン、 ジョーゼット、 オーガンジー	デシン、 クレープ、 モスリン	シングルニッ ト地、 トリコット地	絹 糸 80番～100番 綿 糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	9番～11番
普通の布	ブロード、 サッカー、 ピケ	タフタ、 ファイユ、 サテン	ジョーゼット、 フラノ、 サキシニー	ジャガードニ ット	絹 糸 50番 綿 糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	11番～14番
					綿 糸 50番	14番
厚 い 布	デニム、 キルティング 地、 ギャバジン		ツイード、 ギャバジン、 コート地	ダブルニット	絹 糸 50番 綿 糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	14番～16番
					絹 糸 30番 綿 糸 30番	16番

* ふつう上糸と下糸は同じ糸を使います。

* うすい布には細い糸と針、厚い布には太い糸と針を使うのが原則です。

* ごくうすい布には、下に紙をしいて縫ってください。

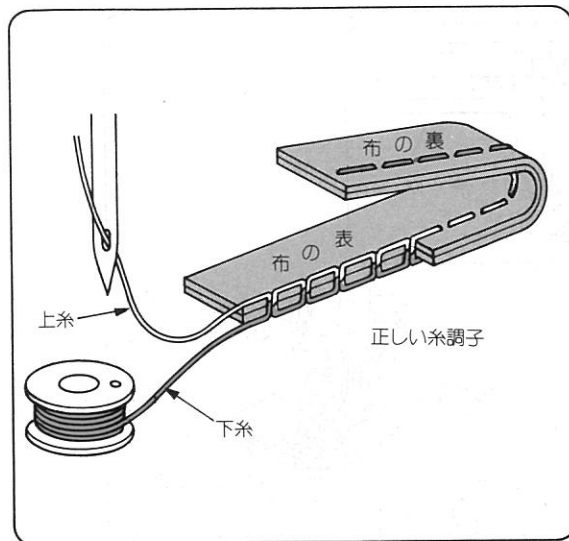
* 針や糸は、実際に縫う布の端切れを使って、試し縫いをして確かめてみましょう。

* ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や、目とびしやすい布に効果があります。

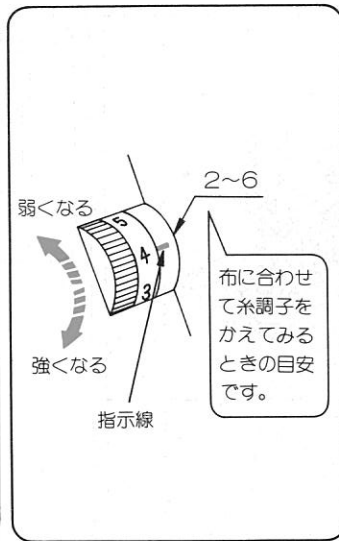
* ほそくなめらかな糸を使うときは、低速キーを使用してください。

糸調子を合わせましょう

★正しい糸調子

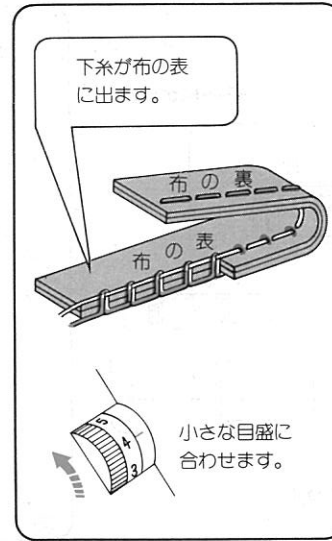


上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわりま
す。



素材や縫い方によ
って、このダイ
ヤルをまわし
て調整します。

★上糸が強すぎるとき

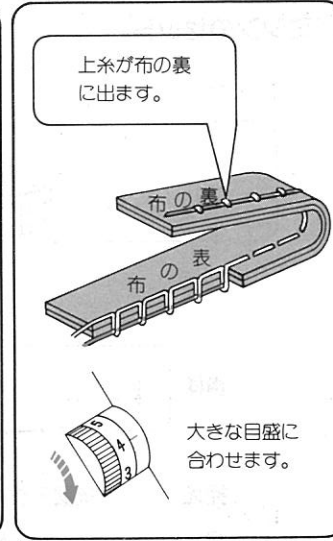


糸調子が正しく調整されていないと、縫い
目がきたなくなり、布にしわがよったり、
糸が切れたりします。

* 糸調子は、それぞれの《ミシンのセット》
にその目安を示してあります。

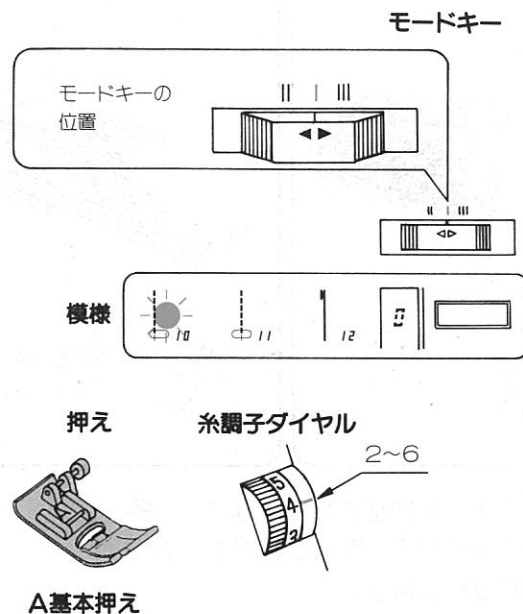
* 下糸調子を調整するときは、76ページをご
らんください。

上糸が弱すぎるとき

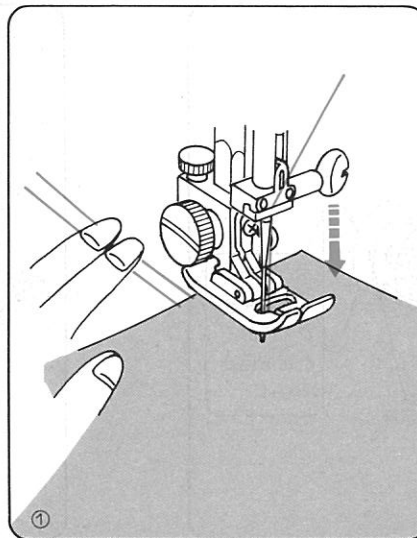


★縫いはじめ

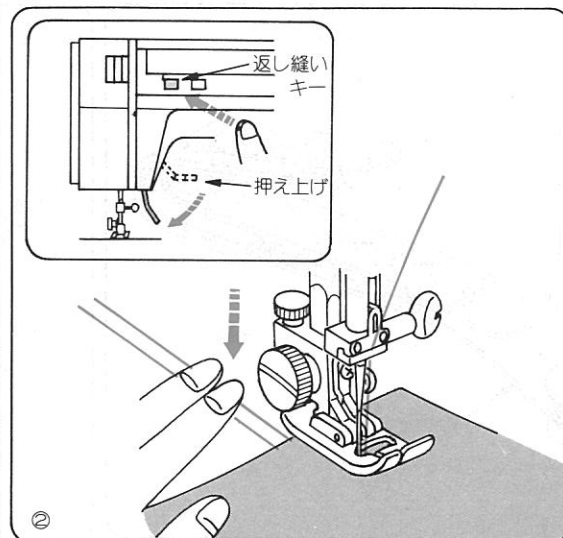
《ミシンのセット》



*電源スイッチを入ると、自動的に直線縫いにセットされます。



①糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。

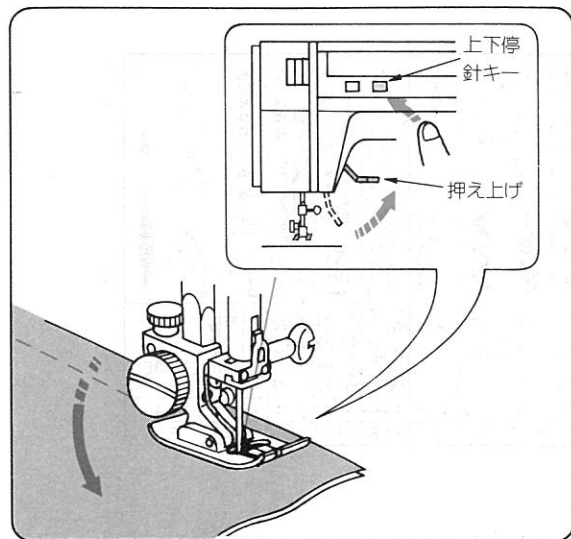


②押え上げをさげて、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめます。

*はじめのほつれ止めは、返し縫いキーを押しながら返し縫いをする方法と、自動返し縫いのついた模様  を使う方法とがあります。

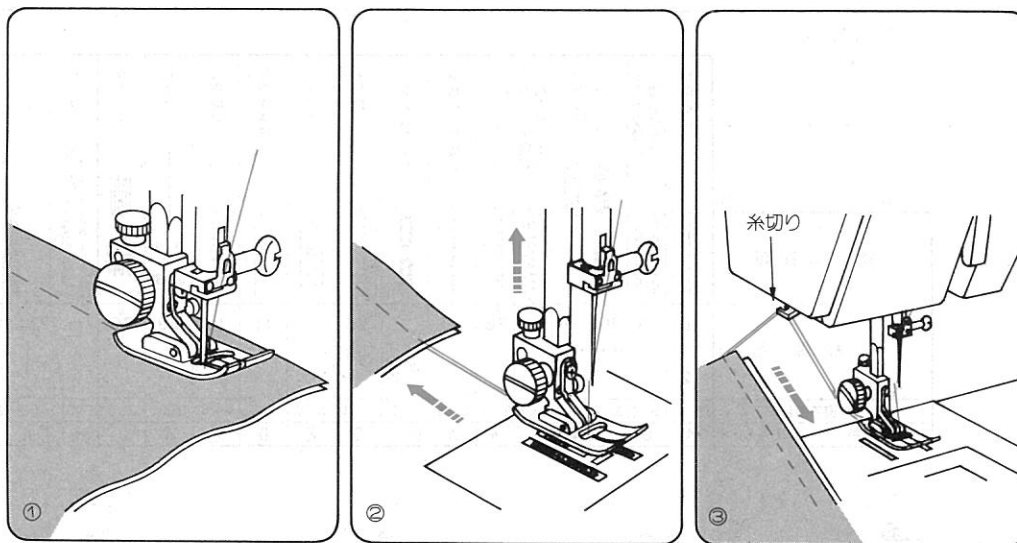
(33ページをごらんください。)

★縫い方向をかえるには



ミシンを止め、上下停針キーを押して針を布にさし、押え上げをあげます。
針を布にさしたまま、縫い方向をかえます。

★縫いおわりの返し縫い



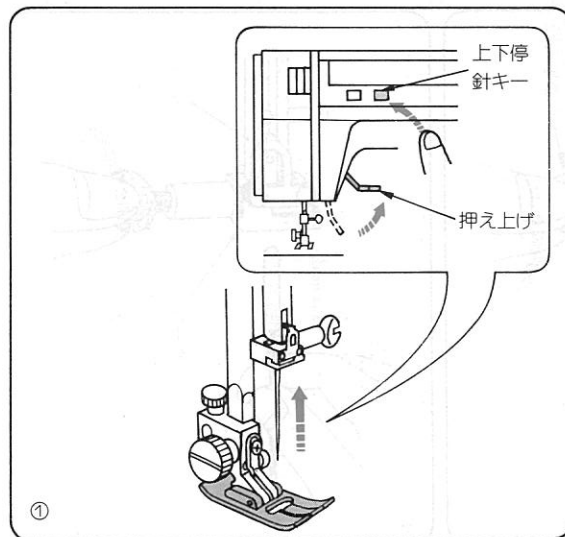
①返し縫いキーを押しながら数針返し縫いをします。

*模様 $\frac{1}{2}$ のときは、返し縫いキーを1度押すだけで、自動的に返し縫いをします。

②押え上げをあげて、布を向こう側に、静かに引き出します。

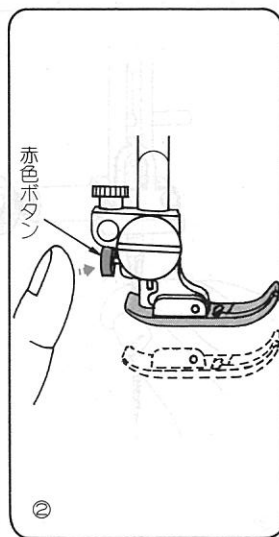
③糸切りで糸を切ります。

★押えのとりはずし方、つけ方

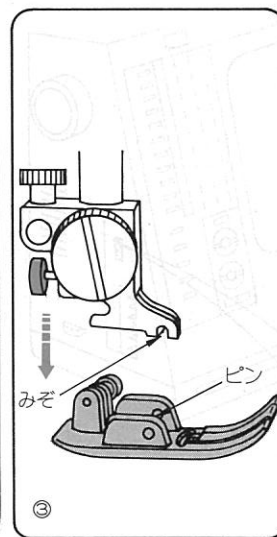


①上下停針キーを押して針をあげ、押え上げをあげます。

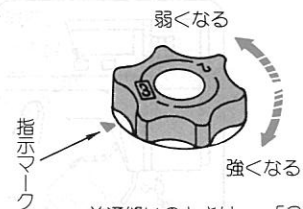
②押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。



③押えのピンをホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろします。

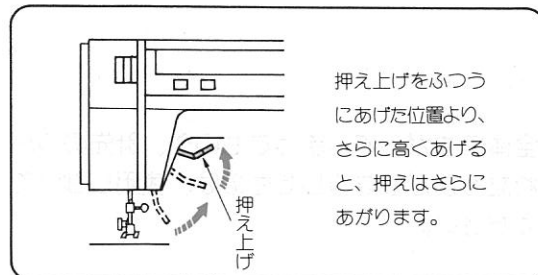


★押え圧ダイヤルの使い方



- 普通縫いのときは……「3」
- うす手の化繊地や伸縮性のある布などで縫いずれがするとき、または、アププリケ、カットワークなど縫いしろ部分が重なり合うとき ……「2」または「1」

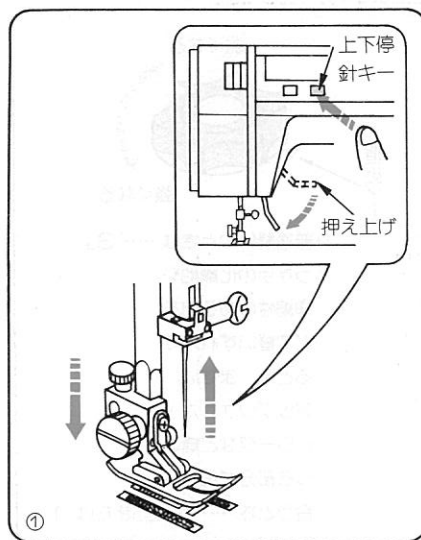
《厚い布を入れるとき》



押え上げをふつうにあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

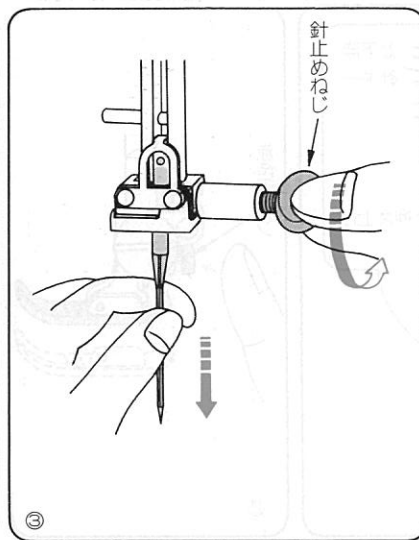
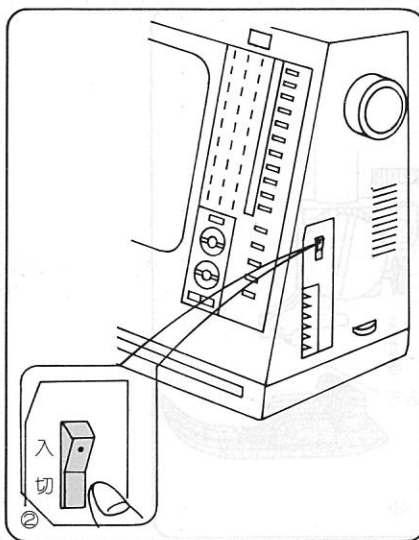
*ファスナー押えのつけ方は、ファスナーつけ (44ページ) をごらんください。

針のとりかえ

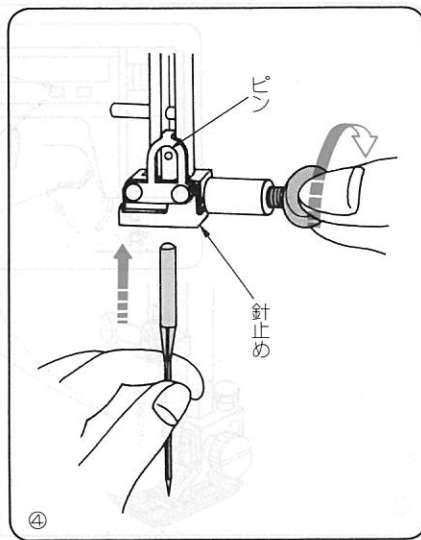


①上下停針キーを押して針をあげ、押え上げをさげます。

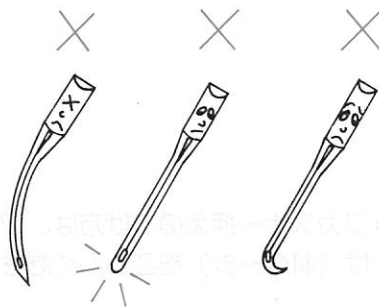
②電源スイッチを切ります。



③針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずします。



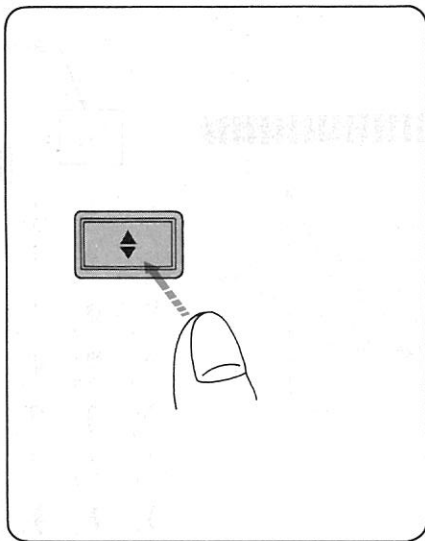
④針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいピンにあたるまで針止めにさしこみ針止めねじをかたくしめます。



全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

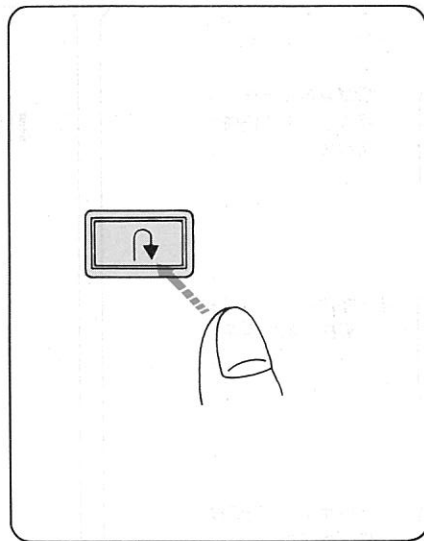
針の上下とほつれ止め

★上下停針キー



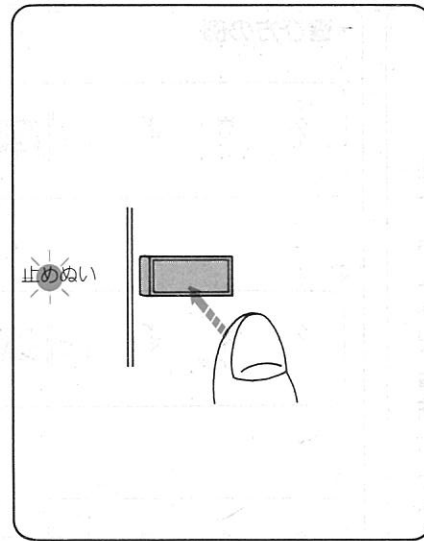
キーを押すと、針が上位置か下位置で止まります。もう1度押すと、上下位置が切りかわります。

★返し縫いキー



キーを押している間は、返し縫いをします。

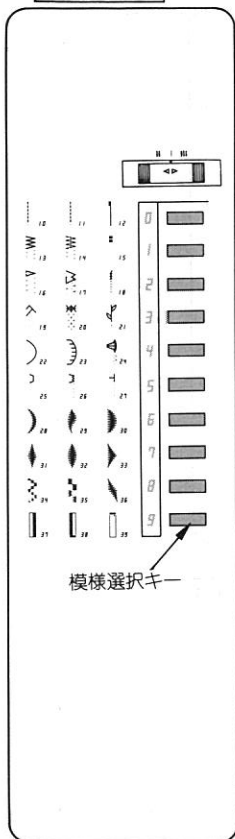
★止め縫いキー



止め縫いキーを押すと、数針止め縫いをして、自動的に止まります。

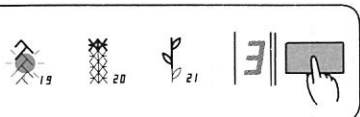
模様の選び方

★ のときの模様の選び方



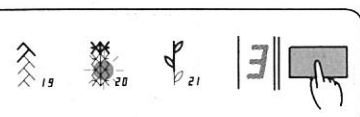
《選び方の例》

①



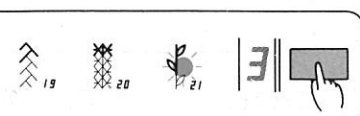
① 模様選択キーを1回押すと、左の模様が選べます。

②



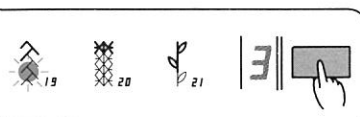
② 2回押すと、まん中の模様が選べます。

③



③ 3回押すと、右の模様が選べます。

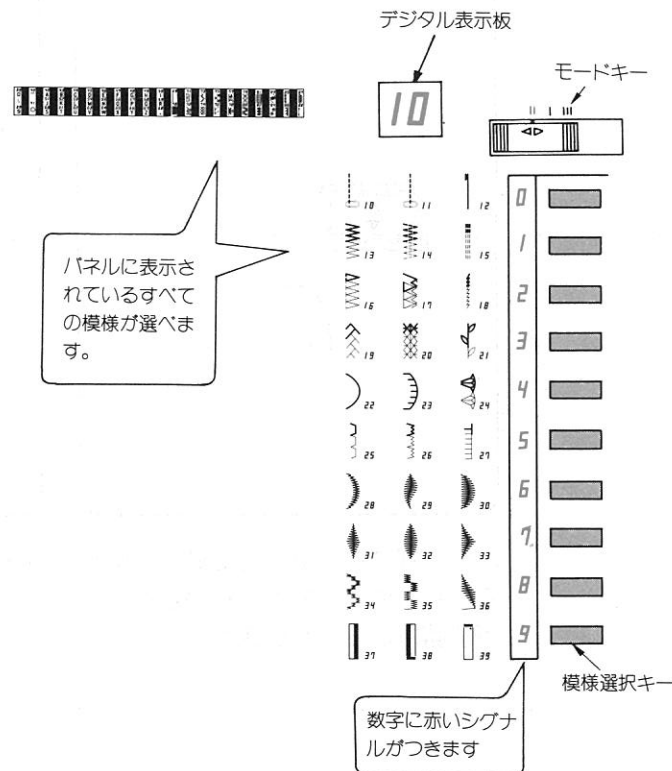
④



④ 4回押すと、また左の模様が選べます。

選ぶ模様の右にある模様選択キーを押します。
選ばれた模様の上には、赤いシグナルがつきます。

★ または のときの模様の選び方

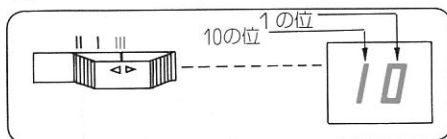


模様選択キーを押して、2桁の模様番号をデジタル表示板に呼び出します。

* 模様  ~  は、2桁の模様番号をデジタル表示板に呼び出して選びます。

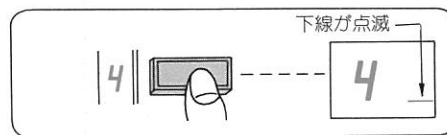
《選び方の例》

①



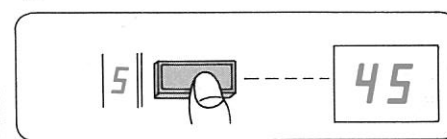
①モードキーを「III」に合わせると、デジタル表示板に「10」が表示されます。

②



②模様選択キー「4」を押すと、デジタル表示板の10の位に「4」が表示され、1の位の下線が点滅します。

③

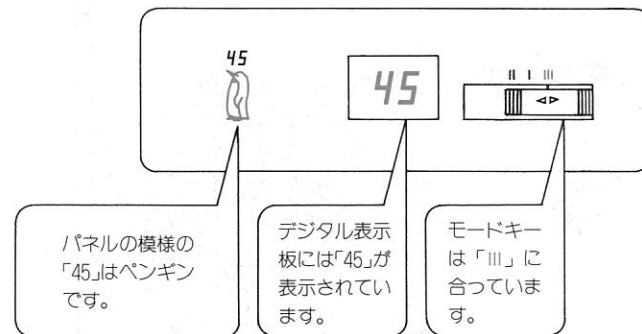


③模様選択キー「5」を押すと、デジタル表示板の1の位に「5」が表示され、パネルに表示されている模様⁴⁵が縫えます。

* デジタル表示板の2桁の数字が点滅しているときや、1の位の下線が点滅しているときは、コントローラーを踏んでもミシンは動きません。とりけしキーを押してから正しい模様番号を選びなおすか、1の位まで正しく選んでください。

★ ⁴⁵を試し縫いしましょう

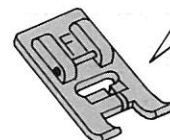
《ミシンのセット》



針

押え

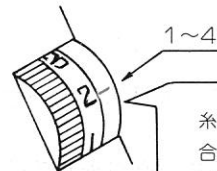
糸調子ダイヤル



Fサテン押え
ブルー針

針のとりかえは20ページを
ごらんください。

押えのとりかえは、
19ページを
ごらんください。



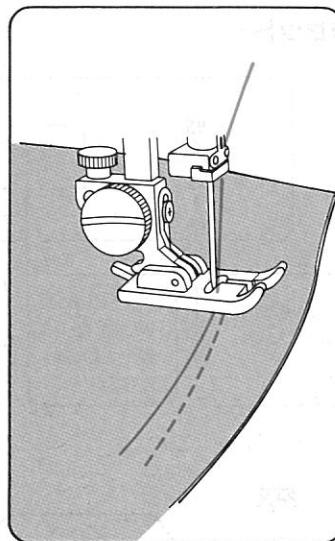
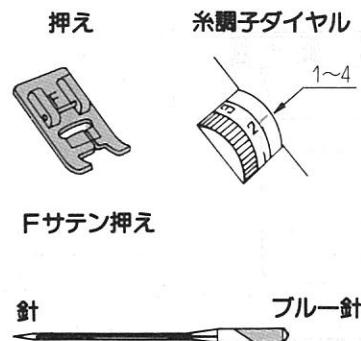
糸調子の
合わせ方
は、
15ページ
を
ごらん
ください。

糸を正しく掛けて、実際に試し縫いをしてください。

プログラム縫い

★ワンポイント縫いの例()

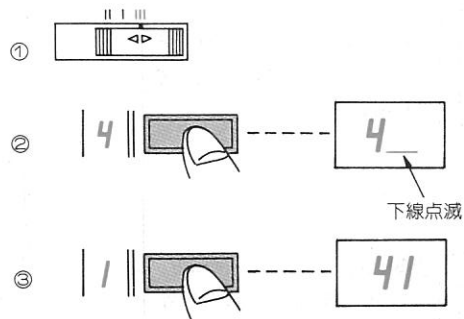
《ミシンのセット》



ステップ

デジタル表示板

模様



模様を1つだけ、または、組み合わせて縫います。

*キーの使い方は、それぞれの例をご覧ください。

*プログラムの確認と訂正は68、69ページをご覧ください。

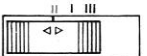
上糸と下糸を横に引き出します。

*模様のはじめとおわりに、止め縫いが自動セットされています。

*模様の種類は、30ページをご覧ください。

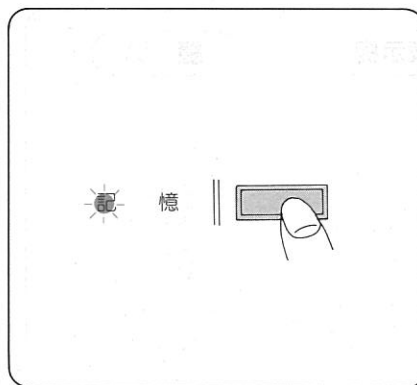
*ししゅう枠を使えばよりきれいに仕上がります。使い方は、70ページをご覧ください。

★ワンサイクル縫いの例()

ステップ	デジタル表示板	縫い
①		
②	 	
③	 憶 	
④	7  	
⑤	8  	
⑥	 憶 	
⑦	 止めぬい 	
⑧	 憶 	

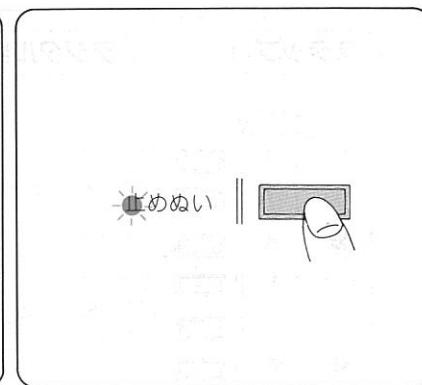
下線点滅 

《記憶キーの使い方》



模様を選んでから記憶キーを押すと、キーを押した数だけその模様を記憶します。さらに、他の模様を選んでから記憶キーを押すと、前の模様が続けて、次に選んだ模様を記憶します。

《止め縫いキーの使い方》



プログラム縫いのはじめやおわりに記憶させて止め縫いをします。

模様のはじめとおわりに、止め縫いを記憶させて縫います。

※模様は  が使えます。

★数字と文字の組み合わせ縫いの例 (01 69 91 40 01 53 77) (1ねん-1くみ)

ステップ	デジタル表示板	縫い
①		
②	0	
③	1	下線点滅
④	記憶	
⑤	6	下線点滅
⑥	9	
⑦	記憶	
⑧	9	下線点滅
⑨	1	
⑩	記憶	
⑪	4	下線点滅
⑫	0	
⑬	記憶	
⑭	0	下線点滅
⑮	1	
⑯	記憶	
⑰	5	下線点滅
⑱	3	
⑲	記憶	
⑳	7	下線点滅
㉑	7	
㉒	記憶	

文字40は文字の間を空けるときに使用します。

1ねん 1くみ

★止め縫いを使った模様縫いの例 (77 78 78 77) (77 78 78 77)

ステップ	デジタル表示板	模様
①		
②	止めぬい	
③	記憶	
④	7	下線点滅
⑤	7	
⑥	記憶	
⑦	7	下線点滅
⑧	8	
⑨	記憶	
⑩	反転記憶	
⑪	7	下線点滅
⑫	7	
⑬	反転記憶	
⑭	止めぬい	
⑮	記憶	

77 78 78 77

*ししゅう枠を使用すると、よりきれいに仕上がります。(使い方は、70ページをごらんください。)

★イニシアル縫いの例^{42 68 43 68}(A.B.)

ステップ	デジタル表示板	縫い
①		
②	4	4
③	2	42 下線点滅
④	記憶	
⑤	6	6
⑥	8	68 下線点滅
⑦	記憶	
⑧	4	4
⑨	3	43 下線点滅
⑩	記憶	
⑪	6	6
⑫	8	68 下線点滅
⑬	記憶	

A.B.

★なまえ縫いの例^{81 76 61 92}(やまだ)

ステップ	デジタル表示板	縫い
①		
②	8	8
③	1	81 下線点滅
④	記憶	
⑤	7	7
⑥	6	76 下線点滅
⑦	記憶	
⑧	6	6
⑨	1	61 下線点滅
⑩	記憶	
⑪	9	9
⑫	2	92 下線点滅
⑬	記憶	

やまだ

《反転記憶キーの使い方》

反 転 記 憶

模様を選んで反転記憶キーを押すと、選んだ模様を左右反対にミシンが記憶します。

しかし、文字や数字を選んで反転記憶キーを押すと、左右反対ではなく、そのままの向きで大きさを約 $\frac{1}{3}$ に縮小して記憶するので、小さい文字として使えます。

*ししゅう枠を使用すると、よりきれいに仕上がります。(使い方は、70ページをらんください)

★連続模様縫いの例

例

ステップ

①

②

③

④

⑤

⑥

縫い

ステップ

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

デジタル表示板

②

③

⑥

⑦

縫い

記憶させた模様を連続して縫います。

《取り消しキーの使い方》

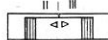
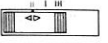
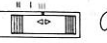
とりけし



縫いはじめる前に、取り消しキーを押すと、表示されている模様からはじめて、プログラムのうしろから順に記憶を取り消します。押してすぐにはなすと1つ、ずっと押し続けていると続けて順番に、取り消します。縫いはじめてから取り消しキーを押すと、プログラムがすべて取り消されます。

*プログラムがすべて取り消されると、デジタル表示板に「10」が表示されるが、模様「1」に赤いシグナルがつきます。

★プログラムするときを知っておきたいこと

1. モードキーが  のときは、、、 ~  までの模様と、おわりの止め縫いを含めて7個まで記憶します。
2. モードキーが  か  のときは、31個までの模様を記憶します。ただし、、 ~ 、、 は記憶できません。
3. プログラムをはじめるときは、取り消しキーを押して、前に入っている記憶をあらかじめ消してください。
長いプログラムは、手順をメモしておくことと誤りをふせげます。
4. プログラムの途中で、模様をまちがえて選んで記憶させたことに気づいたら、取り消しキーを押すと、その模様だけが取り消されます。
5. プログラムのおわりに、止め縫いを記憶させると、そのあとには模様の追加はできません。
6. 組み合わせた模様のおわりに、止め縫いを記憶するか、ワンポイント縫いを記憶すれば、組み合わせた模様を縫って自動的に止めることができます。コントローラーを踏みなおすと、ふたたび同じ模様が縫えます。
7. つぎの場合には、プログラム全部が、取り消されます。
 - 電源を切る。
 - モードキーを切りかえる。
 - プログラムした模様を縫いはじめてから、途中でミシンを止めて模様選択キーを押す。
 - モードキーが  でプログラムの途中で模様「1」を選ぶ。

★プログラムするときの模様の単位(ワンポイント縫い)

はじめとおわりの止め縫いを含んでいる模様を示し、それぞれの模様がプログラムするときの1記憶単位となります。

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	42	43	44	45	46	47	48
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	G
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X
66	67	68	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
Y	Z	.	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	し	す	せ
60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76
そ	た	ち	つ	て	と	な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ	ま
77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93
み	む	め	も	や	ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	を	ん	ろ	ろ

* ○印をつけたところが、模様を縫いはじめる位置です。

* 数字と文字の不要な縫い目を切るときは、図の赤い線のところを切ってください。

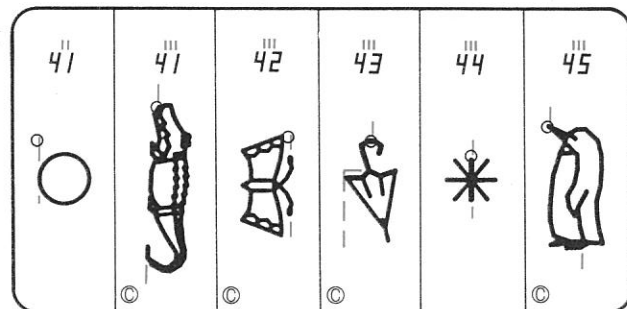
* 右図の 、 ~  のときは、振巾マニュアルで調節すると、縫い目の巾とあらさが同時に変化して、相似的に小さくなります。(「5」以上の目盛で使用してください。)
また、送りマニュアルで調節すると、さらに変化した模様ができます。

* 振巾マニュアル、送りマニュアルの調整のしかたは、34、36ページをごらんください。

* 文字、数字を縫うときの上糸は50~100番、下糸は同色の細い糸(80~100番)を使用してください。

* 文字、数字の形が整わないときは、73ページをごらんください。

* 伸縮性の布には、下に紙をしいて縫ってください。



★プログラムするときの模様の単位

模様表示を太くしている部分が、それぞれの模様をプログラムするときの1記憶単位となります。

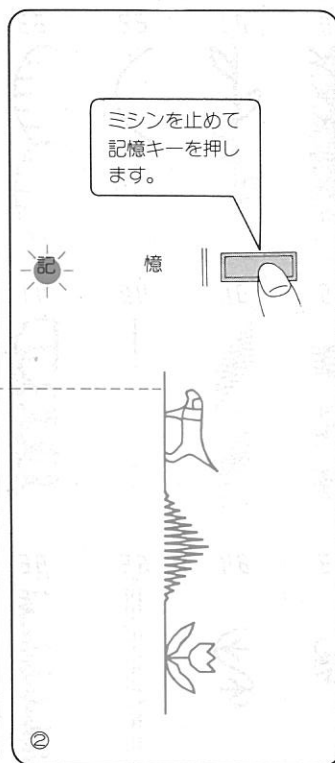
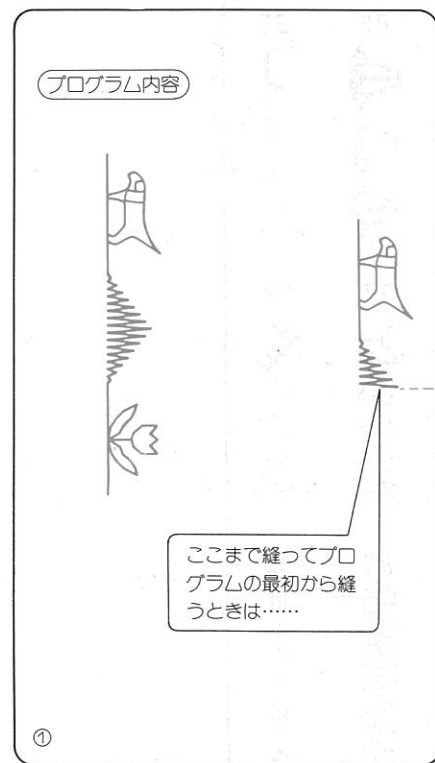
10 	11 	13 	14 	15 	16 	17 	18 	19 	20 	21 	22 	23 	24 	25
26 	27 	28 	29 	30 	31 	32 	33 	34 	35 	36 	40 	71 	72 	73
74 	75 	76 	77 	78 	79 	80 	81 	82 	83 	84 	85 	86 	87 	88

*上の模様は、止め縫いを記憶していません。
*○印をつけたところが、模様を縫いはじめる位置です。

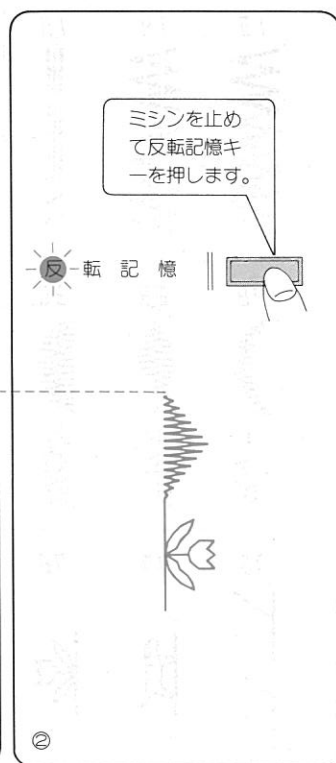
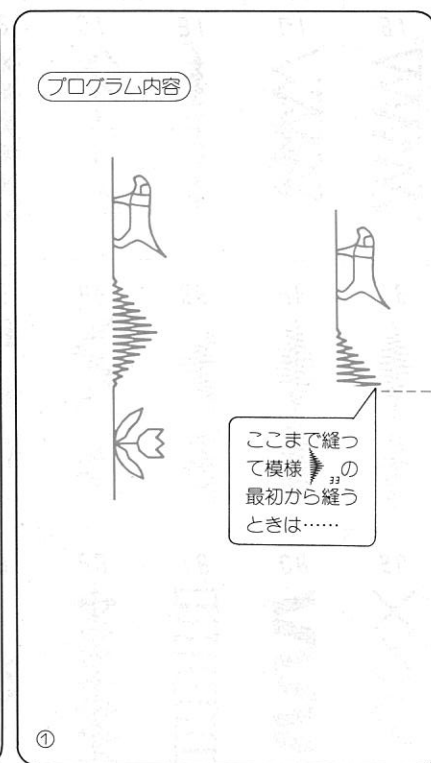
*模様 は、かがり縫いをするときの縫い目
ですので、模様として使うと のようになります。

★プログラム縫いを途中でやめたとき

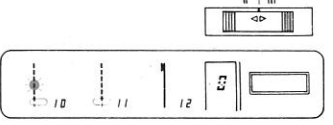
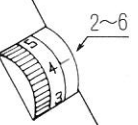
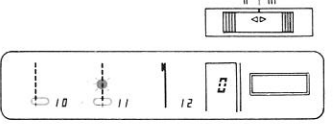
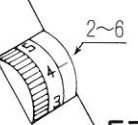
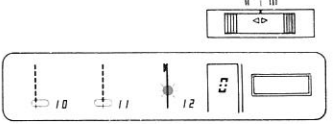
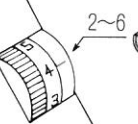
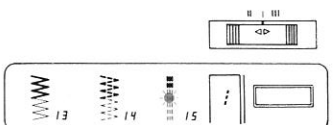
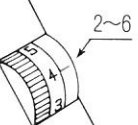
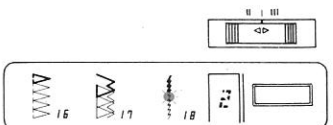
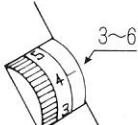
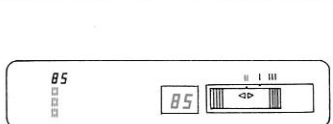
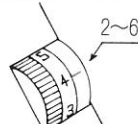
《プログラムのはじめに戻すには》



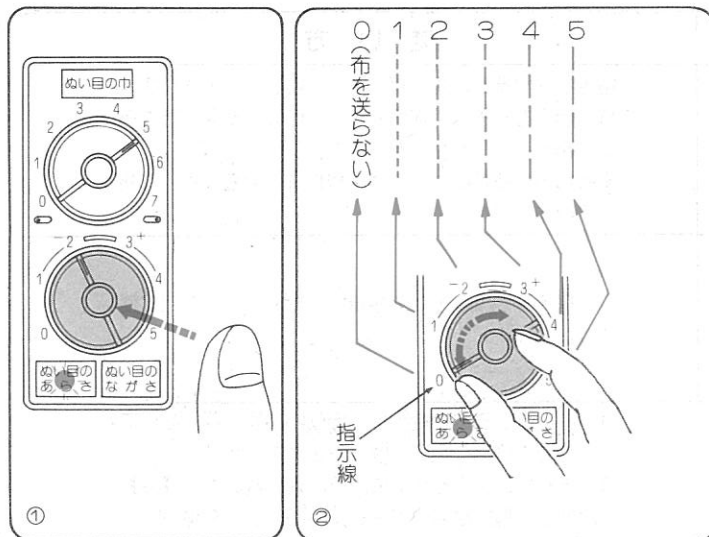
《縫いかけた模様の最初から縫うには》



直線状の縫い目いろいろ

縫い目	模様番号 (針落ち)	ミシンのセット	使い方
	 10 (左)	  A基本押え	電源を入れると、直線縫い10に自動セットされます。 縫い目のあさは、家庭でふつう使われる厚い布からうすい布までに合わせてあります。 *針や糸の種類によっては、模様11で縫うとよい場合があります。
	 11 (中)	  Eファスナー押え	ファスナーつけ、三つ巻き縫い、ピンタックなどに使います。
 (自動返し縫い)	 12 (左)	  A基本押え	縫いはじめから数針縫うと、自動的に返し縫いをしてからふつうの縫いに戻り、ほつれ止めをします。 縫いおわりのところまでできたら、返し縫いキー  を一度押し、指をはなしてもコントローラーを踏みつげると数針返し縫いをしてから自動的に止まります。
 (三線縫い)	 15 (左)	  A基本押え	伸縮性のある強い縫い目なので、補強縫いに便利です。
	 18 (中)	  A基本押え	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。また、直線状なので縫いしろを割ることができ、ニット、トリコットなどの縫い合わせに便利です。
	 85 (左)	  A基本押え	縫い目のあらい三重縫いです。飾りミシンや刺子風にも使えます。

★縫い目のあさをかえるとき



①送りマニアルを押して、赤いシグナルをつけます。

②つまみをまわして、指示線を目盛りに合わせます。

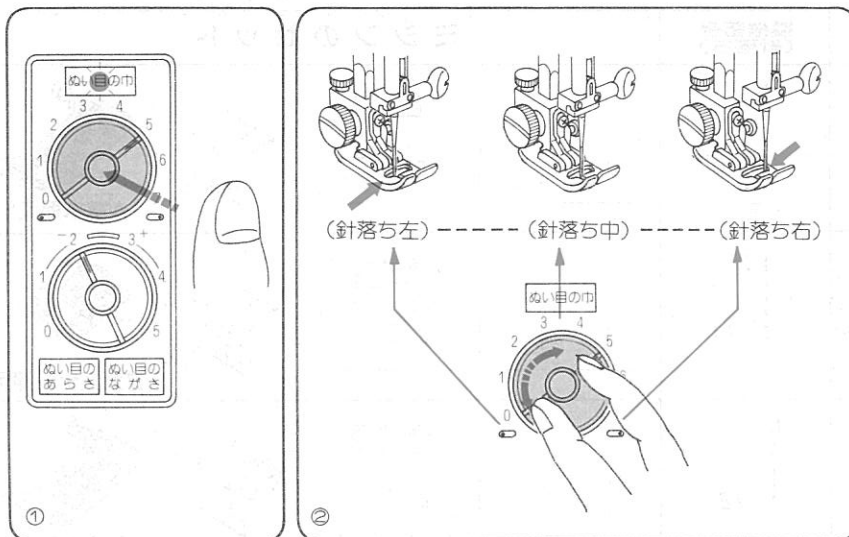
目盛りが大きくなると、縫い目はあくなります。

2-3はボタン穴かぎりの縫い目あさの調節範囲を示しています。

返し縫いの縫い目あさは、0,25cm以上にはなりません。

*縫い目のあさや直線の針落ちを、もとの自動セットに戻すには、送りマニアルや振巾マニアルをもう1度押しなおすが、他の模様を選びます。(このとき、赤いシグナルが消えます。)

★直線縫いの針落ちをかえる



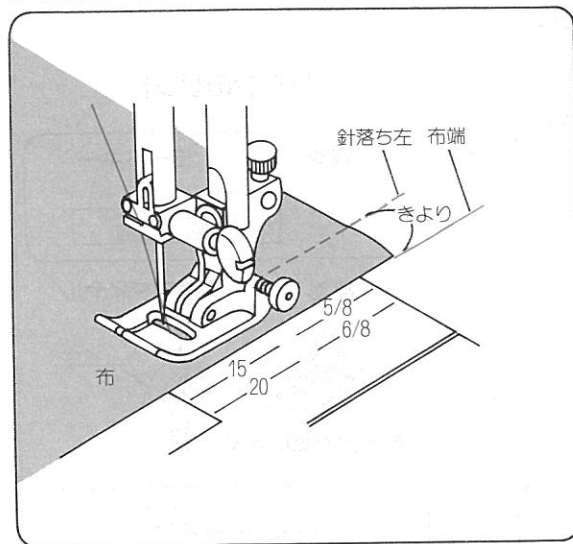
①振巾マニアルを押して、赤いシグナルをつけます。

②つまみをまわして、針落ちをかえます。

※針落ちをかえられるのは、つぎの模様です。

モードキー	模 様 番 号			
	69	85	88	

★針板ガイドラインの利用

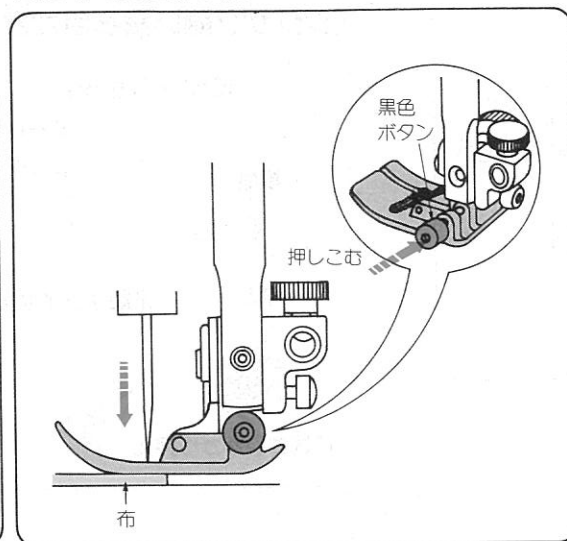


布端を針板のガイドラインに合わせて縫います。

*数字は、針落ち左から布端までのきよりで
す。

数 字	15	20	4/8	5/8	6/8
きより (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

★厚手の布端の縫いはじめ

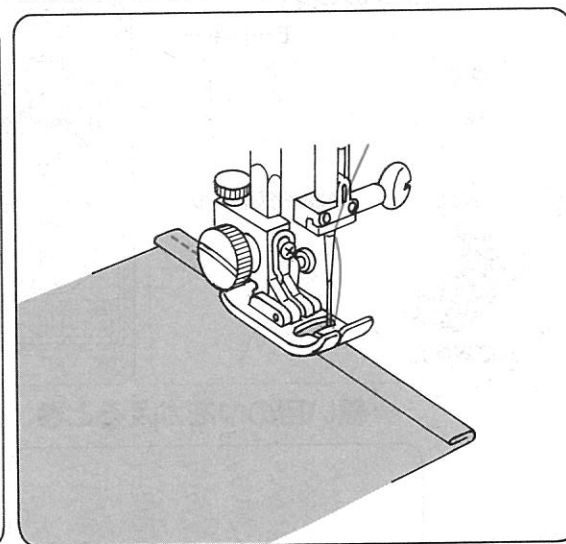


①縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの
黒色ボタンを押しこみます。

②ボタンを押したままで押え上げをさげます。

③ボタンから手をはなし、縫いはじめます。

★折り巾のせまい布の縫い方

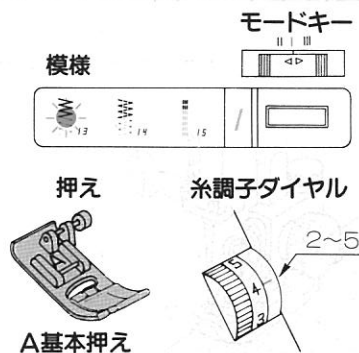


針落ち右で縫います。

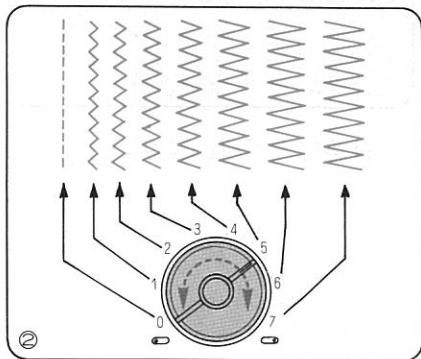
ジグザグ縫い

裁ち目かがりとかがり縫いステッチ

《ミシンのセット》



★縫い目の巾をかえるとき



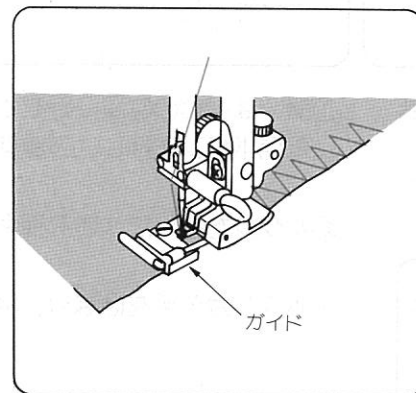
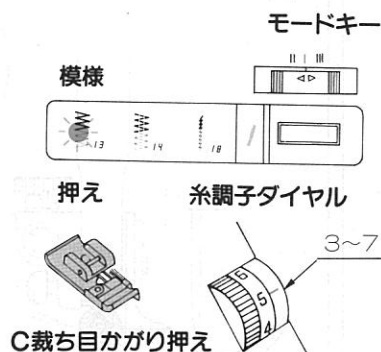
①振巾マニアルを押して、赤いシグナルをつけます。

②つまみをまわして、縫い目の巾をかえます。

* 縫い目の巾をもとの自動セットに戻すには、振巾マニアルをもう1度押しなおすか、他の模様を選びます。(このとき、赤いシグナルが消えます。)

★裁ち目かがりの例 (ジグザグ縫い裁ち目かがり)

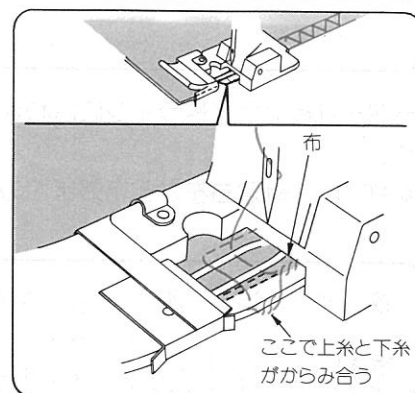
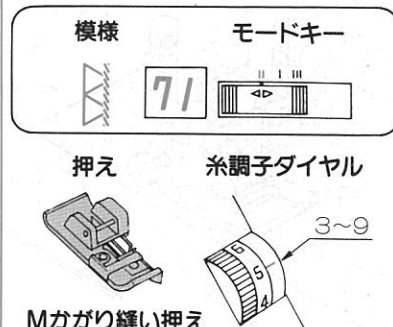
《ミシンのセット》



布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

★かがり縫いステッチの例

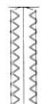
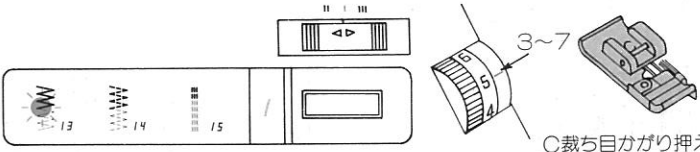
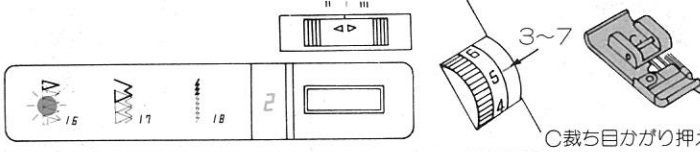
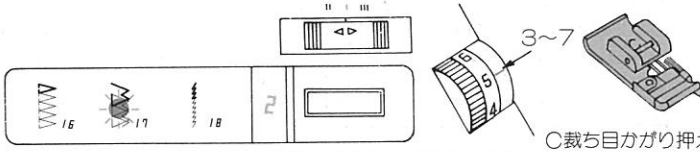
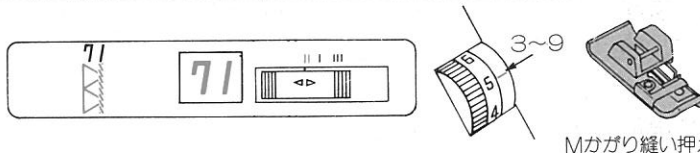
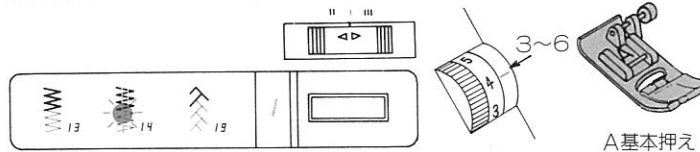
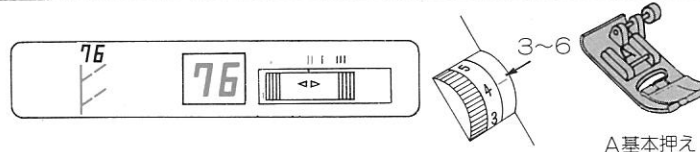
《ミシンのセット》



布端の外で糸ががらみ合うようにガイドしながら縫います。

* 糸調子は、布端の外のピンの横でからみ合うように調節してください。

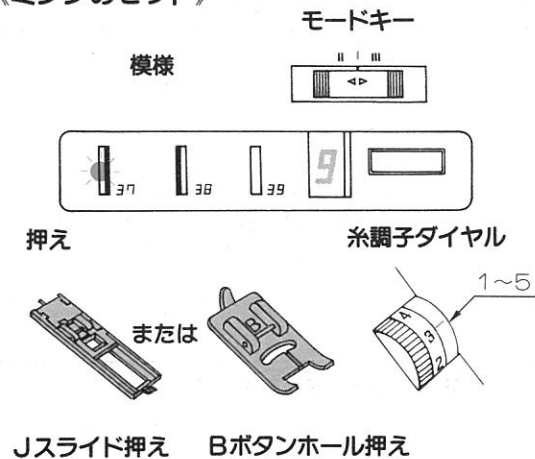
* 地縫い線がひらくときは、送りマニアルを最大「5」にセットしてください。

縫い目	模様番号	ミシンのセット	使い方
 シグザグ縫い 裁ち目かがり	 13	 C裁ち目かがり押え	裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。
 かがり縫い ステッチ	 16	 C裁ち目かがり押え	地縫いをかねたかがり縫いに利用します。また裁ち目のほつれ止めとしても使えます。
 かがり縫い ステッチ	 17	 C裁ち目かがり押え	中、厚地のしっかりした布端をかがるときに利用します。
 かがり縫い ステッチ	 71	 Mかがり縫い押え	オーバーロックの縫い目に似ていて、布端がほつれやすい布地のかがり縫いや、裁ち目かがりに利用します。
 トリコット縫い 裁ち目かがり	 14	 A基本押え	布端を押えの右端よりやや内側にし、織り糸を1〜2本残すようにして縫います。 ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。
 ニット ステッチ	 76	 A基本押え	縫いしろを少し余分にとって縫い、余分なところを縫い目の近くで切り落とし、片方に倒して仕上げます。かがり縫いステッチと同じく、かがり縫いと地縫いが同時にできるので、ほつれやすい布や、伸縮性のある布で縫いしろを割らなくてもいいものの縫い合わせに適しています。

* C裁ち目かがり押え、Mかがり縫い押えを使用するときは、振巾マニュアルを使わないでください。

ボタン穴かがり(ボタンホール)

《ミシンのセット》

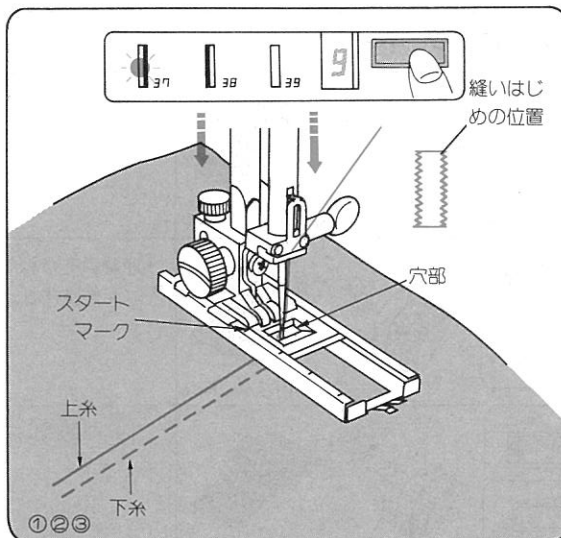


* ボタン穴のかがり巾は、シャツなどのボタン穴の巾に自動セットされていますので、コートなどの巾の広いボタン穴かがりをするときは、振巾マニュアルで調節してください。

* 縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。

* 伸縮性のある厚手の布や、やわらかい厚手の布（ジャージー、ツイードなど）は、押え圧ダイヤルを「2」にすると、きれいに仕上がります。

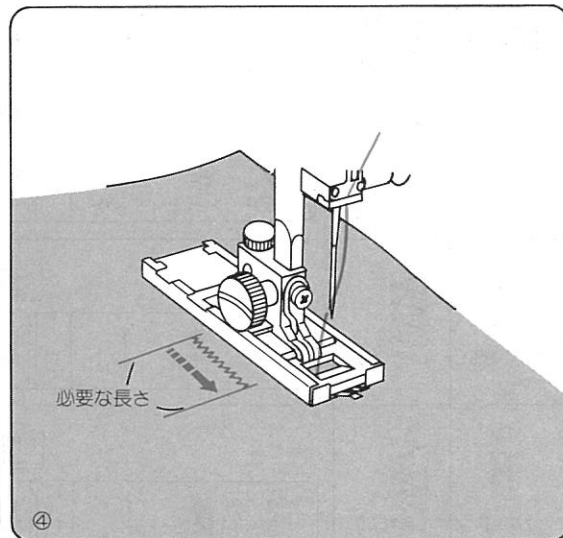
* 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。



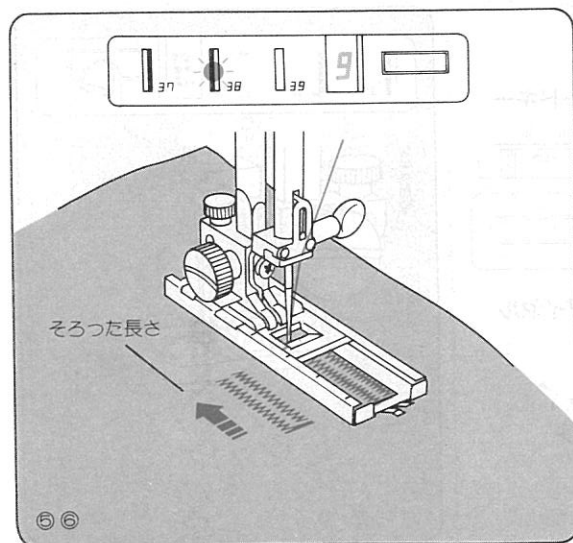
①模様 を選びます。

②上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

③縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。



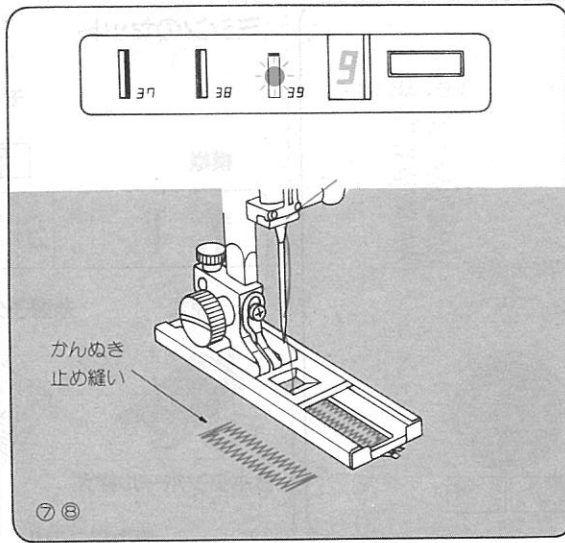
④必要な長さだけ縫い、ミシンを止めます。



⑥模様 **4** を選びます。

⑥コントローラーを踏み、かんぬきと左側を縫い、縫いはじめの位置に戻ったら、そのまま2～3針多く縫い、ミシンを止めます。

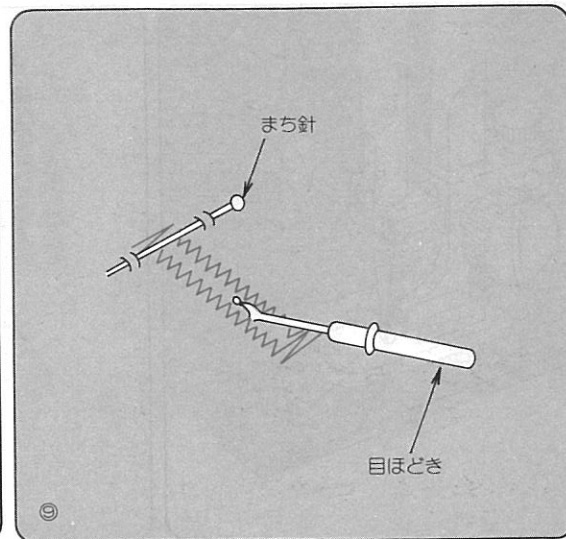
* Bボタンホール押えのときは、縫いはじめの位置に戻ったら、そのまま止めてください。



⑦模様 **4** を選びます。

⑧コントローラーを踏んで、かんぬきと止め縫いをします。針の動きが自動的に止まったら、コントローラーの踏みこみを止めます。

* ミシンは、1度縫ったボタン穴の大きさを記憶しています。縫いはじめの位置に針をさしてコントローラーを踏むと、同じ大きさのボタン穴かがりができます。しかし、布の種類や縫う場所によって大きさがかわってしまうときは、Bボタンホー



⑨かんぬきの内側にまち針を縫いさして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

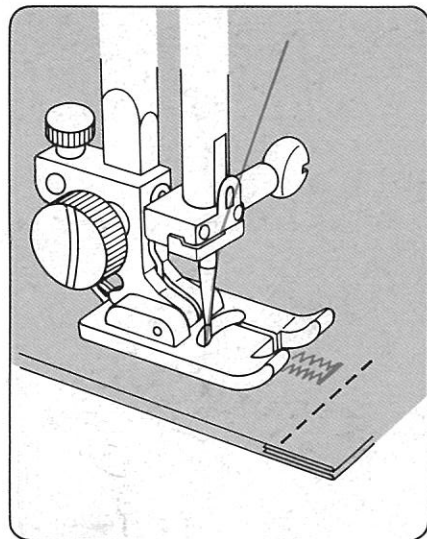
ル押えを使って1つ1つボタン穴かがりをしてください。

* 丈夫にしたり、縫い目を密にするときは、縫い終わったあと押えをあげないで、そのままコントローラーを踏みなおしてください。



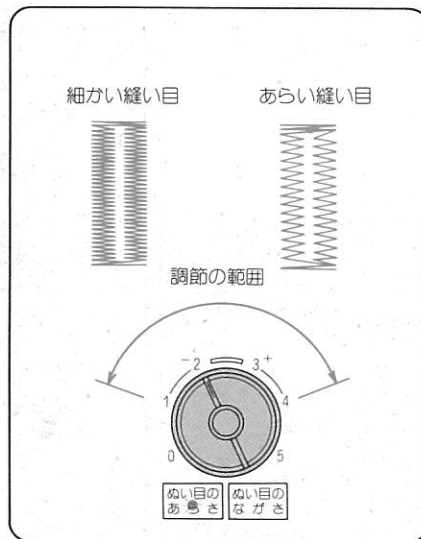
芯入りボタン穴かがり

★縫いしろのきわのとき



縫いしろの重なっている部分のきわにボタン穴かがりをするときは、厚くなって段になっている部分を手前に向け、Bボタンホール押えを使います。

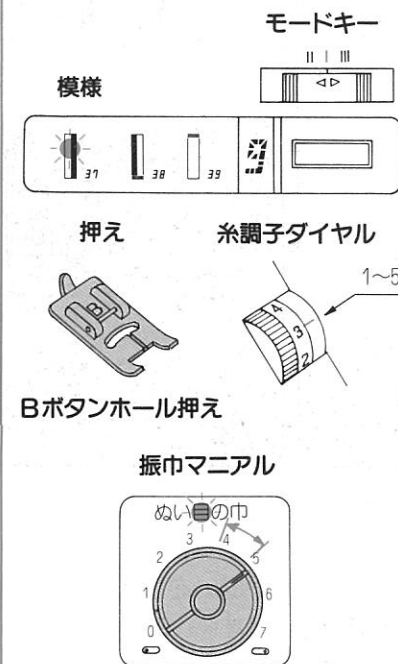
★縫い目のあらかさの調節



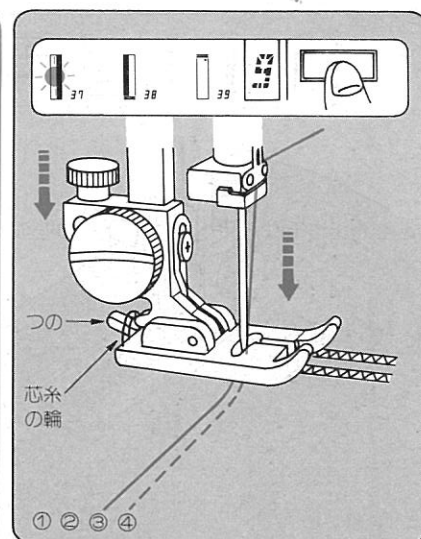
自動セットになっている縫い目のあらかさを手動でかえるには、送りマニアルのつまみ押して、 $\nearrow$ $\searrow$ の範囲で調節します。

* 左右の縫い目のあらかさがそろわないときは、71ページをごらんください。

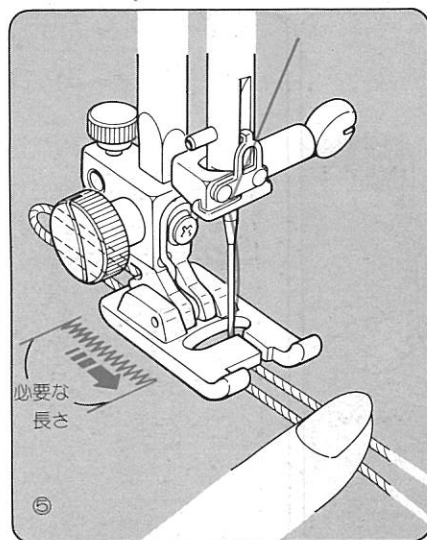
《ミシンのセット》



* 振巾マニアルは、芯糸に合わせてセットします。



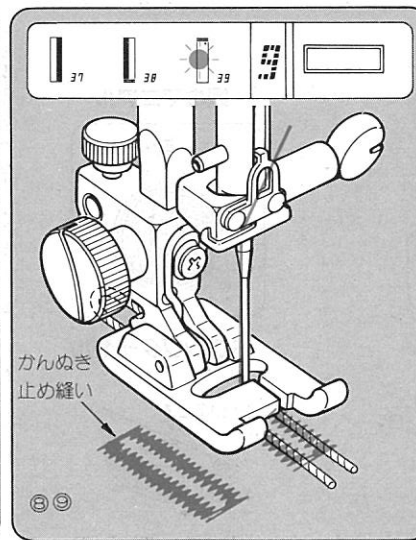
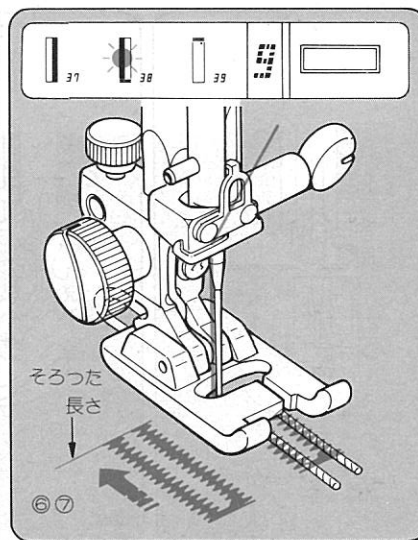
- ① 模様 II を選ぶ。
- ② 上糸と下糸を横に引き出しそろえます。
- ③ 芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押えの下から手前に、平行になるように引き出します。
- ④ 縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげます。



⑤ 芯糸を軽く布面に押しつけながら、必要な長さだけ縫います。

⑥ 模様  を選びます。

⑦ 芯糸の輪がつのに掛からないように、布面に押しつけます。コントローラーを踏んで、かんぬきと左側を縫い、縫いはじめの位置に戻ったら、ミシンを止めます。

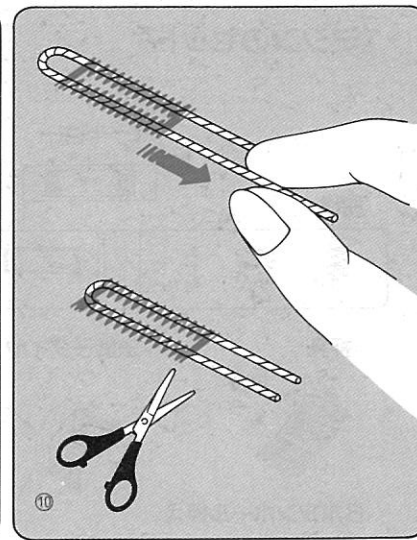


⑧ 模様  を選びます。

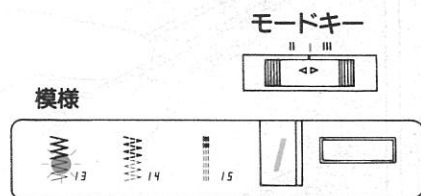
⑨ コントローラーを踏んで、かんぬきと止め縫いをします。

針の動きが自動的に止まったら、コントローラーの踏みこみを止めます。

⑩ 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。



《ミシンのセット》



模様

モードキー

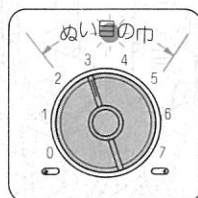
押え

糸調子ダイヤル

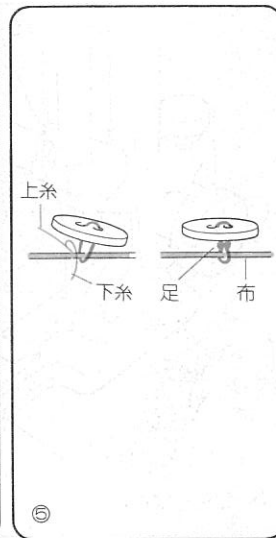
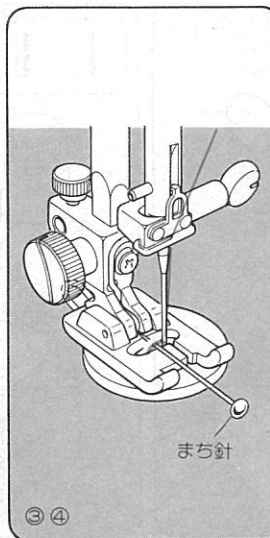
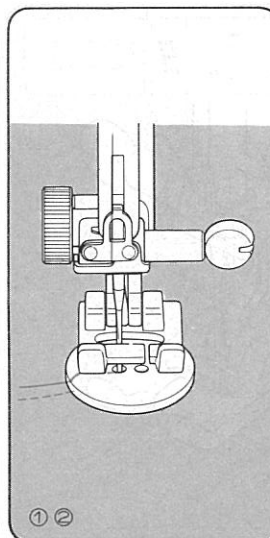
Bボタンホール押え

3~7

振巾マニアル



ドロップダイヤル



* 振巾マニアルは、ボタン穴の巾に合わせて、セットします。

①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

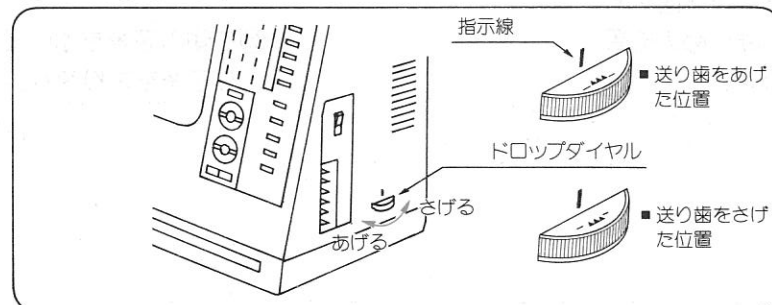
②ボタンの左右の穴を真横にくるようにして押え上げをさげます。

③押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

④10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。

* 縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

《ドロップダイヤルの使い方》



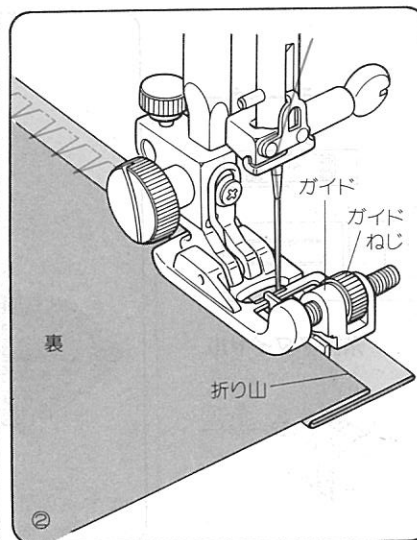
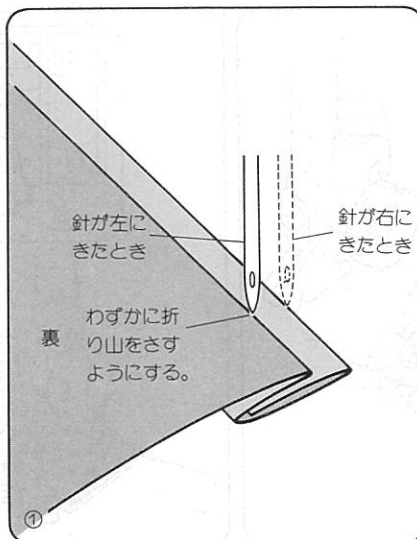
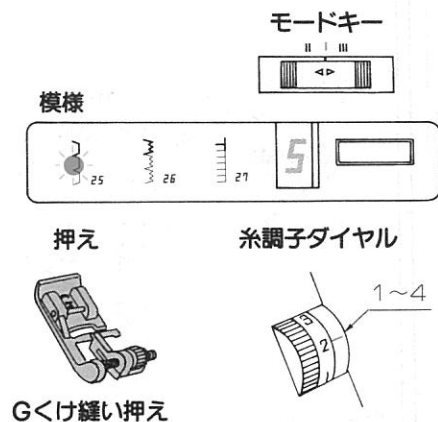
* 通常は送り歯をあげた位置にセットしておきます。

⑤上糸をボタン穴と布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

* おわったら、ドロップダイヤルを—▲▲▲—に戻しておきます。

くけ縫い(まつり縫い)

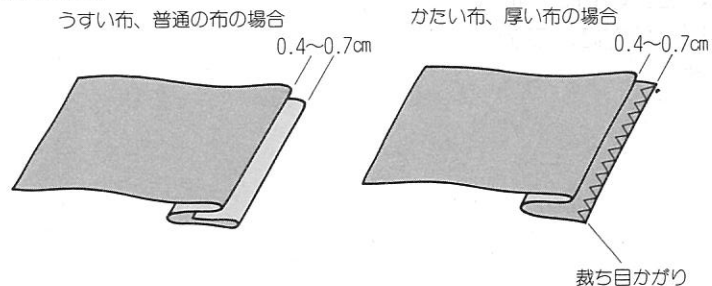
《ミシンのセット》



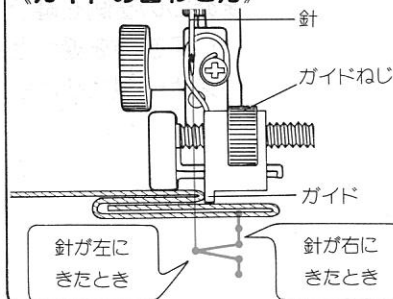
*伸縮性のある布を縫うときは、模様 $\frac{3}{4}$ を選びます。

- ①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押えをさげます。
- ②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針がはずれないように縫います。

《布の折り方》



《ガイドの合わせ方》



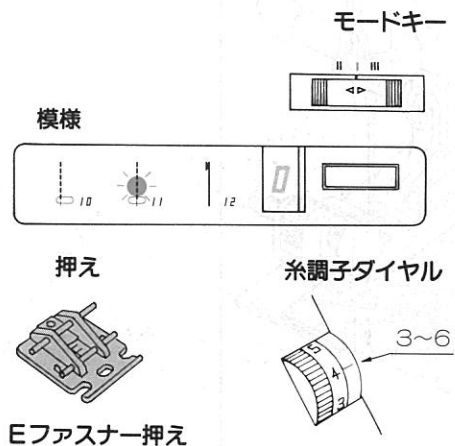


ファスナーつけ

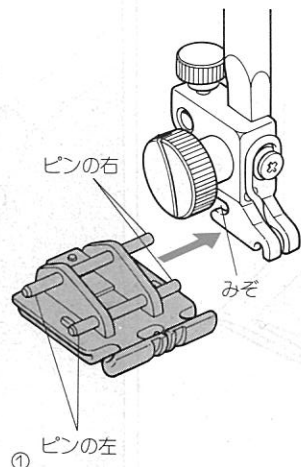
★ファスナー押えのつけ方

★準備

《ミシンのセット》



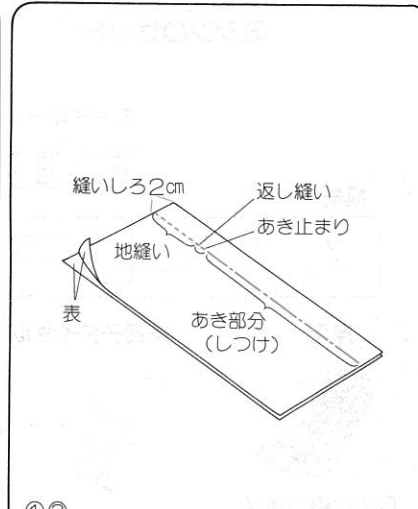
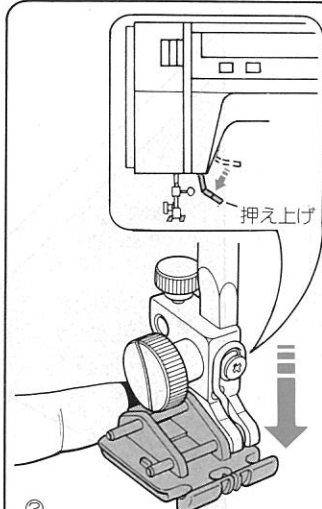
* 振巾マニュアルは使わないでください。



①押えの後ろのピンをホルダーの後ろのみぞに掛けます。

②指で軽くささえながら、静かに押え上げをさげます。

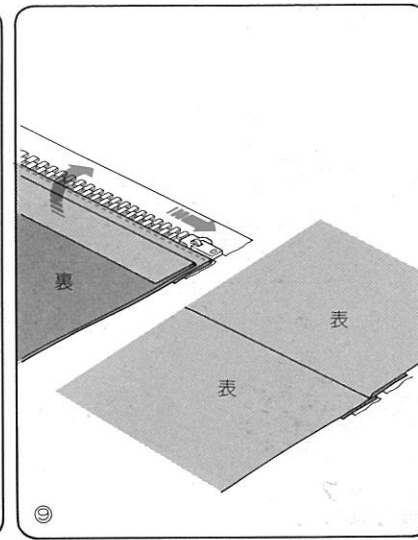
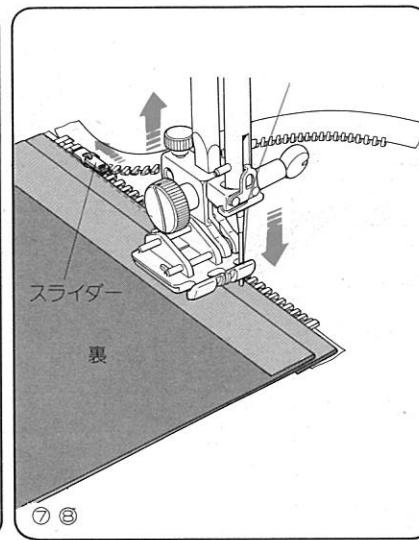
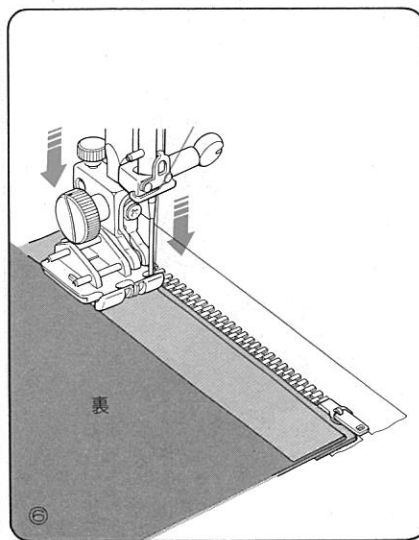
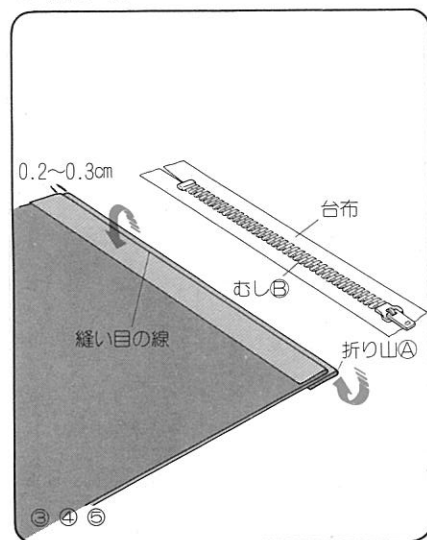
* ぶしの左側を縫うときは、ピンの右に、ぶしの右側を縫うときは、ピンの左に、ファスナー押えをとりつけます。



①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。

②あき部分は、しつけをします。

★縫い方



③上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。

④下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して、下に折り返します。

⑤ファスナーのむし⑧を、折り山④にそわせて、布をファスナーの台布にのせます。

⑥押えをピンの右にとりつけます。

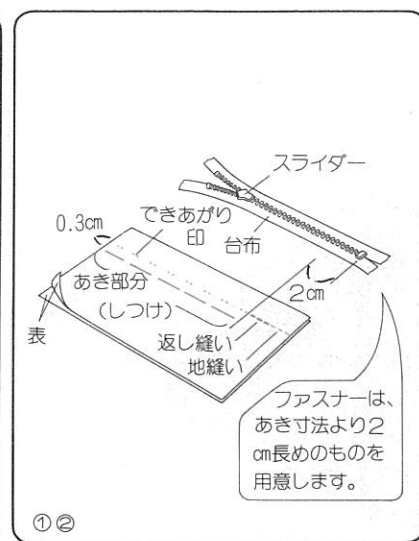
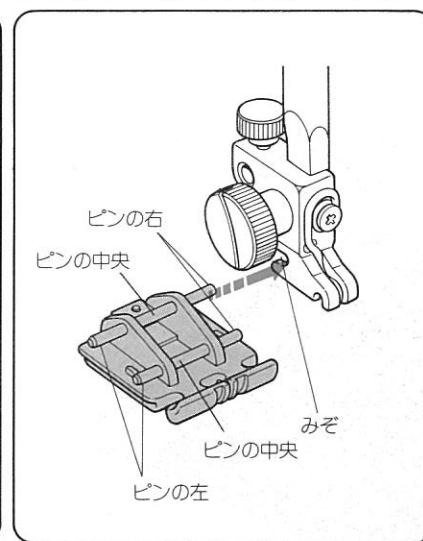
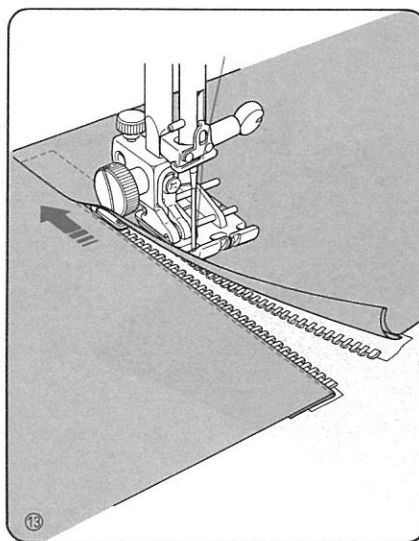
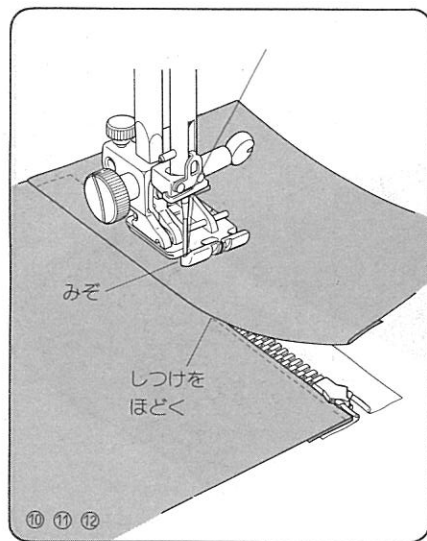
縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。

⑦押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止めます。

⑧上下停針キーを押して針をさげ、押え上げをあげます。スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

⑨スライダーをとじ、布をひらいて、表にします。

★コンシールファスナーつけ



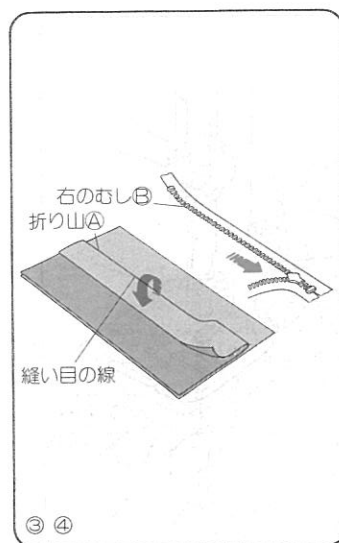
- ⑩押えをピンの左につけかえ、布の上から押えのみぞにファスナーのむしをあてて縫います。
- ⑪押えがスライダーにあたる手前でミシンを止めます。
- ⑫上下停針キーを押して針を布にさし、押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。
- ⑬スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

* ミシンのセッとは44ページをらんください。

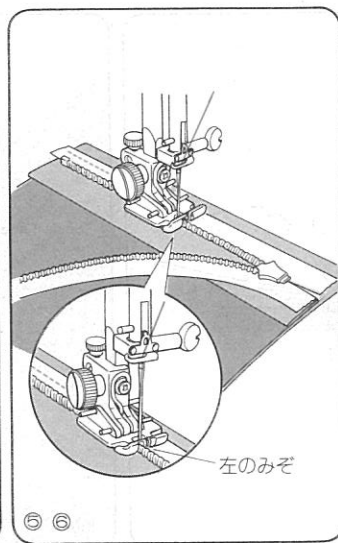
* むしの左側と右側を縫うときは、ピンの中央に、ファスナーの台布の左側を縫うときはピンの右、台布の右側を縫うときはピンの左にとりつけてください。

①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。

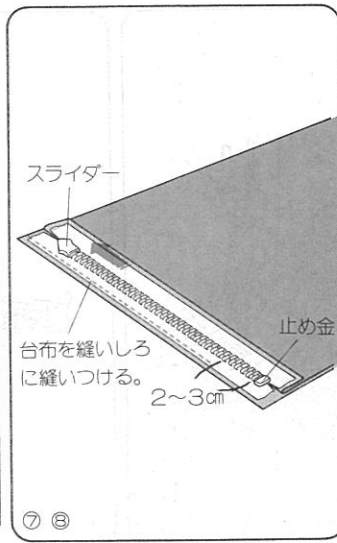
②あき部分は、地縫い線（できあがり印）から、0.3cm内側に「しつけ」をします。



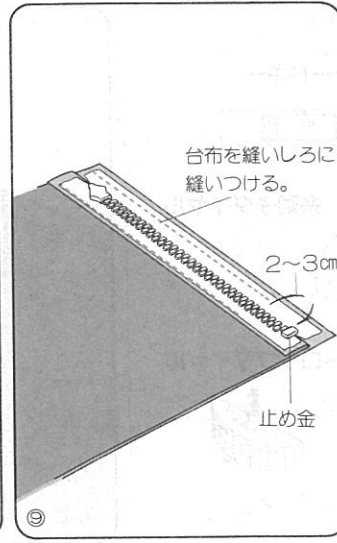
③ ④



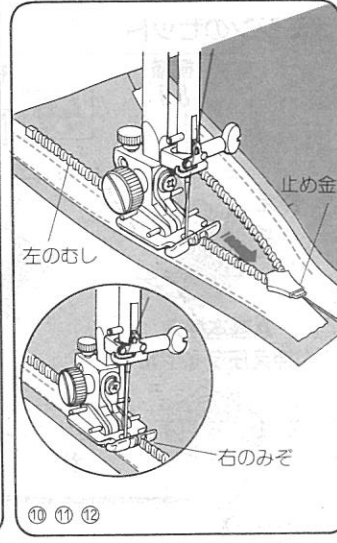
⑤ ⑥



⑦ ⑧



⑨



⑩ ⑪ ⑫

③上の布の縫いしろを、縫い目の線で身頃側へ折り返します。

④ファスナーをひらいて、右のむし⑧を、折り山⑤にあてておきます。

⑤押えをピンの中央にとりつけ、右のむしを立てて押えの左のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えをやや右によせて押え上げをさげます。

⑥むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

⑦押え上げをあげて、スライダーをとじます。

⑧押えをピンの右につけかえ、ファスナーの下の身頃を右側に折り返して、左側の台布

端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつけます。

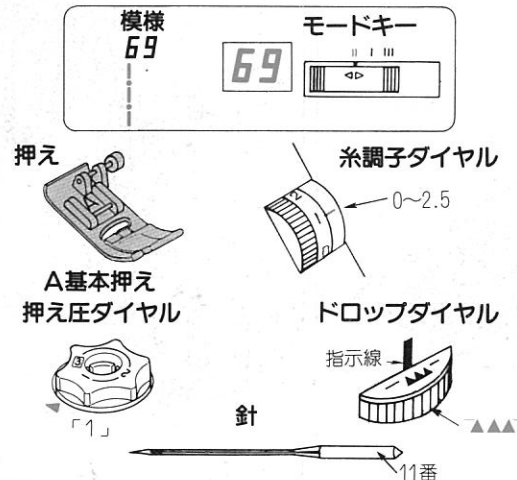
⑨押えをピンの左につけかえ、スライダーの下の方を左側に折り返して、右側の台布の端を縫いしろに、止め金から2~3cmのところまで縫いつけます。

⑩押えをピンの中央につけかえ、しつけをほどこし、スライダーの下の方を右側に折り返して、スライダーを止め金までいっぱいひらきます。

⑪左のむしをおこして押えの右側のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように押えをやや左によせて押え上げをさげます。

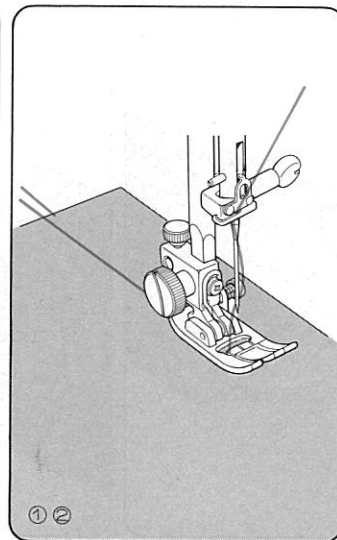
⑫むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

《ミシンのセット》



* ミシンの針目が残ると困るような布は、さけてください。

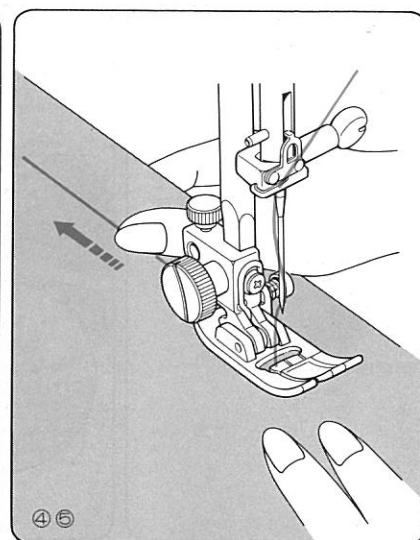
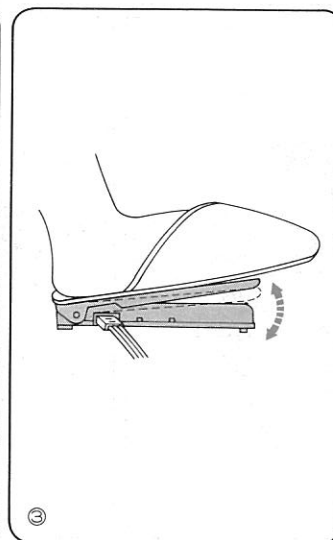
糸はジャンメマシン直営支店で販売しているミシン専用の「しつけ糸」を使用してください。



① 上糸と下糸を、向こう側に引いて、押え上げをさげます。

② 布を前後にピンと張って、縫いはじめます。

③ コントローラーをいっぱい踏みこみ、1針縫って針が止まったら、つま先をあげます。



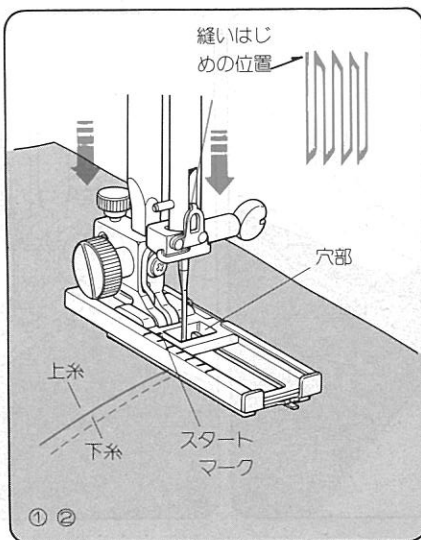
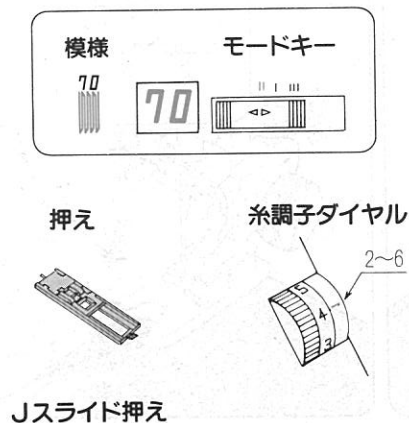
④ 縫い目をつまんで、布を向こう側へ引き、さらに②～③の手順をくり返します。

⑤ 縫い終わったら、糸と布を指で押さえて、向こう側に引き出し、糸を切ります。

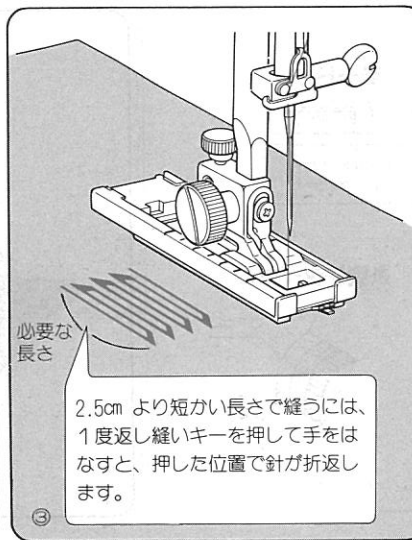
* 縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」、ドロップダイヤルを「—▲▲▲—」に戻しておきます。

ダーニング(つくろい縫い)

《ミシンのセット》



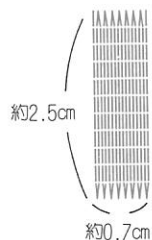
- ①上糸を、押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
- ②押えの下に布を入れ、縫いはじめの位置に針をさして押え上げをさげます。



- ③最初に必要な長さまで縫い、返し縫いキーを押して、針が自動的に止まるまでコントローラーを踏み続けます。
- ④布の向きをかえて①～③の手順をくり返します。

《ダーニングの記憶》

補修する巾が広くて、くり返し同じ長さのダーニングをするときは、③の手順のあとに記憶キーを押します。押え上げをあげて布を左にずらし、縫い終わった位置に針をさして押え上げをさげ、ふたたび縫います。



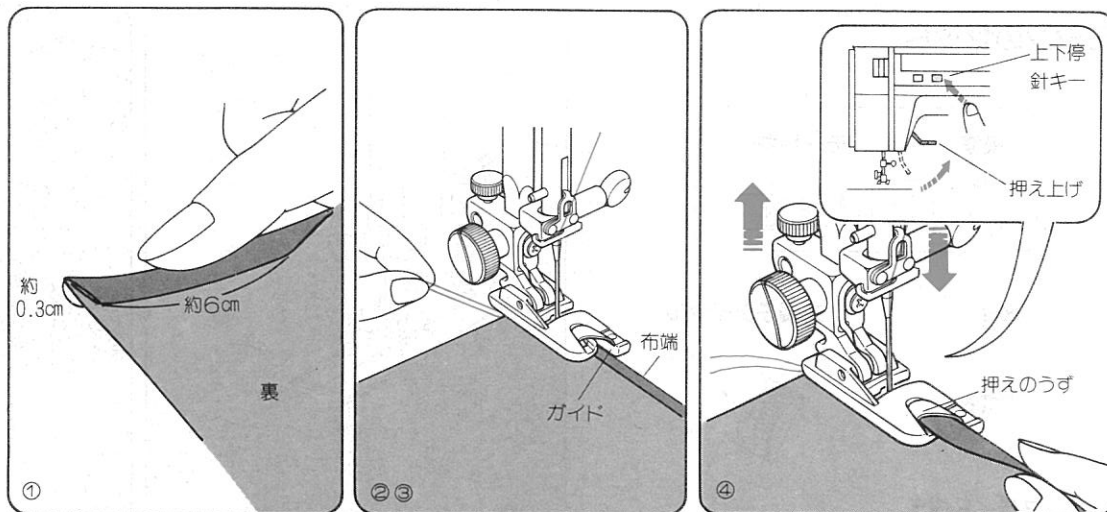
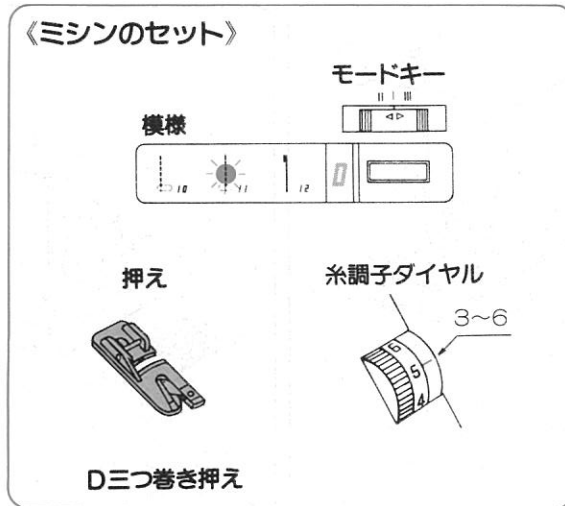
1回の縫いで、
最大長さ約2.5cm
最大巾約0.7cm
まで縫えます。

- *はじめから縫いなおすときは、模様  を選びなおしてください。
- *ダーニングの縫いはじめ(左側)と、縫い終わり(右側)の高さがそろわないときは、72ページをごらんください。

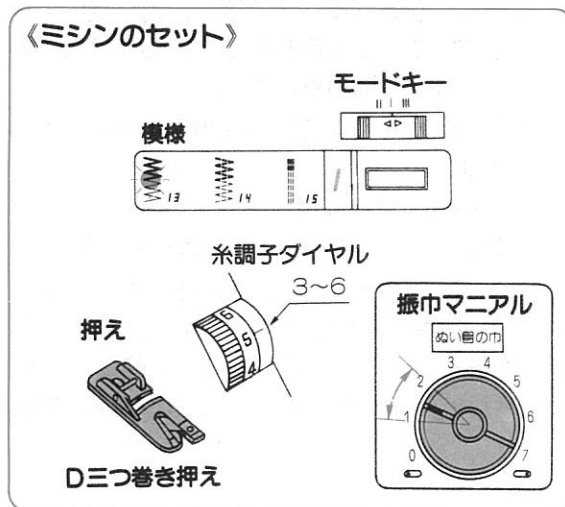


三つ巻き縫い

★直線三つ巻き縫い



★ジグザグ三つ巻き縫い

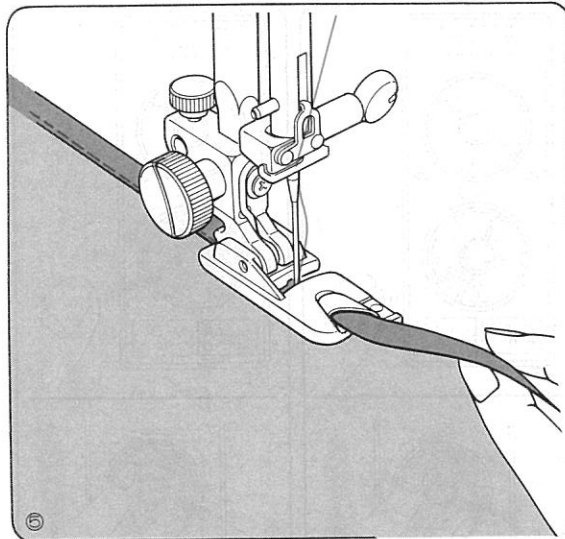


- ①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で2度折りまげます。
- ②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
- ③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2cm縫います。

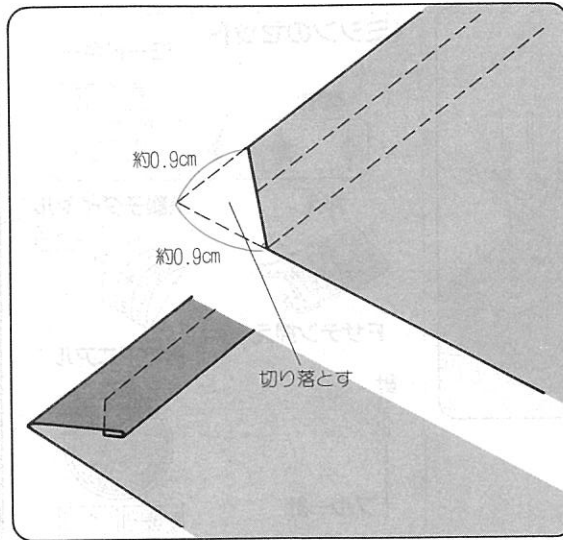
- ④上下停針キーを押して針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を、押えのうずの中に巻きこみます。

- * 折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと縫いやすくなります。
- * 縫い方は、直線三つ巻き縫いジグザグ三つ巻き縫いとも同じです。

★布端のしまつ



⑥押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。

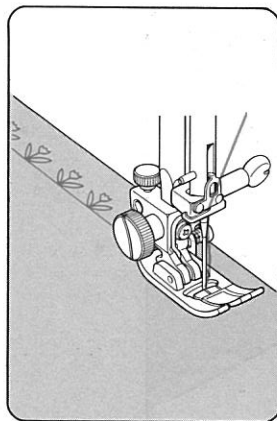
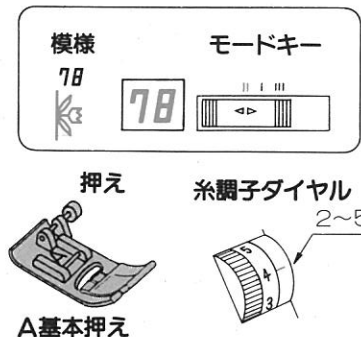


三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

スーパー模様縫い

エロンゲータ縫い

《ミシンのセット》



縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげ、コントローラーを踏んで縫います。

* 模様は 11 、 12 、 13 、 14 、 15 、 16 、 17 、 18 、 19 、 20 、 21 、 22 、 23 、 24 、 25 、 26 、 27 、 28 、 29 、 30 、 31 、 32 、 33 、 34 、 35 、 36 、 37 、 38 、 39 、 40 、 41 、 42 、 43 、 44 、 45 、 46 、 47 、 48 、 49 、 50 、 51 、 52 、 53 、 54 、 55 、 56 、 57 、 58 、 59 、 60 、 61 、 62 、 63 、 64 、 65 、 66 、 67 、 68 、 69 、 70 、 71 、 72 、 73 、 74 、 75 、 76 、 77 、 78 、 79 、 80 、 81 、 82 、 83 、 84 、 85 、 86 、 87 、 88 、 89 、 90 、 91 、 92 、 93 、 94 、 95 、 96 、 97 、 98 、 99 、 100 が使えます。

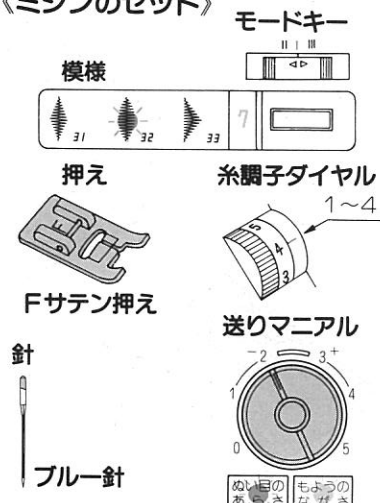
* 模様 11 、 12 、 13 は、振巾マニュアルで調節すると、縫い目の巾とあらさが同時に変化して、相似的に小さくなります。また、送りマニュアルで調節すると、さらに変化した模様ができます。(「5」以上の目盛で使用してください。)

* 11 をのぞいた模様は、振巾マニュアルと送りマニュアルで巾やあらさをかえることができます。

* 縫いはじめとおわりに止め縫いをするときは、止め縫いキーを使ってください。

* 模様が整わないときは、72ページをごらんください。

《ミシンのセット》



縫い目のあらさが一定で、模様ガのびちぢみします。

* 模様は、 31 、 32 、 33 、 34 、 35 、 36 、 37 、 38 、 39 、 40 、 41 、 42 、 43 、 44 、 45 、 46 、 47 、 48 、 49 、 50 、 51 、 52 、 53 、 54 、 55 、 56 、 57 、 58 、 59 、 60 、 61 、 62 、 63 、 64 、 65 、 66 、 67 、 68 、 69 、 70 、 71 、 72 、 73 、 74 、 75 、 76 、 77 、 78 、 79 、 80 、 81 、 82 、 83 、 84 、 85 、 86 、 87 、 88 、 89 、 90 、 91 、 92 、 93 、 94 、 95 、 96 、 97 、 98 、 99 、 100 が使えます。

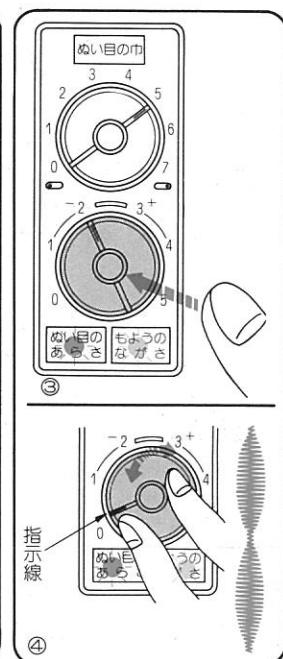
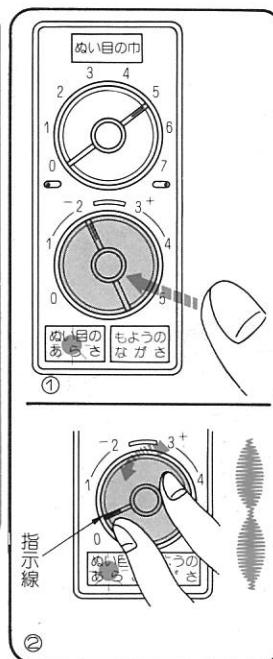
* 布が縮むときは、下に紙をしいて縫うと、きれいに仕上がります。

* 模様の長さは、1~5倍の範囲でかえられます。

* 縫い目の巾をかえると、模様はさらに変化します。

* 送りマニュアルをもとの自動セットに戻すには、送りマニュアルをもう1度押してください。このとき、赤と黄色のシグナルが消えます。

* 模様 31 、 32 、 33 、 34 、 35 、 36 、 37 、 38 、 39 、 40 、 41 、 42 、 43 、 44 、 45 、 46 、 47 、 48 、 49 、 50 、 51 、 52 、 53 、 54 、 55 、 56 、 57 、 58 、 59 、 60 、 61 、 62 、 63 、 64 、 65 、 66 、 67 、 68 、 69 、 70 、 71 、 72 、 73 、 74 、 75 、 76 、 77 、 78 、 79 、 80 、 81 、 82 、 83 、 84 、 85 、 86 、 87 、 88 、 89 、 90 、 91 、 92 、 93 、 94 、 95 、 96 、 97 、 98 、 99 、 100 を選んでいる間は、送りマニュアルのセットが継続されます。



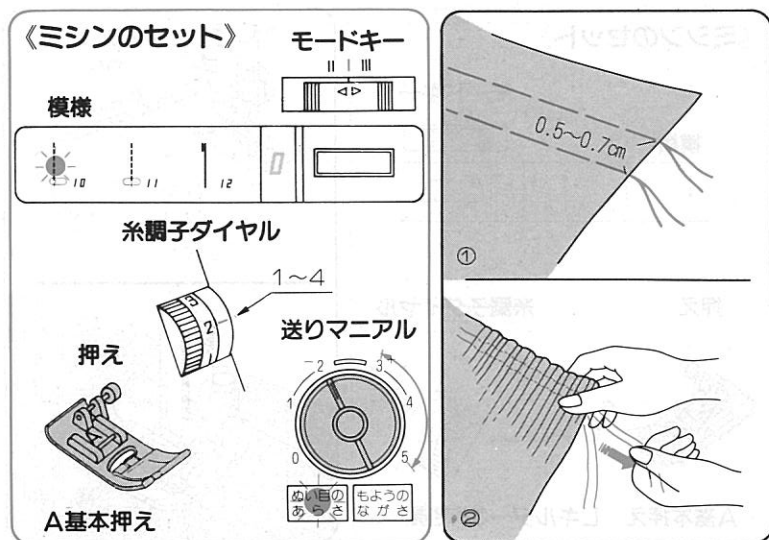
①送りマニュアルを押して、赤いシグナルをつけます。

②つまみをまわして、指示線を目盛りに合わせ、縫い目のあらさを選びます。

③もう一度マニュアルを押して、黄色いシグナルをつけます。

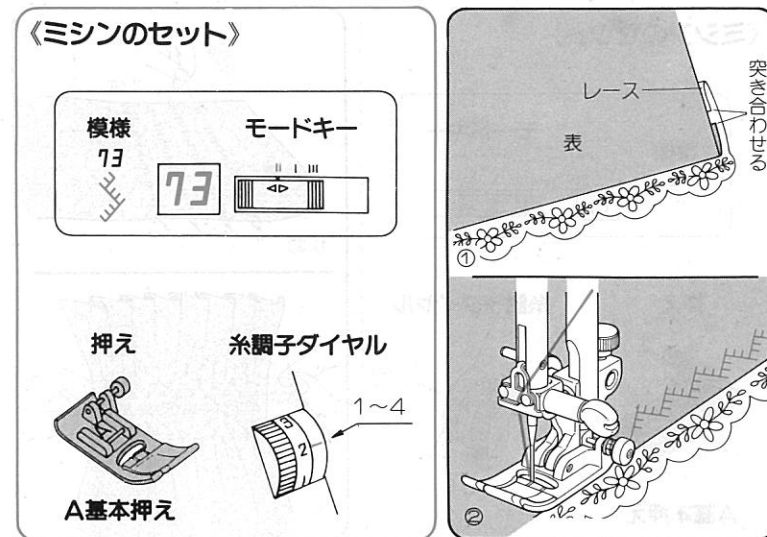
④つまみをまわして、指示線を目盛りに合わせ、模様の長さを選びます。

ギャザーよせ



- ① 0.5~0.7cmの間かくで2本平行に縫います。
- ② 布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引き、平均にひだをよせます。

レースつけ



* 模様は、 ∇_{21} 、 ∇_{12} 、 ∇_{14} 、 ∇_{15} 、 ∇_{19} 、 ∇_{22} 、 ∇_{24} 、 ∇_{27} が使えます。

- ① 布端を裏側に、レースの端を表側に折り返して、折り返した部分のふちを、突き合わせます。
- ② 布の表から突き合わせ線を中心にして縫います。

《ミシンのセット》

模様

モードキー

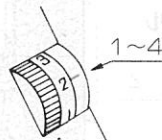
75

75

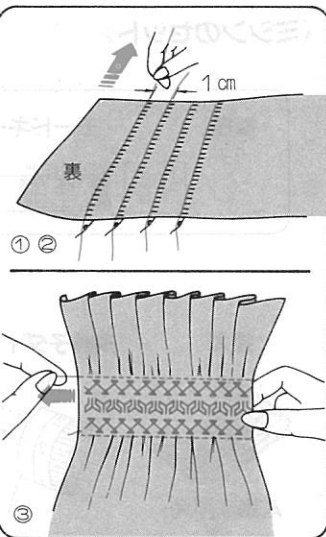
モードキー

押え

糸調子ダイヤル



A基本押え



* 模様は $\downarrow_{10}$, $\downarrow_{12}$, $\downarrow_{15}$, $\downarrow_{18}$ が使えます。

- ① 上糸調子を弱くして、縫い目のあらかさ 0.3 ~ 0.4cm の直線を、1cm の間かくで数本縫います。
- ② 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
- ③ 直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

《ミシンのセット》

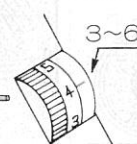
模様

モードキー

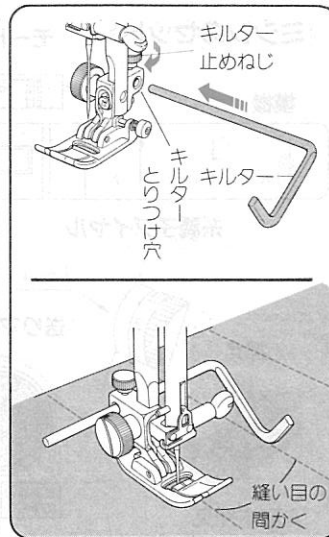
モードキー

押え

糸調子ダイヤル



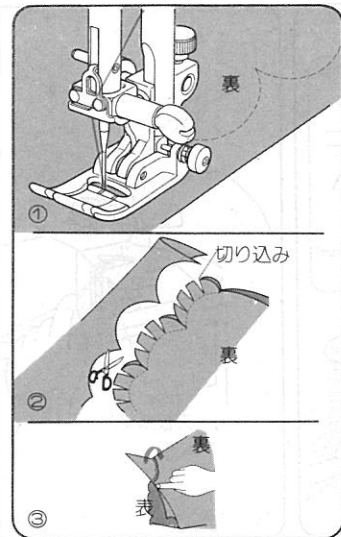
A基本押え Lキルター(棒定規)



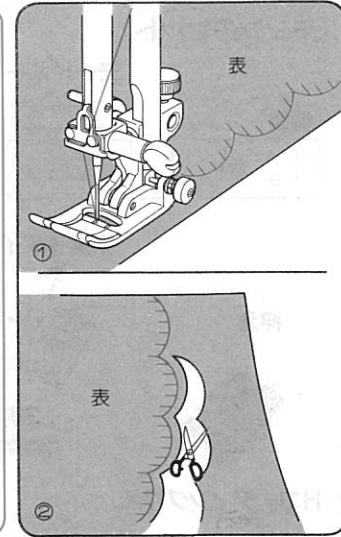
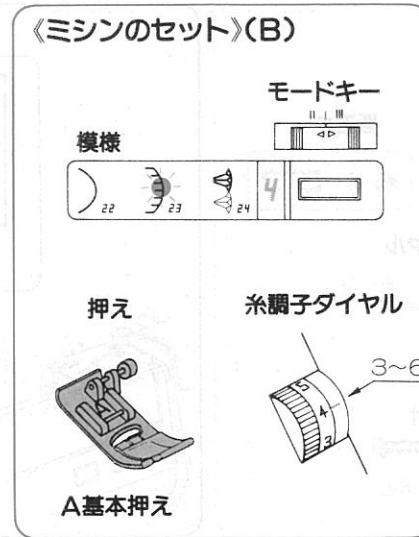
* 模様は $\downarrow_{10}$, $\downarrow_{12}$ が使えます。

キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。



- ①布を中表に折り、その端を縫います。
- ②縫い目にそって、0.3cmくらい縫いしろを残して切りとり、縫いしろに切りこみを入れます。
- ③布を表に返して、スカラップの山を表に出し、アイロンで仕あげます。



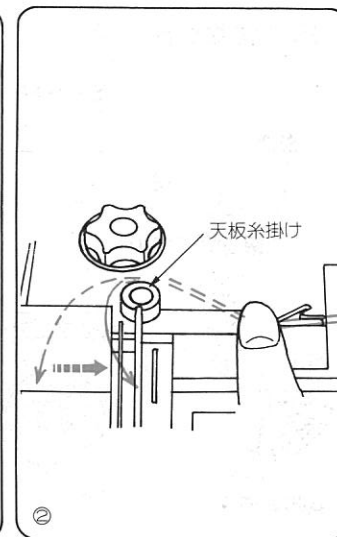
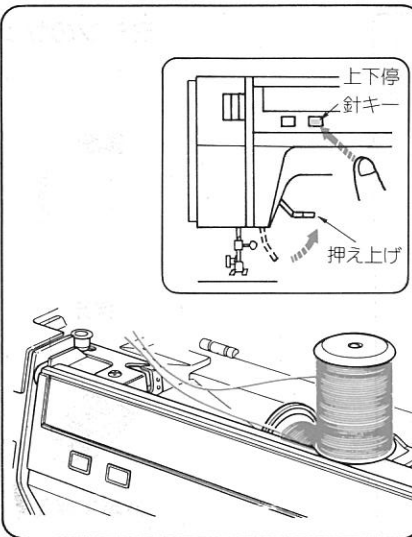
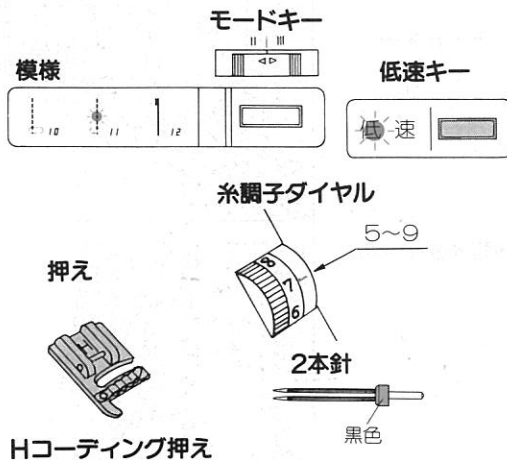
- ①布を表から、布端を1 cmくらい残して縫います。
 - ②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。
- * 布は返しません。

《送りマニュアルの操作でかわる縫い目の変化》

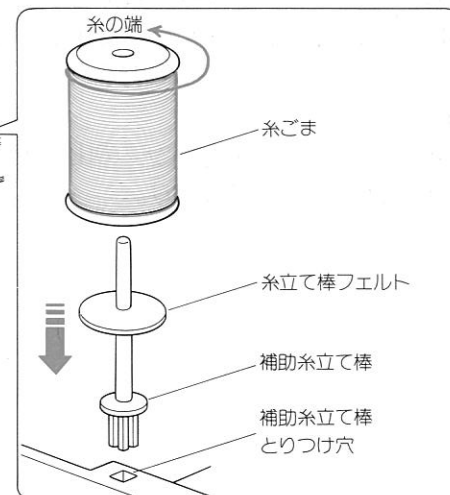
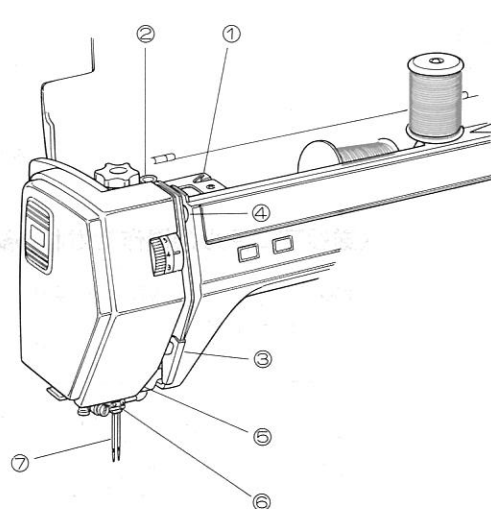
目盛り	縫い目の変化
5	
3.5	
2.5	

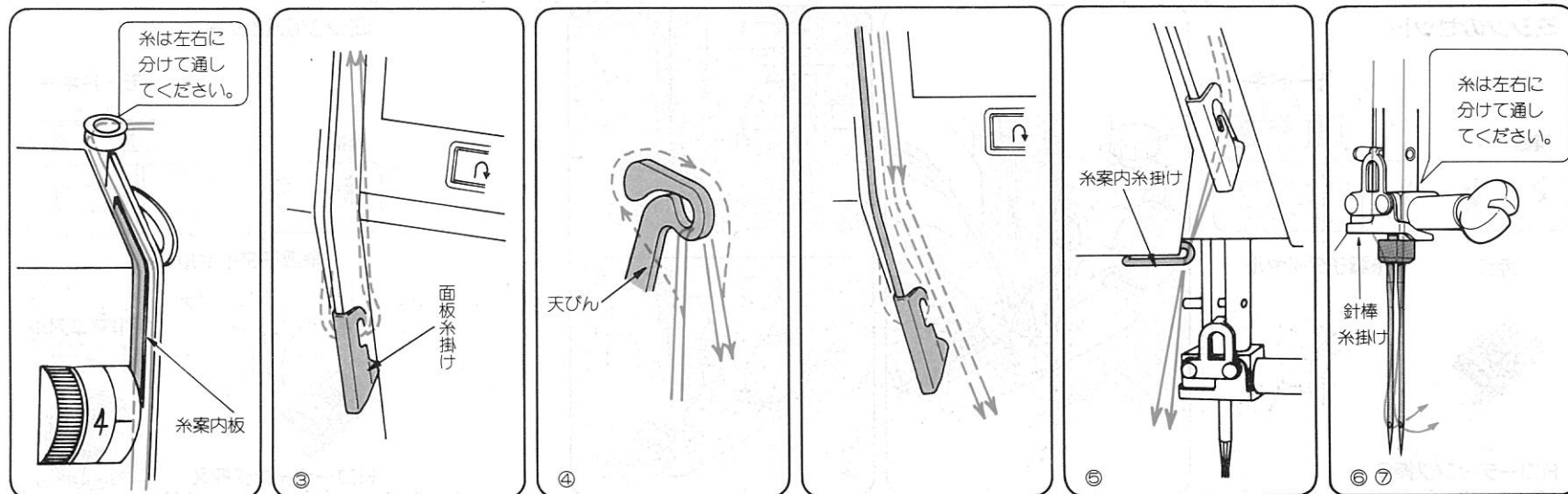
《上糸の掛け方》

《ミシンのセット》

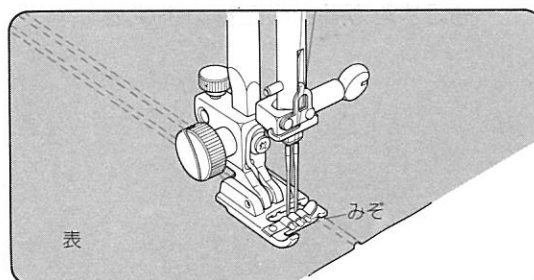


- * 針のとりかえは、ミシンのセットをした後に行なってください。
 - * 振巾マニュアルは使わないでください。
 - * 補助糸立て棒を立て、糸こまを入れます。
 - * 糸通しは使えませんが、針の手前からこう側に、手で糸を通してください。
- 押え上げをあげ、上下停針キーを押して針を上げます。
- 糸こまから糸を引き出します。
- ① 2本の糸をつまみ、下に押しこむようにして一緒に天板糸案内に掛けます。
- ② 糸を指先で軽く押さえ天板糸掛けの下に巻きつけるようにして掛けます。





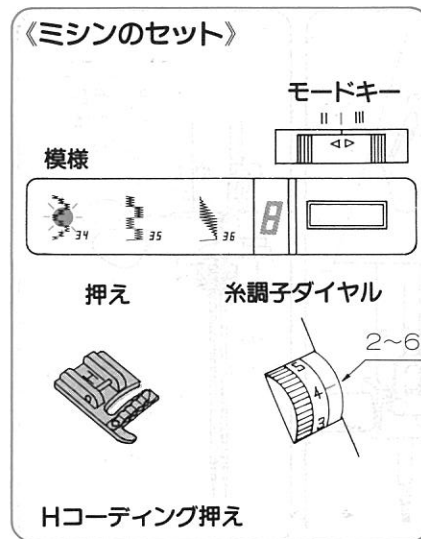
- 糸案内板のところで左右に分けておろします。
- ③面板糸掛けの下をまわして右上に引きあげます。
- ④天びんに左からうしろへまわして右手前に出しまっすぐ下におろします。
- ⑤糸案内糸掛けに右から左に掛けます。
- ⑥針棒糸掛けに左右に分けて掛けます。
- ⑦針に糸を通します。



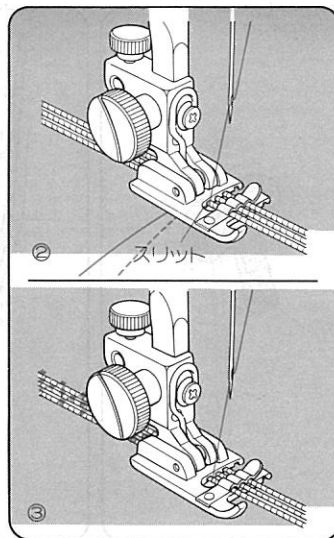
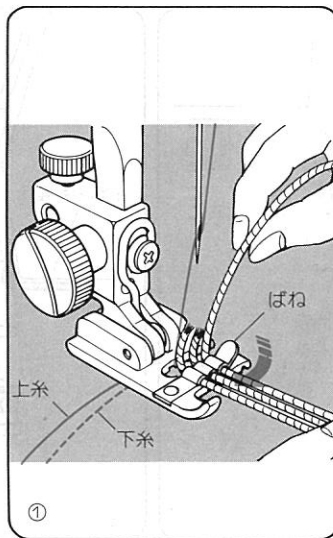
布を前後にピンと張りながら縫います。0.4 cmくらいの間かくで、何本かのピンクツクをするときは、コーディング押えの裏のみぞに、前に縫ったピンタツクの山を入れて縫えば平行にできます。

アイロンで山を、片側に倒します。

★3本ひものとき

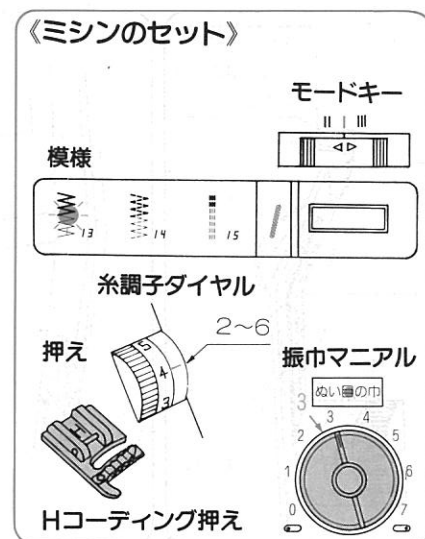


* 模様は 、 が使えます。



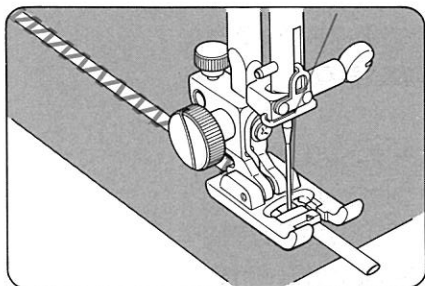
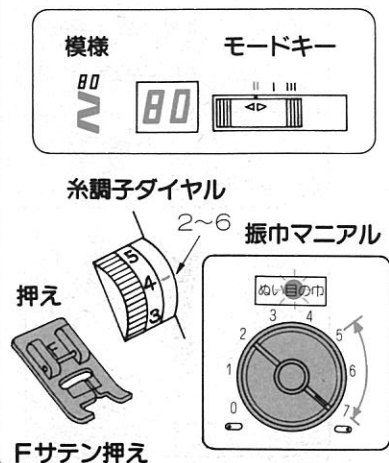
- ①ひもを、押えのばねの下にくぐらせ、みぞに通します。
- ②向こう側に10cmくらい引き出し、押えのスリットから押えの下をくぐらせ、押えの裏のみぞに入れます。
- ③3本のひもを平行にそろえて、縫い目がひもにまたがるように縫います。

★1本ひものとき



* 1本ひものときは、押えの中央のみぞを使います。

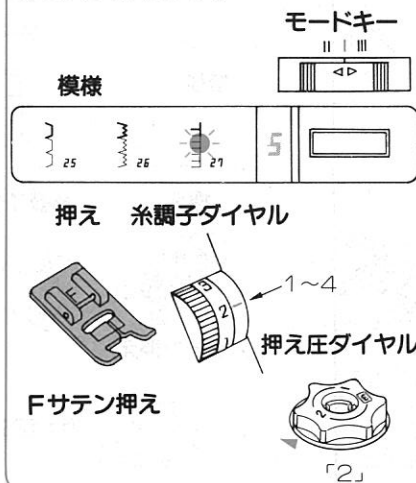
《ミシンのセット》



押えの下に0.5~0.6cmのコードやブレードなどを入れて縫います。

*コードやブレードの縫いはじめの部分と同色の糸で布に止めておくと、抜け落ちるのが防げます。

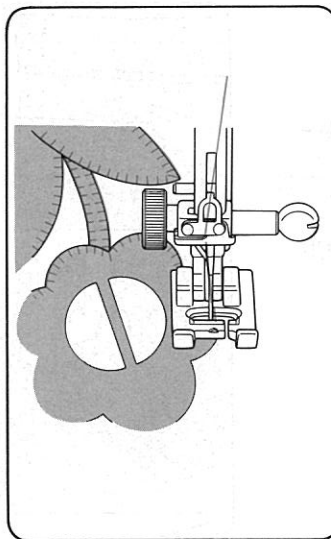
《ミシンのセット》



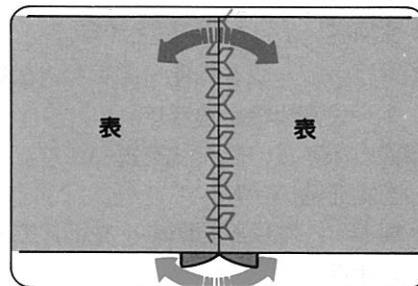
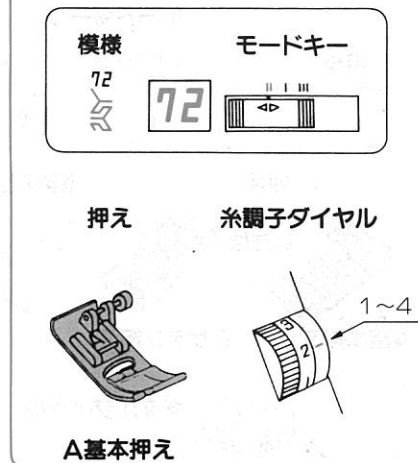
アップリケを糊づけするか、しつけで止めます。アップリケ布は、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

*急角度のところで向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

*縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。



《ミシンのセット》

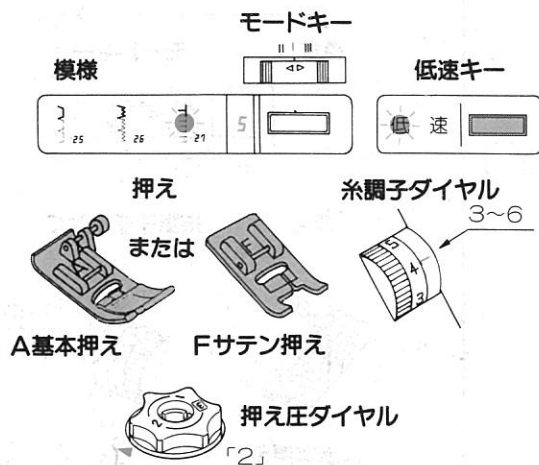


※模様は                     が使えます。
布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

ドロンワーク

カットワーク

《ミシンのセット》



* 模様は 15、21 が使えます。

①ドロンワークする部分の両わきの織り糸を1～2本抜きとります。

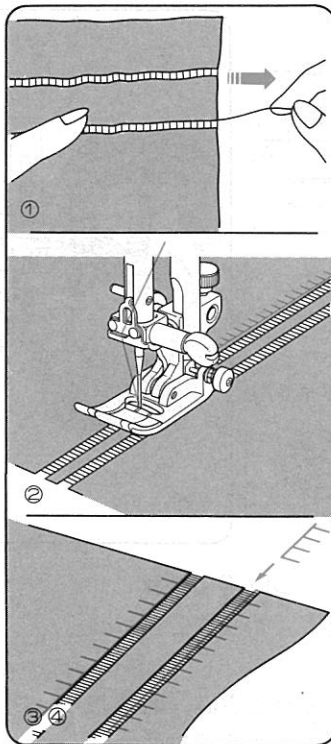
②織り糸を抜いた左側を縫います。

③右側を縫います。

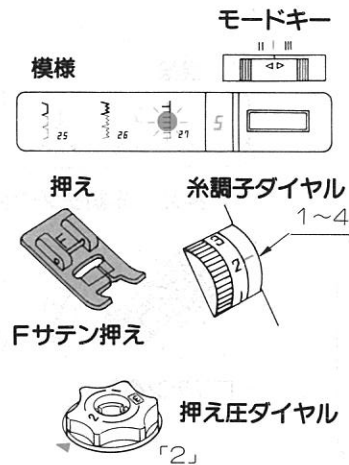
* 模様 21 は反転記憶キーを押して右側を縫います。

④ドロンワークする部分の織り糸全部を抜きとります。

* 縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。



《ミシンのセット》

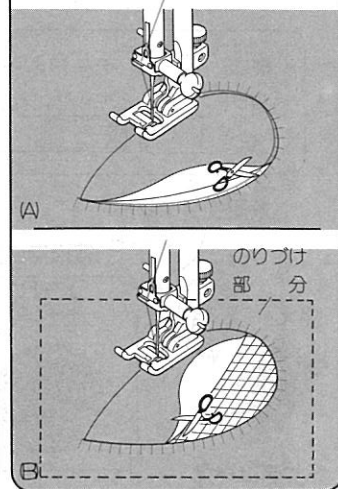


(A) 布の表から模様のふちをかがり、かがった糸を切らないように中を切り抜きます。

(B) 布の裏に、模様の内側にはみ出さないように、糊をつけ、チュールをはりつけます。
布の表から模様のふちをかがり、かがった糸と布の下のチュールを切らないように、布を切り抜きます。

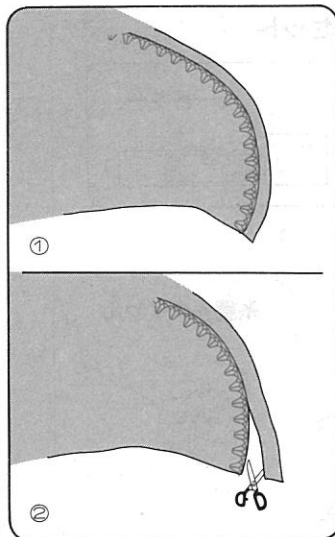
* 縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

《チュールをつけるとき》

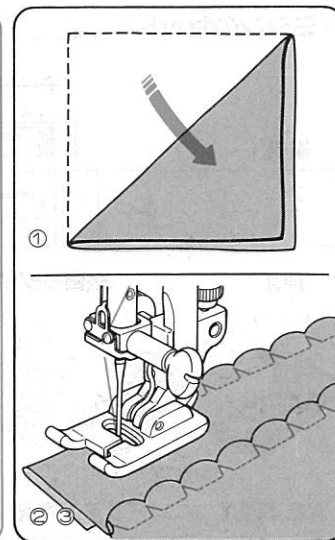
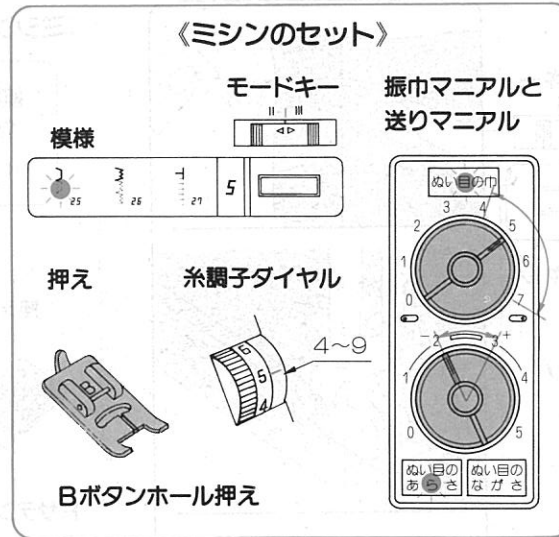


貝形ふちかがり(ブランケットステッチ)

シェルタック



- ① 布の表から、布端を1cmくらい残して縫います。
- ② 糸を切らないように、布端を切り落とします。

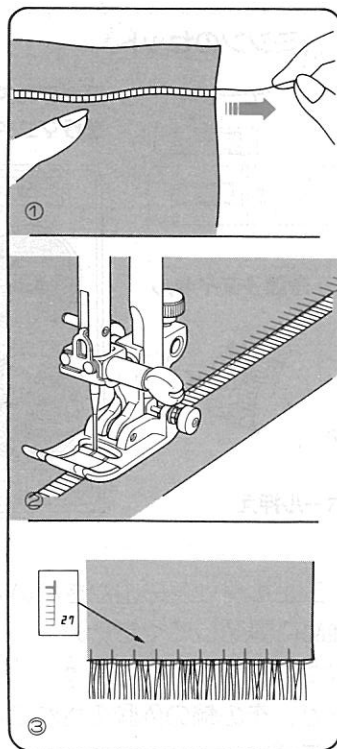
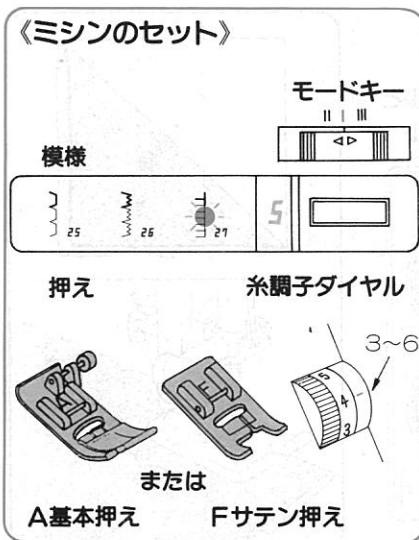


- * 糸調子は、シェルタックの山がきれいに出るように強めに調節してください。
- ① 布をバイアスに2つ折りにします。
 - ② 左の針落ちが、布の輪の外側のきわにのるようにして縫います。
 - ③ 布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

フリンジ縫い

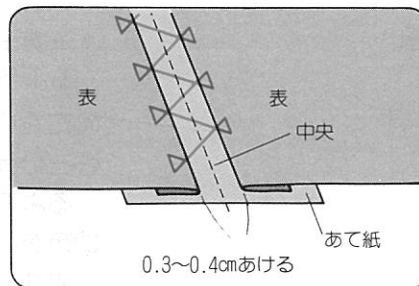
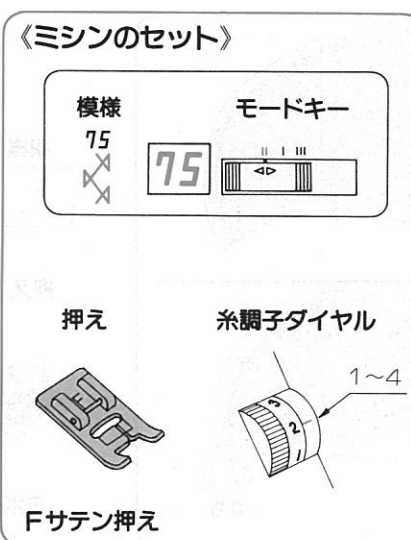
ファゴティング

飾りステッチ



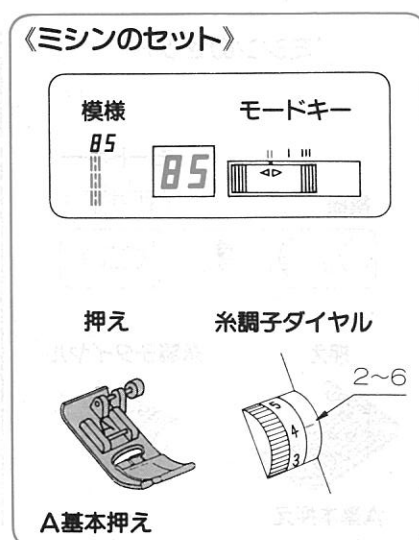
* 模様は  15  27  85 が使えます。

- ① フリンジの束になる部分の織り糸を、1~2本抜きとります。
- ② 織り糸を抜いた上を、縫います。
- ③ フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作ります。



* 模様は  15  72  75 が使えます。

- ① 布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて、裏にあて紙をします。
- ② 布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。
- ③ あて紙をとります。



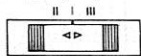
縫い目が引き立つような糸を選んで、布の表からミシンをかけます。

* 縫いはじめと、縫いの方向をかえるときは、つぎの針落ちの位置をよく確かめてください。

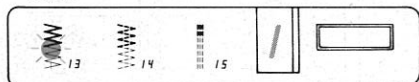
糸を使ったフリンジ

《ミシンのセット》(A)

モードキー



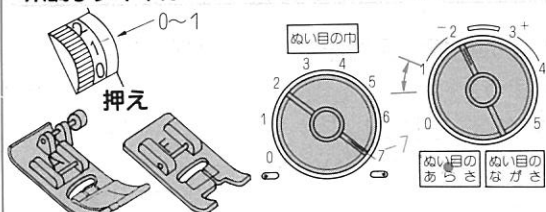
模様



糸調子ダイヤル

振巾マニュアル

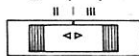
送りマニュアル



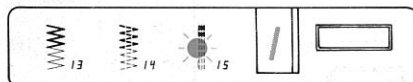
A基本押えまたはFサテン押え

《ミシンのセット》(B)

モードキー

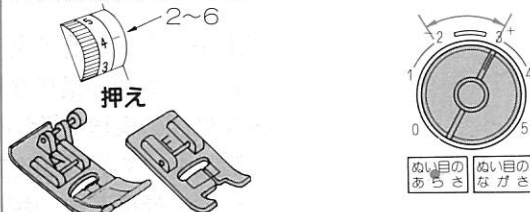


模様

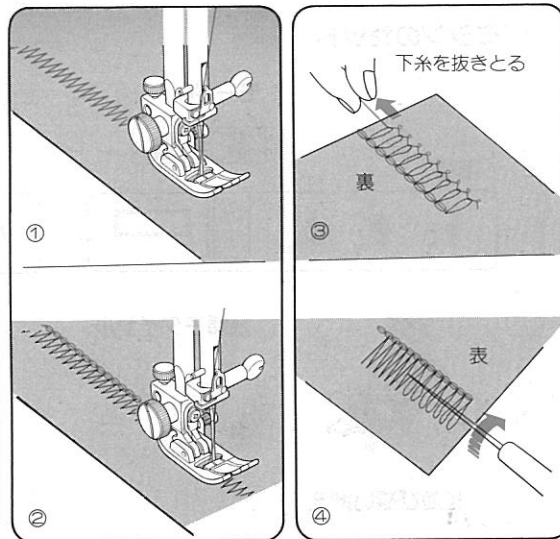


糸調子ダイヤル

送りマニュアル



A基本押えまたはFサテン押え



①(A)にセットして縫います。

*上糸が、布の裏にほぼ全部出るように上糸調子を弱くしてください。

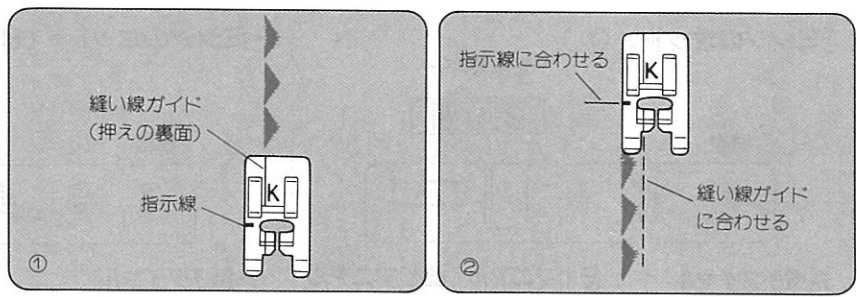
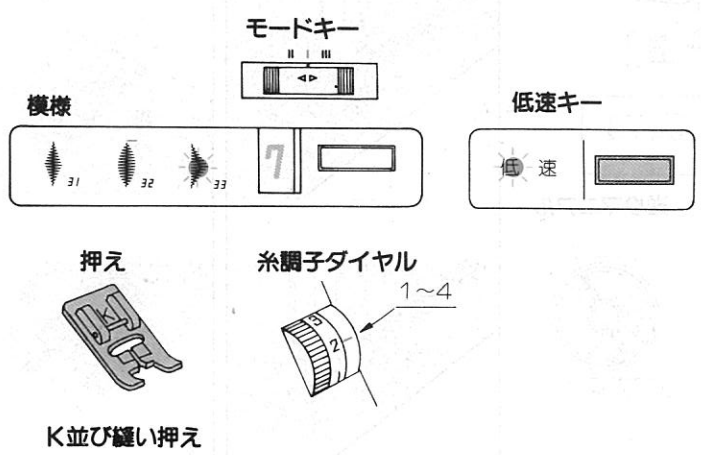
②(B)にセットして①の縫い目の右端を、三重縫いします。

③①で縫った下糸を、引き抜きます。

④太い針が、目ほどの背で、上糸を布の表に引きあげ、アイロンで仕上げます。

ならび模様縫い

《ミシンのセット》



- ①上糸と下糸をそろえて押えの右横に引き出し、1列目の模様を縫います。
 - ②1列目の模様を縫い線ガイドの左側にして、縫いはじめの位置を指示線に合わせて、2列目の模様を縫います。
- * 2列目の模様を縫うときは、記憶キーを押すと、模様のはじめから縫います。

模様をならべて刺しゅうをすることで、ポリウムのある広巾模様ができます。

〈K並び縫い押え〉は、となり合う模様がずれないように、縫い線ガイドがついています。

* 模様は  、 、  は  が使えます。模様 、、 は送りマニュアルで縫い目をあらくすると、きれいにそろいます。

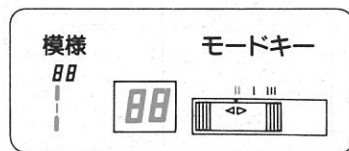
《縫いあがり例》



粒縫い

砂縫い

《ミシンのセット》



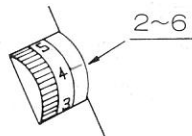
押え

糸調子ダイヤル

押え圧ダイヤル



Fサテン押え



「2」

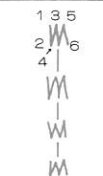


図案の輪かくをはつきりさせたいときなどに
使います。

図案にそって輪かくを縫います。

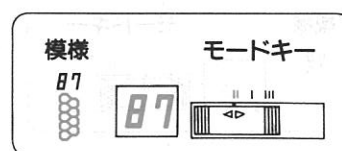
* 急なカーブを縫うときは、ゆっくり縫いま
す。粒の縫いはじめ、縫いおわりく縫い順
序> 1 または 6) で針を布に刺してミシンを
止め、布をまわしていくと粒の部分がきれ
いに縫えます。

* 縫い終わったら押え圧ダイヤルを「3」に戻
します。



《縫い順序》

《ミシンのセット》



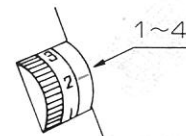
押え

糸調子ダイヤル

押え圧ダイヤル



Fサテン押え



「2」または「1」

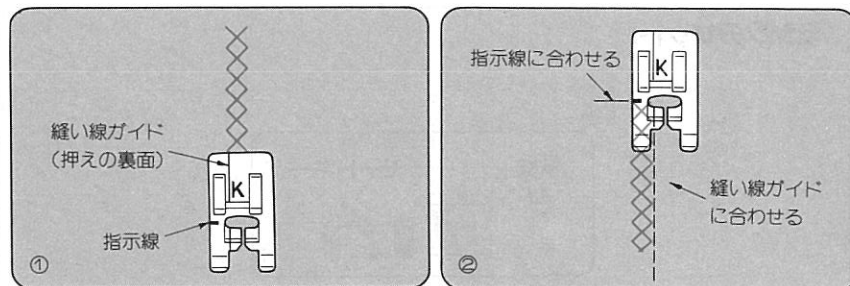
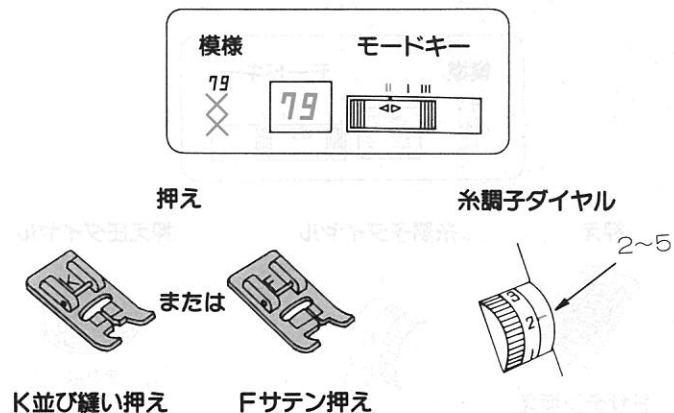


図案の中を縫いつぶすのに使います。出来あ
がりの感じが、砂をまいたように見えます。

* 角やせまい場所は、縫い目の巾を小さくし
て縫います。

* 縫い終わったら押え圧ダイヤルを「3」に戻
します。

《ミシンのセット》



- ① 上糸と下糸をそろえて押えの右横に引き出し、1列目の模様を縫います。
- ② 1列目の模様を、縫い線ガイドの左側にし、縫いはじめの位置を指示線に合わせて2列目の模様を縫います。

刺しゅうによく使われるクロスステッチができます。

* 振巾マニュアルで調整するとステッチの大きさが変わります。



ぼかし縫い

《ミシンのセット》



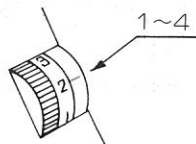
* 模様パネルには表示されていません。

押え



Fサテン押え

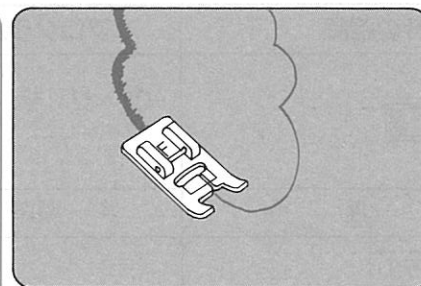
糸調子ダイヤル



押え圧ダイヤル



「2」または「1」



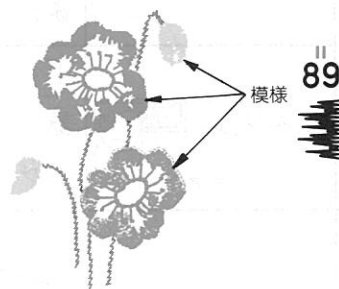
図案のふちどりや縫いつぶしなどに利用できます。

図案にそって縫います。

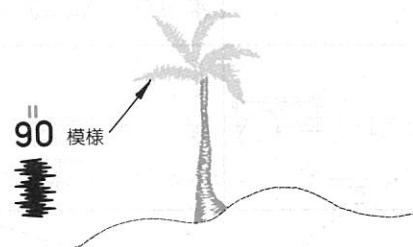
* 縫いおわったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻します。

* 縫い目のあらさや巾を変えると、変化したぼかし縫いができます。

* 別売りの丸型ししゅう枠とダーナー押えを使うと、よりきれいに仕上がります。



89 模様



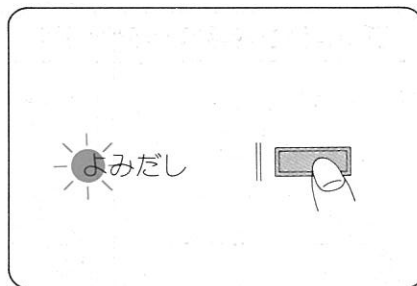
90 模様



* プログラムの途中やおわりに追加するとき

《よみだしキーの使い方》

プログラム内容の追加 II	
51 47 → 46 51 47 か い (「46 あ」を追加する) * プログラムのはじめに追加するとき	
キー操作	表 示
よみだし	51 記憶 (点灯) よみだし (点滅)
① 4 ② 5 の順に押す。	4 (下線点滅) ② 46 記憶 (点灯) よみだし (点滅)
記憶	46 記憶 (点灯) よみだし (点滅)
① 5 ② 1 の順に押す。	① 5 (下線点滅) ② 51 記憶 (点灯) よみだし (点滅)
記憶	51 記憶 (点灯) よみだし (点滅)
反転記憶 2度押す。	① 46 ② 51 記憶 (点灯) よみだし (点滅)
とりけし	46 記憶 (点灯) よみだし (点滅)
よみだし (完了)	46 記憶 (点灯) よみだし (点滅)



プログラムした内容を確認したり訂正したりするときに使います。
 よみだしキーを押した後で記憶キーを押すと、記憶した順番にプログラムされている模様を呼び出します。記憶をさかのぼって呼び出すときは、反転記憶キーを押します。必要な模様番号が呼び出せるまでキーを押します。

★プログラムの確認や訂正をするとき知っておきたいこと

1. プログラムの確認や訂正は、縫う前はもちろん、縫ったあとでもできます。
2. モードキーが のときは、模様 ~ に赤いシグナルが表示されます。
3. プログラムの訂正途中で、同じ模様を続けて追加するときは、1個記憶させるたびに模様を選び直します。
4. プログラムの途中やおわりに模様を追加するときは、追加しようとする模様の前にくる模様番号を呼び出すまで、記憶キーをくり返し押します。
5. プログラム内容の1部を取り消すときは、取り消そうとする模様が呼び出されるまで、記憶キーをくり返し押します。
6. プログラムのはじめに止め縫いの追加はできません。

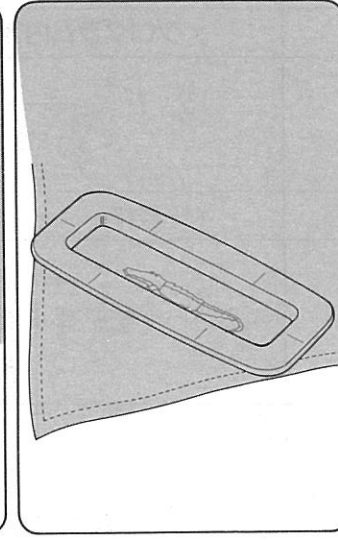
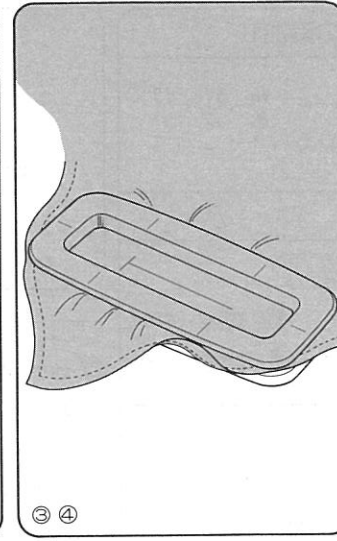
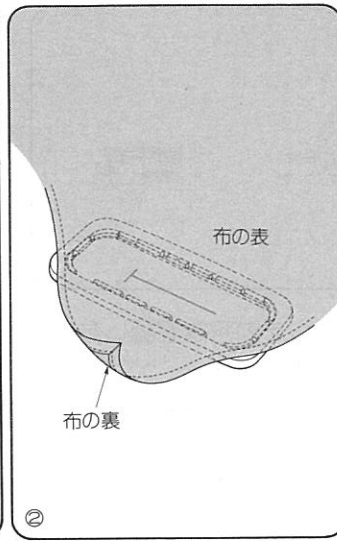
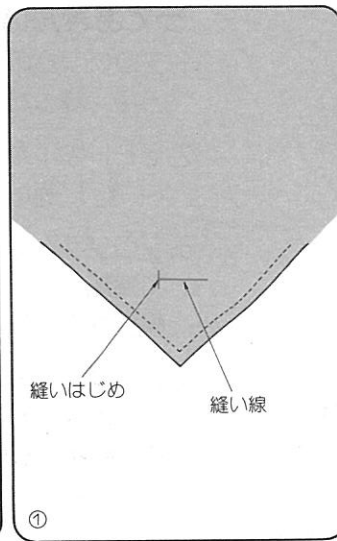
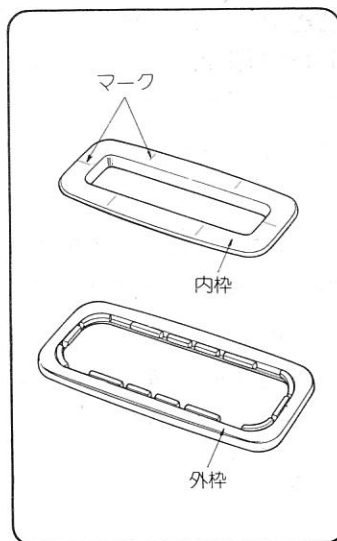
* はじめに止め縫いが記憶されていても、同じやり方で追加します。



ししゅう枠の使い方

(在庫ナシ)

《利用例》



ししゅう枠は内枠と外枠からできています。ペンギンやわに、ちょうちょうなどのワンポイントししゅう、アルファベットのイニシアルししゅうをうすい布にさす場合に、ししゅう枠を用いると縫いあがりのきれいなししゅうができます。

①ししゅう位置を、あらかじめ布に、水で消えるチャコでしるしをつけます。

*他の布に試し縫いをしてそれぞれの模様や文字を組み合わせた時の縫いあがりの長さを覚えておきましょう。

②布の表を上に向けて、外枠にかぶせます。縫い方向が枠に平行になるように布目を整えます。

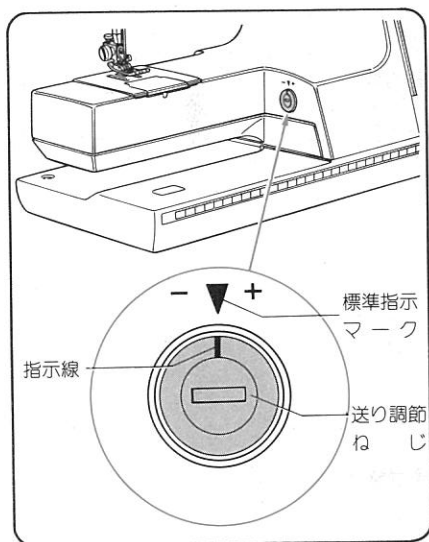
③布のしるしと、ししゅう枠の内枠のマークを合わせながら、内枠を布の上から外枠に押し入れ、布を張ります。

*縫いはじめと縫い線が内枠のマーク線と合っていないときは、もう一度布目を整えて内枠をはめ直してください。

④押えの中心を縫い線に合わせ、針を縫いはじめのしるしにさし、押え上げをさげて縫いはじめます。

模様の形の整え方

布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら、送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。



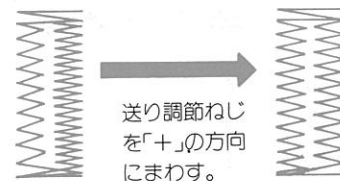
*標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。

★ボタン穴かがりの左右の縫い目のそろえ方

ボタン穴かがりの左右の縫い目のあらかさがそろわないときは、下の方法で調節します。

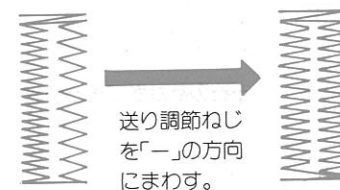
左側があらいつき

左右のあらかさがそろう。



右側があらいつき

左右のあらかさがそろう。

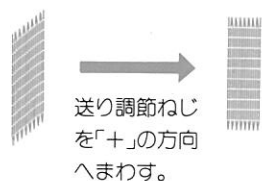


★ダーニングの形の整え方

ダーニングの縫いはじめ(左側)と縫いおわり(右側)のたかさがそろわないときには、下の方法で調節します。

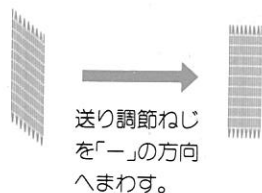
左側がひくいとき

左右のたかさがそろう



右側がひくいとき

左右のたかさがそろう

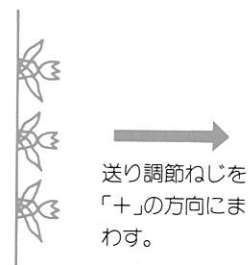


★スーパー模様の形の整え方

スーパー模様の形が伸びたり、つまったりして整わないときは、下の方法で調節します。

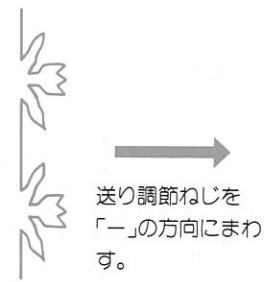
模様がつままっているとき

形が整う



模様が伸びているとき

形が整う



★文字・数字の形の整え方

《ミシンのセット》 *模様  は調整模様につき、パネル上には表示されていません。



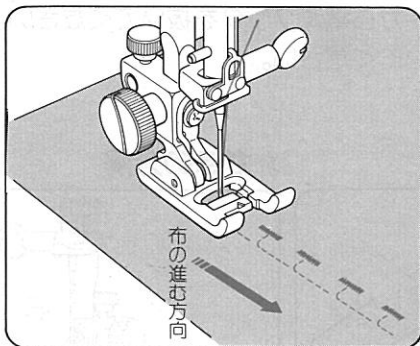
押え

糸調子ダイヤル



Fサテン押え

針  ブルー針



①上糸を押えの下から横に引き出して下糸とそろえ押えの下に布を入れます。

②コントローラーを踏んで縫い、縫いあがった模様の状態により下図のように調整します。

*模様が返し縫いで縫われ、布が普通縫いの逆の方向に進みますので、縫いはじめの位置に注意してください。

文字・数字が
つまっている

 で縫って
みる

形が整う

*ABCをつづ
けて縫った例

*横線が離れ
ている

送り調節ねじ
を「+」の方向
にまわす

*横線を
重ねる

文字・数字が
のびている

 で縫って
みる

形が整う

*ABCをつづ
けて縫った例

*横線が交差
している

送り調節ねじ
を「-」の方向
にまわす

*横線を
重ねる



ミシンの手入れと調整

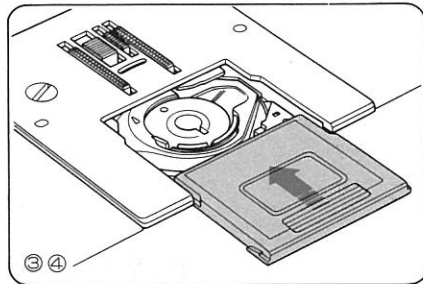
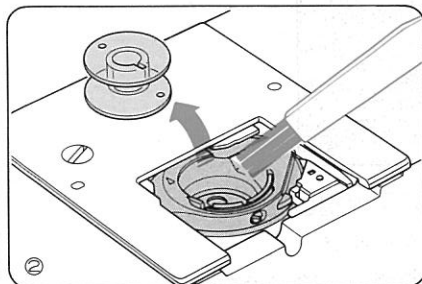
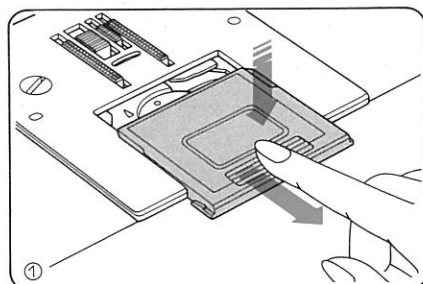
使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

* 手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

* 手入れのときには、説明されている個所以外は分解しないでください。

* このミシンは、注油の必要がありません。

★かまの掃除



糸くずや、ほこりがつくと、不調や故障の原因となりますので、いつもきれいにしておきましょう。

① すべり板の手前を押しながら引いて、すべり板をはずします。

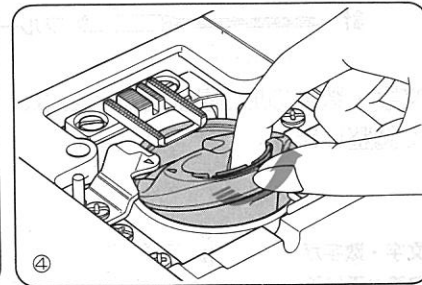
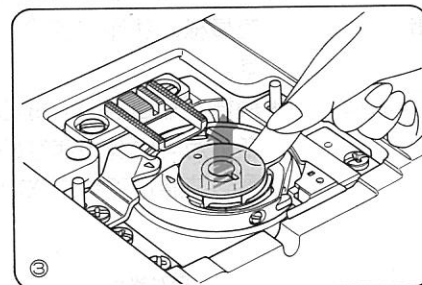
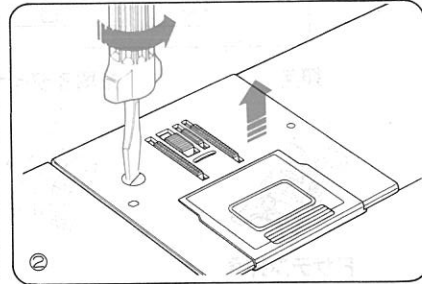
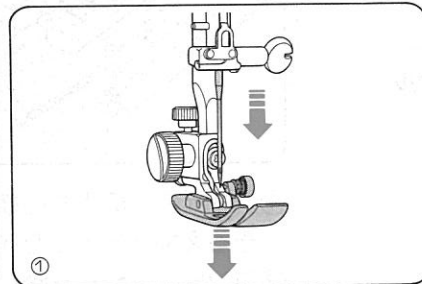
② ボビンをとり出し糸くずや、ほこりを、ブラシで掃除します。

* ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

③ ボビンを入れます。

④ すべり板をのせ矢印の方向へ押して、つけます。

★かまの分解



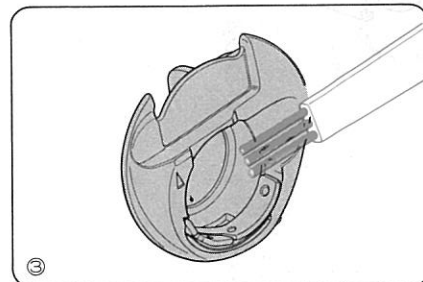
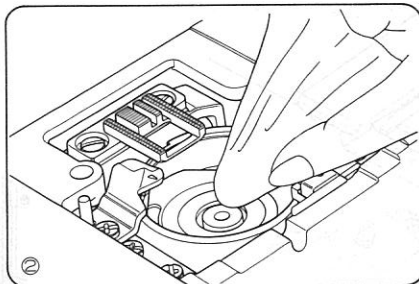
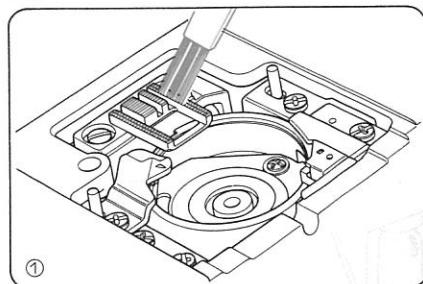
① 針と押えをはずします。

② 針板しめねじをはずし、針板をはずします。

③ ボビンをはずします。

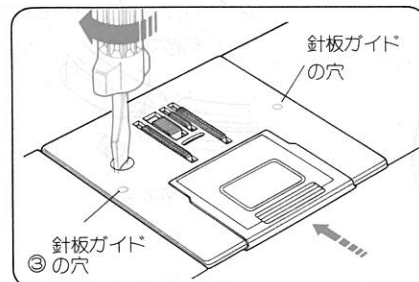
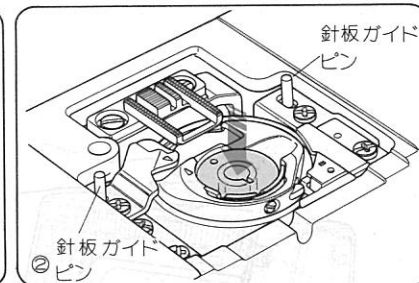
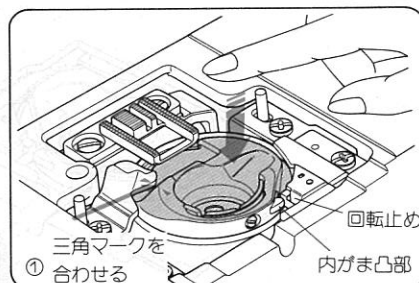
④ 内がまの手前を上へ引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除



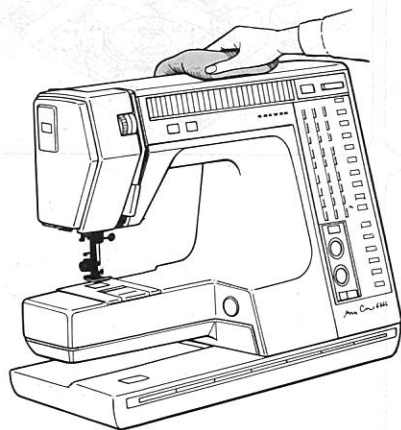
- ①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- ②外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ③内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て



- ①三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側に入るように、内がまをとりつけます。
 - ②ピンを入れます。
 - ③2か所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、しめねじをしめます。
- *手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

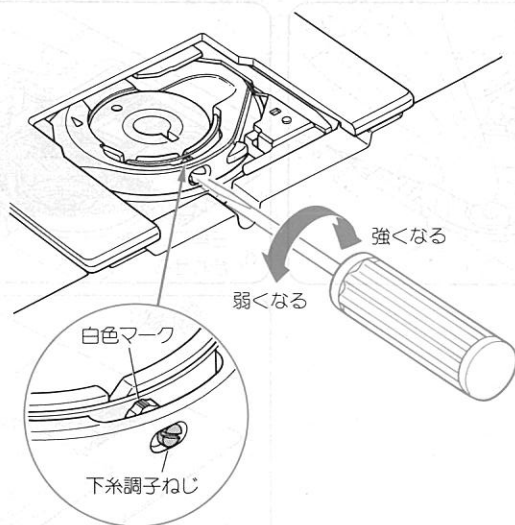
★外装の手入れ



ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとります。ポータブルケースは、中性洗剤などで軽くふきとります。

＊シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対に使用しないでください。

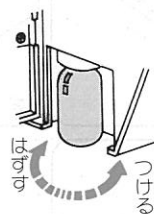
★下糸調子の出し方



下糸調子を標準に戻すには

- ①補助テーブルをはずし、すべり板を下に押しながら手前に引いて、はずします。
 - ②付属のねじまわし(小)で、下糸調子ねじを下糸調子が強くなる方向に止まるまでまわします。
 - ③下糸調子ねじを弱くなる方向にまわして、ねじの白色マークを真上にします。
- ＊下糸調子ねじを強くなる方向に止まるまでまわしたとき、白色マークが真上の位置にきていたら弱くなる方向に1回転戻します。これが標準の位置です。

★電球のとりかえ



はずすとき……左にまわします
つけるとき……右にまわします

＊電球(照明用100V-12W)はジャノメマシン直営支店でお求めください。

＊電球をとりかえるときは電源プラグを抜いてください。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
音が高い。 回転が出ない。	①かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯に、ごみがたまっている。	74、75ページ参照 74、75ページ参照
上糸が切れる。	①上糸の掛け方が、まちがっていたり、糸が、必要以外のところからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針が、まちがっていたり、針先が、つぶれている。 ④針のつけかたが、まちがっている。 ⑤縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下においていない。 ⑥縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑦針にくらべて、糸が太すぎるか、細すぎる。	10～11ページ参照 15ページ参照 20ページ参照 20ページ参照 13ページ参照 17ページ参照 14ページ参照
下糸が切れる。	①内がまに下糸の通し方が、まちがっている。 ②内がまの中に、ゴミがたまっている。 ③ボビンに、きずがあり、回転がなめらかでない。	9ページ参照 74、75ページ参照 ボビンを交換する。
針が折れる。	①針のつけ方が、まちがっている。 ②針が、まちがっていたり、針先が、つぶれている。 ③針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 ④上糸調子が、特に強すぎる。 ⑤縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥布にくらべて、針が細すぎる。 ⑦ピンタックで、模様  を選んでいない。	20ページ参照 20ページ参照 20ページ参照 15ページ参照 17ページ参照 14ページ参照 56ページ参照

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目がとぶ。	①針のつけ方が、まちがっている。 ②針がまがっていたり、針先が、つぶれている。 ③布に対して、針と糸が、合っていない。 ④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方が、まちがっている。 ⑥押え圧が弱い。 ⑦しつけのとき、布をぴんと張っていない。 ⑧品質の悪い針を使用している。 ⑨縫いおわって布をはずすとき、上糸を静かに引き出していない。 ⑩直線縫いのとき、模様  で縫って針落ちが、針または糸の種類に合っていない。	20ページ参照 20ページ参照 14ページ参照 14ページ参照 10、11ページ参照 19ページ参照 48ページ参照 針を交換する。 17ページ参照 模様  を選ぶ。
縫い目がしわになる。	①上糸調子が合っていない。 ②下糸調子が強い。 ③上糸下糸の掛け方が、まちがっていたり、糸が、必要以外の部分にからみついている。 ④布にくらべて、針が太すぎる。 ⑤布にくらべて、縫い目があらずすぎる。 ⑥押え圧が、合っていない。 *特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	15ページ参照 76ページ参照 10、11ページ参照 14ページ参照 縫い目を細かくする。 19ページ参照
縫いずれがおこる。	①押え圧が、合っていない。	19ページ参照
布送りがうまくいかない。	①送り歯に、糸くずがたまっている。 ②押え圧が、弱い。 ③縫い目が、細かすぎる。 ④縫いはじめで、布が送られない。 ⑤送り歯が、あがっていない。 ⑥段部で布を送らない。	74、75ページ参照 19ページ参照 縫い目をあらくする。 35ページ参照 42ページ参照 40ページ参照

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が、弱すぎる。 ②下糸調子が、合っていない。 ③糸にくらべて、針が太すぎるか、細すぎる。	15ページ参照 76ページ参照 14ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまの部分に、糸が巻きこまれている。 ③デジタル表示板の模様番号が、2桁とも点滅しているか、1の位の下線が点滅している。 ④よみだし表示用の赤いシグナルが点滅している。	6ページ参照 74、75ページ参照 23ページ参照 69ページ参照
コントローラーを踏んだとき2～3秒して電気が切れる。	①かまに、ゴミが入っている。	74、75ページ参照
模様が整わない。	①送り調節ねじが合っていない。 ②布に対して送りが合っていないため、模様が整わない。 ③布に対して送りが合っていないため、文字・数字が整わない。 ④指定の押えを使用していない。 ⑤制御回路にずれが生じた。	71、72ページ参照 71、72ページ参照 73ページ参照 《ミシンのセット》参照 電源スイッチを切り、ふたたび入れて、模様をセットする。
ボタン穴かがりがうましくない。	①布に対して、縫い目のあらかさが合っていない。 ②左と右の縫い目のあらかさが合っていない。 ③伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 ④縫うところの布の厚みに、差がある。	40ページ参照 71ページ参照 38ページ参照 40ページ参照
模様が選べない。	①下糸巻きの状態のままになっている。 ②モードキーが、「1」になっていて、プログラム中に模様 1 ₁ を選んでいる。 ③記憶できる限度を超えて、模様を記憶させている。	9ページ参照 とりけしキーで記憶をすべてとり消してから選びなおす。 29ページ参照



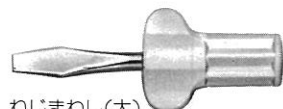
標準付属品



MEMO



目ほどき



ねじまわし(大)



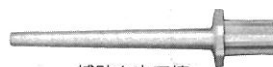
ねじまわし(小)



ミシンブラシ



はさみ



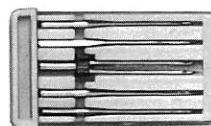
補助糸立て棒



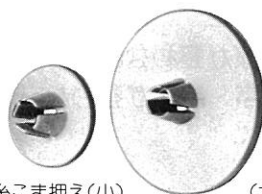
フェルト



ボビン



針と針ケース



糸こま押え(小)

(大)

※糸こま押え(大)はミシンの糸立て棒についています。



ししゅう枠

- * ジャノメミシンでは、全国550の直営支店で万全のアフターサービスを行っています。この手びきにかかっている方法で調整できないときは、どうぞ遠慮なく、近くの支店へご連絡ください。
- * お問い合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると、係員も故障の原因や個所がわかって便利です。
- * お電話いただければ調整員がおうかがいしますから、必要以上に分解などなさらないでください。

ミシンクラフトの楽しさを ひろげる姉妹品。(別売)



ソフトカタン糸



ロー引きカタン糸



しつけ・
切りじつけ糸



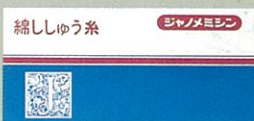
ジャノメコーネル
(ジャノメ特許・家庭用裁縫鉋)



綿ミシン糸
12色



綿しゅう糸
12色



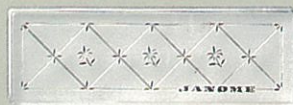
綿しゅう糸
12色
(カムしゅう用)



絹ミシン糸12色



スパンミシン糸
12色



ポピンホルダー



ブルー針



家庭用針



実用新案の実物大型紙
ジャノメ・ファイト・パターン



大きな花模様の
オーバルステッチ



花模様で美しく
フラワーステッチ



ソーイングメジャー



世界のミシン専業メーカー

ジャノメミシン

の目ミシン工業株式会社

東京都中央区京橋3-1-1 ☎03(277)2200

店用